

福島大学 経済経営学類

学修案内



令和 8 年度入学者用

2026

○ 表紙ロゴ(旧校章)について

表紙のロゴは高等商業学校時代に作られ、今も同窓会などで使用されている経済経営学類独自のロゴマークです。

以下、経済同窓会創立50周年時に発行された『信陵50年』より抜粋

“学校のシンボルともいえる校章の図案が誰の考案になったものか明らかではない。学校創設事務所が置かれていた文部省の然るべき人か、あるいは東京美術学校（現東京芸大）に制作を委嘱したものだろうが、最終的には初代校長も参画されて決定したものと思われる。マーキュリーが手にした杖 caduceus の一部分に、FCC の三文字を組み合わせて校章にし、校旗にはもちろん、応援団の団旗にも使用された。福大経済学部になってからは FUE の三文字に置き替えたものをバッジに使っている。

商業高校の中で、校章の図案にマーキュリーの杖を使っているのが数多くある。その源流は東京高商（現一橋大学）の校章にあり、またそのルーツをたどればローマ神話にまでさかのぼる。

商業・学術を司る神、マーキュリーが手に持っている杖には二匹の蛇が巻きつき、杖の頂にははばたいている翼をかたどってある。一橋大学同窓会名簿にはこう解説している—蛇は英知をあらわし、常に蛇のように聡く世界の動きに敏感であることを、また翼は世界に翔け五大州に雄飛することを意味していると。

源流となった東京高商の校章デザインは当時のベルギー人教師アーサー・マリシャルと教頭成瀬隆蔵—後に大阪高商、(現大阪市大) の初代校長—の発案によって明治二十年頃に制定されたという。横文字の入った校章は、当時の市民には物珍しく、真新しい帽子の高商生を眺めるのであった。”

○ はじめに

経済経営学類における教育は、経済学コース（経済理論モデル、グローバル経済モデル）、経営学コース（地域経営モデル、会計ファイナンスモデル）という2本の柱と、コース横断的なグローバル・エキスパート・プログラムから構成されています。経済経営学類では、学生に「経済学と経営学の専門知識」「エビデンスにもとづいて論理的に思考する力」「フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力」「グローバルに思考し実践に進む力」「キャリアを見据え自立し協働する力」を卒業までに身につけてもらいたいという、教育理念・目標を掲げています。

カリキュラムには、入学と同時に所属するスタートアップセミナーから問題探究セミナー、第4セメスターから所属することになる専門演習まで、少人数で学ぶ場が多く用意されています。これらの場を利用して、コミュニケーション力（多様な考えを聞く力、他者に対して説得的に意見を伝える力）、情報収集・整理能力、他者と協働する力を磨いてほしいと思います。

『学修案内』には、経済経営学類の学生のみなさんが卒業までにどのような科目を履修し、必要な単位を積み重ねればよいのか、そのメニューとルールが記載されています。高校までとは異なってセメスターごとの時間割は、学生のみなさんそれぞれが自らの学問的関心にしたがって主体的・能動的に組み立てる必要があります。これまでには見えてこなかった新しいものの見方を体得したり、広い視野を持った判断ができるようになったりと、大学で学ぶことの意義は非常に大きいです。本学類を卒業するとき、ここでの学びがみなさん一人一人の成長した姿となって現れることを期待しています。

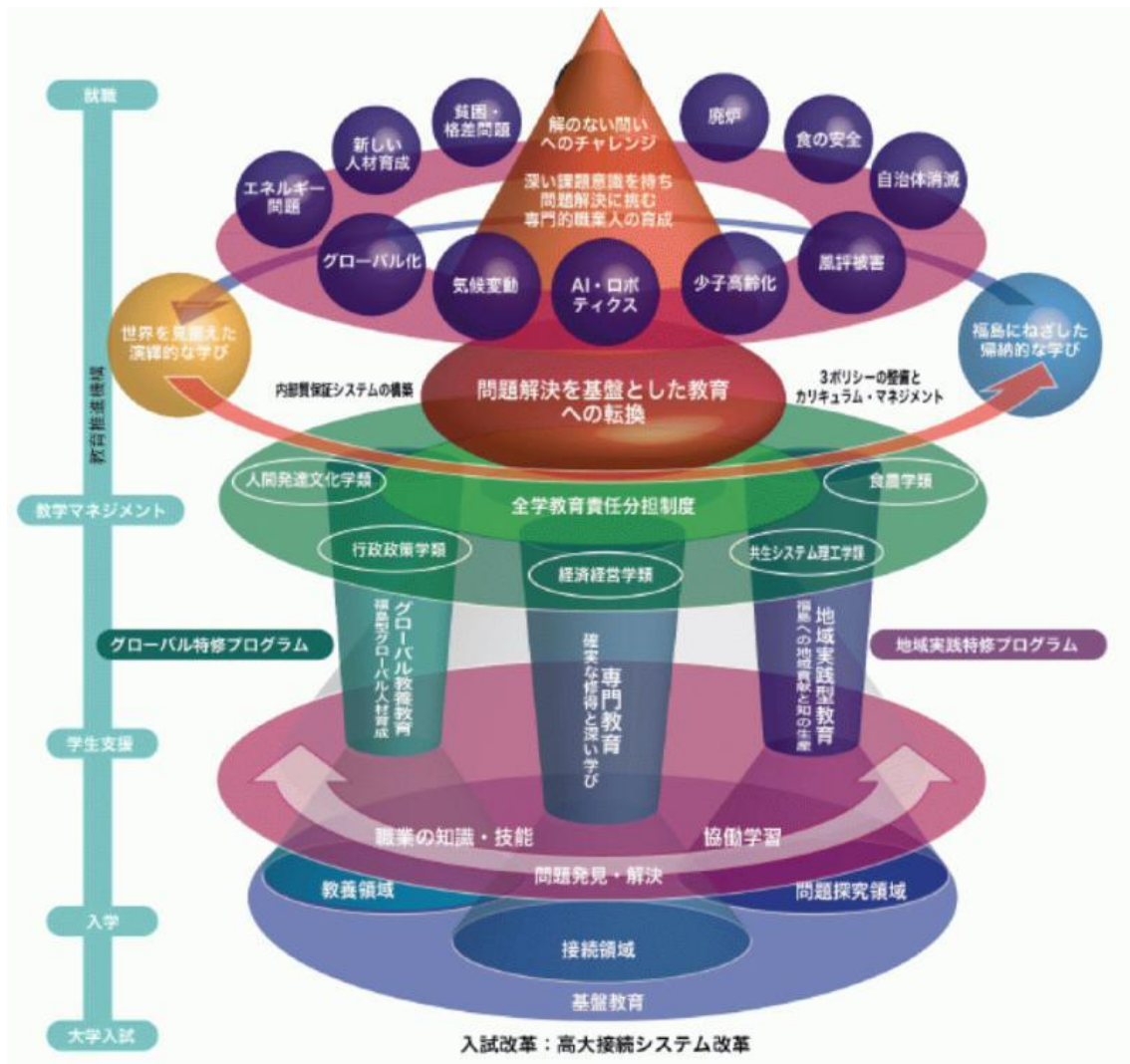
（経済経営学類長 熊沢 透）

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「正解のない問い」に挑む態度などを身につけます。



新しい福島大学の教育理念の概念図

福島大学の教育理念

- 「問題解決を基盤とした教育」への転換
- 「正解のない問題にチャレンジできる人材」の育成

福島大学は、これからの大きな社会の変化に主体的に対応し、新たな社会形成に貢献するため「正解のない問題にチャレンジできる人材」を育成することを教育の目的とします。そのために教育理念を「問題解決を基盤とした教育」へ転換します。

福島県は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地として、21世紀の課題を他よりも一足先に経験した地域とすることができます。加えて、世界的な人口増加や我が国の人口減少、それらに伴う経済問題や資源

問題、環境問題、一方のグローバル化、テクノロジーの加速度的な発達、などの複雑で複合的な課題を解決するためには、教育の在り方を転換しなければなりません。それは、予め準備された答えを探すのではなく、現実から学び、粘り強く問題を探究し、学生自身が問題解決のプロセスに参加することが必要です。上に掲げた図は、このような考え方を概念的に示したものです。

研究倫理に関して

一般的に、大学の役割は①教育、②研究、③社会貢献の3つだと言われており、大学に入学した皆さんは、「教育を受ける」立場にいると同時に「研究を行う主体」であると見なされます。そして、研究を行う上で最も重要なことのひとつに「研究倫理の遵守」が挙げられます。研究倫理とは、非常に簡単に言うと、研究において差別的な立場をとったり偏見による類推や断言をすることによって、過去や現在に生きる誰かを傷つけたり誰かの利益を損ねたりしないことや、研究を行う上で不正行為を行わないという研究を行う者全てが守らなければならない規範・規則や考え方のことです。

さて、先にも述べたように、皆さんは教育を受ける立場にいると同時に研究を行う主体でもあります。研究という自分とは関係ないものであると思いがちかもしれませんが、しかし、大学では学問を「教えてもらう」のではなく、自ら主体的に問いを立て、探究し、学んでいく姿勢が求められます。また、自らが学んだことをレジュメやスライドにまとめてプレゼンテーションを行ったり、レポートを執筆するといった機会が数多く存在します。さらに、大学での学びの集大成として「卒業研究」を行い、その成果を「卒業論文」として執筆することが一般的です。これらの、皆さんが大学での学びの中で日常的に行わなければならないことの全てが学問研究の一部であることを自覚しなければなりません。では、具体的にはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。ここでは、皆さんが1年生の時点から取組む機会の多い「レポート」を例に見ていきましょう。

レポートを作成する際は、教員から提示された、あるいは自分で設定したテーマについて、文献を読んだり、関連する資料・データを収集・分析したりして考察を深めていく必要があります。インターネットが普及するとともに、近年では生成 AI のような新しい技術が登場し、関連資料やデータの収集等は昔に比べて格段に容易になりました。こうした ICT 技術を活用できることも、大学生にとっては非常に重要なスキルのひとつです。一方で、これらの新しい技術は、他者が作成した、または AI が出力した文章や図表などをそのまま取り込んで使うことも容易にできてしまいました。少し難しい言葉になりますが、他者が作成した文章や図表などを勝手に自分のものとして使うことを「剽窃（ひょうせつ）」と言います。生成 AI の出力結果も、そのまま使ってしまうと、剽窃と判断されてしまう場合があります。この剽窃という行為は研究不正の代表的なもののひとつであり、残念ながら、大学生が作成するレポートにおいても時折見られるものです。レポートは必ず自分の言葉で書くことが基本となります。とは言え、先人の知見を参照することはレポートを作成する上では避けて通れません。生成 AI も、適切に利用すれば、学修効率を上げることができるかもしれません。そこで、他者の作成した文章や図表などをレポートに掲載する際は、「引用」を行い、誰の文章・図表等を引用したかを示す「出典」を明示する必要があります。生成 AI については、利用した事実や、生成 AI の出力結果を利用した該当箇所等を明記しなければならない場合があります。一般的な引用や出典明示のルールや方法は、これからスタートアップセミナーや様々な科目で学んでいくこととなります。また、生成 AI については、授業等における利用の可否・方法等がそれぞれの授業科目によって異なることがあるため、生成 AI を利用する際は、事前に担当教員や指導教員に確認することも必要になるでしょう。まだピンとこない部分も多いかもしれませんが、①「引用」と「出典の明示」を用いて、自分で作成したものと他者の作成したものを明確に区別しなければならないということ、②生成 AI の出力結果を安易にそのまま用いてはならないということは、現時点で強く認識しておいて

ください。

研究倫理を逸脱することは、明確な不正行為であり、単位の取消や場合によっては卒業できなくなってしまうような重大なことを自覚してください。研究倫理について学ぶ機会はきちんと用意されています。研究倫理を守り、皆さんが健全に学問研究に取り組んでいくことに期待しています。

福島大学高等教育企画室

令和8(2026)年度 教務関係スケジュール

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
前期	4月	水	木	金	土	日	月	火	水	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月②	火②	水②	木③	金③	土③	日	月③	火③	水	木		
		春季休業					入学式	授業期間															履修登録期間(4月6日~4月19日まで)					履修登録・修正期間(4月20日~4月26日まで)					みなし水③
							新入生ガイダンス		結果発表		抽選1次		抽選2次		抽選3次																		
		金④	土④	日	月	火	水	木④	金	土⑤	日	月⑤	火④	水④	木⑤	金⑤	土	日	月⑥	火⑤	水⑤	木⑥	金⑥	土⑥	日	月⑦	火⑥	水⑥	木⑦	金⑦	土⑦	日	
中期	5月	授業期間															Lポートフォリオ目標設定期間(履修登録完了後~5月末日まで)																
		みなし月④					履修撤回					授業なし(新歓対応)																					
	6月	月⑧	火⑦	水⑦	木⑧	金⑧	土⑧	日	月⑨	火⑧	水⑧	木⑨	金⑨	土⑨	日	月⑩	火⑨	水⑨	木⑩	金⑩	土⑩	日	月⑪	火⑩	水⑩	木⑪	金⑪	土⑪	日	月⑫	火⑪		
		授業期間																															
7月	水⑪	木⑫	金⑫	土⑫	日	月⑬	火⑫	水⑫	木⑬	金⑬	土⑬	日	月⑭	火⑬	水⑬	木⑭	金⑭	土⑭	日	月⑮	火⑭	水⑭	木⑮	金⑮	土⑮	日	月⑯	火⑯	水⑯	木	金		
	授業期間																																
8月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
	正規試験・補講期間(7/30~8/7)								夏季休業(集中講義・各種実習等)																								
																Lポートフォリオ自己評価期間(正規試験終了後~成績発表前日(9月7日)まで)																	
											追試		夏季一斉休業					追試														卒論	
9月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水			
	夏季休業(集中講義・各種実習等)															Lポートフォリオ自己評価期間(~成績発表前日(9/7)まで)																	
											成績発表・不服申立(全学生)																					学位記授与式	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31											
後期	10月	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月②	火②	水②	木③	金③	土③	日	月③	火③	水③	木④	金④	土④	日	月④	火④	水④	木	金	土										
		授業期間															履修登録期間(10月1日~10月14日まで)																履修登録・修正期間(10月15日~10月21日まで)					授業なし(福大祭)				
		抽選1次					結果		抽選2次		抽選3次		みなし月②																					履修撤回								
		日	月⑤	火	水⑤	木⑤	金⑤	土⑤	日	月⑥	火④	水⑥	木⑥	金⑥	土⑥	日	月⑦	火⑤	水⑦	木⑦	金⑦	土⑦	日	月⑧	火⑥	水⑧	木⑧	金⑧	土⑧	日	月⑧											
11月		授業期間																																								
		Lポートフォリオ目標設定期間(履修登録完了後~11月末日まで)																																								
	12月	火⑦	水⑨	木⑨	金⑨	土⑨	日	月⑨	火⑧	水⑩	木⑩	金⑩	土⑩	日	月⑩	火⑨	水⑪	木⑪	金⑪	土⑪	日	月⑪	火⑩	水⑫	木	金	土	日	月	火	水	木										
		授業期間																									冬季休業															
12月																	みなし金⑫					年未年始一斉休業																				
	1月	金	土	日	月	火⑪	水⑬	木⑫	金⑬	土⑫	日	月	火⑫	水	木⑬	金	土	日	月⑬	火⑬	水⑭	木⑭	金⑭	土⑬	日	月⑭	火⑭	水⑮	木⑮	金⑮	土⑭	日										
		冬季休業					授業期間															授業なし(共通テスト対応)																				
		年未年始一斉休業					みなし月⑫					入構 大学入学共通テスト 禁止																														
1月	2月	月⑮	火⑮	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月												
		授業期間					正規試験・補講期間(2/4~2/13)										春季休業																									
		卒論					みなし土⑮					Lポートフォリオ自己評価期間(正規試験終了後~成績発表前日(3月1日)まで)																														
												追試		追試		前期入試																										
2月	3月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水										
		春季休業																																								
		自己評価					成績発表・不服申立(全学生)					後期入試																					学位記授与式									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31										

★2月3日(水)の「みなし土曜日」の授業は、夜間6、7時限に行われます。(1~5時限は授業なし)

★ポートフォリオ(学修成果シート)は、前期、後期それぞれ目標→自己評価の順番で登録します。各自期限内に入力を完了してください。入力が完了しないと、次セメスターの履修登録ができなくなります。

履修に関する基本的事項

学修案内はみなさんが卒業するために、あるいは各種資格を取得するために必要な履修方法などの情報を掲載しています。よく読んで、それぞれ自分自身の「履修計画」を立ててください。

各学類には、卒業要件として履修基準表が示されています。履修基準表では、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」で構成される「基盤教育」に、「専門教育」「自由選択」を加えて大きく3つに区分されています。基盤教育とは、大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけることを念頭に置いた区分です。専門教育とは、基礎的科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために身につけるべき専門的な知識や技術を学ぶための区分です。自由選択は、他学類や他コースの科目を横断的に履修して学際性の幅を広げることを念頭に置いた区分です。

学修案内に記載されない個別の連絡事項については、学類ごと所定の掲示板に掲示しますので、毎日立ち寄り確認してください。授業担当教員からの連絡事項などは、LiveCampus（ライブキャンパス／教務事項を含む統合 WEB システム。「LC」と省略します）の案内のみの場合もあるので、こちらも1日1回は確認してください。

学修案内の記載事項や掲示を見落として単位が修得できず、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。不明な点があれば、教務課の各学類係で確認してください。

学修案内の修正、変更は随時行います。掲示や「LC」でお知らせしますので、確認漏れのないようにしてください。特に4月・10月のセメスター始めは教室変更など多数の修正・変更が生じると予想されます。

1. 授業時間帯、セメスターについて

(1) 単位と授業時間

大学で開講される科目にはそれぞれ単位数が定められています。みなさんが授業を受講し、担当教員によって一定の水準に達したと評価されたときにこの単位が認められます。卒業もしくは各種資格を取得するためには、定められた科目について単位の認定を受け、必要な単位数を修得しなければなりません。

授業科目の単位数は、「大学設置基準」により1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法や、授業時間外の学修等を考慮して大学が定めるとしています。

本学における1時限（単位算出上の用語として1コマと称す）90分の授業は、設置基準上の2時間とみなします。

■設置基準でいう45時間1単位を満たすためには、自宅等において授業時間外の自学自習（予習・復習）を行うことが求められていることに留意してください。

【 授業時間表 】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間 開講科目の授業を 行わない。
2時限	10:20～11:50	
(昼休み)	(11:50～ 13:00)	
3時限	13:00～14:30	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30	18:20～19:50
7時限	19:40～21:10	

※ 各学類授業時間割表（教務課 HP）

※ 専門科目の一部を夜間主の授業時間帯（平日6・7時限、土曜3～6時限）に開講することがありますので、注意してください。

※ 夜間主の授業は、通常、平日の6・7時限、および土曜日の3・4時限に行われます。

(2) セメスター

本学では、在学経過年とともに自動的に学年（年次と呼ぶ）が進行します。在学しなければならない4年間を年2期（4～9月を前期、10～3月を後期）に分け、各期を「セメスター」と言います（4年間で計8セメスターとなる）。このため、1年次前期は第1セメスター、同後期は第2セメスターとなり、順次進行してゆくことになります。

ただし、食農学類生については、各年次における進級要件が定めてあるため、進級要件を満たせなかった場合は、当該セメスターに留め置かれることになります。

(3) みなし曜日

本学では半期15コマの授業日程を確保するために「みなし曜日」という仕組みを取り入れています。年により違いがありますが、暦の関係でいずれかの曜日が半期15コマに足りないケースが生じます。そこで本来の曜日ではない「みなし曜日」を設定し、不足する曜日分の日程を確保するというものになっています。例えば、「水曜日」なのに「みなし月曜日」の設定がある日は、水曜日の授業を行わず、月曜日の授業を行います。実際のみなし曜日については「教務関係日程表」で確認しましょう。

2. 履修科目の登録手続きについて

- (1) 授業を履修するには、必ず履修登録をしなくてはなりません。履修登録は、インターネットに接続されたパソコンから、「LC」に接続して行います。詳しくは、新入生ガイダンスで配布した「共通ガイドブック」や「LC」の学内共有ファイルにあるマニュアルを参照してください。なお、「LC」はパソコンでの使用を前提としたシステムであり、スマートフォンやタブレット端末での動作は保証していません。ID・パスワードを忘れた場合は、情報基盤センター1階事務室で手続きをしてください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

- (2) 定められた期間内に登録をしなかった授業科目については、いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。
- (3) 特定の授業科目を履修（修得）した後でない受講できない等の制限が設けられている科目もありますので、学修案内・時間割表等で確認の上、登録するよう注意してください。
- (4) 次の場合、履修登録の際「LC」でエラーとなり、履修は認められませんので注意してください。
- ① 二重履修・・・同一時限に同時に開講する2つ以上の授業科目を履修すること。集中講義は日程が1日でも重ならないように注意してください。
 - ② すでに修得済みの授業科目（入学前の既修得単位として認定された科目を含む）と同一の授業を再び履修すること。
 - ③ 同時履修・・・同一の授業科目を同一セメスターに複数受講すること。
- (5) 履修登録期間は教務関係日程表を参照してください。期間内に履修登録と履修登録内容の確認を「LC」の時間割表画面で行ってください。
- (6) 授業科目の中には、教室の収容人員の都合上、受講者を制限するものがあります。特に基盤教育の授業科目の受講調整は、一定の手続きにしたがって行われます。詳細は接続領域、教養領域、それぞれの履修方法の説明で確認してください。また、専門教育科目でも同様に受講者を制限する場合があります。入学時におこなうガイダンスや掲示でも説明をおこないますので、必ず指示にしたがってください。調整対象となった科目は、受講許可を得なければ履修登録ができなくなるので十分に注意してください。

3. 試験及び成績について

(1) 試験及びレポートについて

① 試験について

試験には、厳格な規則（試験規則など）が適用される正規試験と、担当教員の判断で随時行われる平常試験があります。正規試験を欠席した場合には、追試験または履修撤回の手続きが認められた場合を除き、自動的に不合格となります。正規試験は、授業期間終了後の決められた期間（教務関係日程表参照）に実施されます。

正規試験を実施する科目は試験期間開始日の2週間前までに、正規試験の日程は試験期間開始日の1週間前までに発表されます。試験の時間割は、通常の授業の時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。

【試験期間の授業時間表】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間 開講科目の試験 を行わない。
2時限 (昼休み)	10:25～11:55 (11:55～12:45)	
3時限	12:45～14:15	13:15～14:45
4時限	14:30～16:00	15:00～16:30
5時限	16:15～17:45	16:45～18:15
6時限	18:00～19:30	18:45～20:15
7時限	19:45～21:15	

また、試験日程発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので、試験期間中の掲示には特に注意してください。

正規試験を受験する際の諸注意事項は、学生受験心得に定められていますので、受験の前に熟読しておいてください。また、福島大学試験規則も同様に熟読してください。さらに、以下の事項にも留意してください。

追試験制度

病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は、追試験を認めることがあります。追試験の受験を申請する者は、所定の期間に追試験受験願を提出しなければなりません。その際に、病気の場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

公共交通機関の突発的な事故等による追試験は、以下を条件として認められることに注意してください。

- ・試験開始 5 分前に余裕をもって間に合うように、通常の公共交通機関を利用して登校しつつあったが、当該事故等によって試験開始時刻に遅れた。
- ・当該事故等について、試験日程の変更や試験開始時刻の変更などの措置がとられなかった。

不正行為に対する処分

不正行為（カンニング等）を行った場合、当該科目だけでなく、そのセメスターの履修登録がすべて取り消しになるほか、学則に基づき懲戒処分を受けることとなります。

学生証の携帯

学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。筆記試験の時間中は、学生証を机上の見やすいところに置いてください。

②レポートについて

正規試験としてのレポート試験は、筆記による正規試験と同様の扱いとなります。すなわち、未提出者は正規試験を欠席したものとみなします。

上記以外のレポート（平常レポート）は、科目ごとの指示に従ってください。教務課へ提出する場合は、教務課事務室前に設置されている平常レポートボックスに入れてください。なお、期限を過ぎたものはいかなる理由があっても受け付けません。

レポートの体裁は、レポート試験・平常レポートともに必ず次のような表紙をつけ、担当教員から特に指示があった場合を除き、A4版 1 枚あたり 1400～1500 字程度を目安として作成し、複数枚の場合は必ずステープラー（ホチキス）で綴じて提出してください。

表紙見本
(本文は 2 枚目からとする)

—	—
科目名	○ ○ ○ ○ ○
曜日・時限	曜日 時限
担当教員	△ △ △ △ △
所属学類	◆◆◆◆学類
学籍番号	※ ※ ※ ※ ※
氏 名	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
提出年月日	年 月 日

【レポート作成の際の注意事項】

文献やインターネット上の文章・図・表等をレポートに利用する際には、利用した箇所が明らかになるように、必ず出典を明記してください。

以下の行為は不正行為になります。絶対に行ってははいけません。→「研究倫理に関して」を参照

- ◆作成者の許諾のあるなしに関わらず、他者が作成したレポートを盗用し、自分が作成したものと偽って提出すること。
- ◆出典を明らかにせずに、文献やインターネット上の文章・図・表等の内容をコピーし、レポート作成に利用すること。

特に、インターネット上の文章・図・表等を、出典を明らかにせず、単に「コピー/貼り付け」してレポートを作成することは、著作権を侵害するという点で社会的にも許されない行為です。複数の文章・図・表等を組み合わせてコピー/貼り付けした場合でも同様です。レポート作成において、文献やインターネット上の文章・図・表等を利用する際のルールについてわからない場合には、担当教員に相談してください。

また、近年、ChatGPTをはじめとする「生成 AI」が注目を集めています。

レポート作成に生成 AI を用いる場合、生成 AI に対する理解を深めた上で、適切に利用してください。→「福島大学における生成 AI の利用に関するガイドライン」を参照

生成 AI は、適切に利用すれば学修や作業の効率化が図られること等が見込まれます。しかし、適切に利用しないと、研究不正や情報漏洩に繋がってしまう危険性も含んでいます。また、依存しすぎると自身の学びに繋がりません。

授業等における生成 AI 利用の可否は、それぞれの授業科目によって異なることがあるため、生成 AI を利用する際は、事前に担当教員や指導教員に確認してください。

(2) 単位の認定及び成績評価について

本学の単位の認定は、各科目について次の5段階で評価し、S～Cを合格とします。各科目の評価方法等は、シラバスに明示されています。

単位の認定は、正規試験としての筆記試験やレポートによるばかりでなく、平常試験や平常レポート等で行われることもあります。

	評語	学修成果	評点	GP
合格	S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90点～100点	4
	A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80点～89点	3
	B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70点～79点	2
	C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60点～69点	1
不合格	F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59点以下	0

※GP (Grade Point) については、「4. GPA制度について」を参照してください。

【単位認定上の注意事項】

- ・ 授業料を所定の期間に納入しなかった者（授業料全額免除者を除く）が履修する科目の単位認定は、授業料の納入が確認された後に行います。したがって、授業料未納によって除籍された者が未納期間に履修していた科目は、単位を認定しません。
- ・ 集中講義の単位認定『セメスター』について
集中講義の日程ならびに単位認定『セメスター』については、履修登録手続き前に掲示します。開講日程（時間帯）が1日でも重複している場合は、いずれかを削除・撤回しない限り両方とも履修できません。

(3) 成績発表表について

各セメスターの成績発表日以降、「LC」で成績を確認することができます。各セメスターの成績発表日（教務関係日程表参照）以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行いません。成績の確認は、メンテナンス期間を除き随時可能です。（成績発表前日までが学修ポートフォリオの入力期限となっていますので、忘れないようにしてください。）

(4) 不服申立てについて

成績評価について不服がある場合には、セメスターごとの所定の期間内（教務関係日程表参照）に申立てをすることができます。不服申立ては、「LC」により行います。申請方法等の詳細は、掲示によりお知らせします。

この「不服申立て」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし、非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立て」については教務課で対応します。

成績に対する不服は、単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは、申し立てることはできません。「不服申立て」にあたっては、シラバスの成績評価基準による自己

採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど、不服申立てを行うに足る合理的な根拠を明確に説明することが必要です。要件を満たさない申立ては受理されません。

4. GPA制度について

GPA とは何か – 「量」より「質」の学修

卒業するためには、124 単位を修得しなければなりません。この「単位」は、大学における学修の「量」をカウントするものです。これに対して、GPA とは、大学で修得した単位の「質」(クオリティ)を測定する尺度です。

GPA は、学生が履修した科目の成績評価 (S、A、B、C 及び F) をそれぞれ 4、3、2、1、0 に点数化 (これを Grade Point = GP といいます) し、履修科目の 1 単位当たり平均 GP の値を計算します。本学では、例えば奨学金の募集上の基準や研究室への所属決定の際の基準など様々な形で利用しています。また、就職において成績を重視する企業も増えていますので、採用上の判断材料として使われる場合もあるようです。

GPA は、学修の「量」より「質」を求める制度ですので、1 セメスター当たりの履修登録単位数を制限する **Cap 制度**があります。

GPA 制度は、履修登録した授業科目に対する学生の履修責任を前提としています。履修登録撤回の手続きをとらずに、ある科目の学修を途中で放棄した場合には、不合格と同様に扱われ、GPA を大きく引き下げることになります。このようなことにならないように、よく考えて履修計画を立ててください。その際、履修計画の手引きとして、シラバスがあります。シラバスには、その授業科目でどのようなことを学修するのか (授業概要・授業計画)、また学修の達成度をどのように評価するのか (評価方法) が、担当教員によって詳細に示されています。

もちろん、学修の「質」の向上は、学生の努力だけで達成されるものではなく、教員の教育責任も当然の前提となります。授業でよく理解できないところがあったら、**オフィス・アワー**などを利用して、直接担当教員に質問をしましょう。また、シラバスに書かれていた「評価方法」に照らして、成績評価に疑問を感じた場合には、授業担当教員に**不服申立て**をすることもできます。

GPA の最高点は 4.0 です。より高い GPA を獲得できるように、「量」だけでなく「質」の向上も目標として学修してください。

前頁の表で、S~C の評価及び不合格 F を 4~0 に点数化したものを GP (Grade Point) といい、さらに、以下の式によって、1 単位当たり平均 GP の値を計算したものを GPA といい、GPA は、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までの値を計算します。

$$\text{GPA (Grade Point Average)} = \frac{(\text{修得した各科目の単位数} \times \text{Grade Point}) \text{ の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

(注) GPA対象外科目

以下科目はGPA算定上、除外されます。

全学類で共通	自主学修プログラム、「N」評価科目（他大学等で修得した科目等の認定単位）
人間発達文化学類	特別支援学校教育実習（基礎及び応用）、教育実習（事前・事後指導含む）、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、博物館実習、美術館実習、社会教育課題研究、社会教育実習
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、キャリアモデル学習、コア・アクティブ科目
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農地域実習

【GPA関連諸制度】

GPA制度の下には、これが有効に機能するようにさまざまな制度が設けられています。以下の(1)～(2)の制度を正しく理解していないと、GPAの計算に不利な結果を生ずる可能性がありますので、注意してください。

(1) 履修登録上限 (Cap) 制度について

本学では、単位修得に必要な予習・復習の時間を確保し、さらに、受講科目の「単位認定基準」が達成されるように、Semesterごとに履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを「Cap制度」といい、以下のようになっています。

1 Semester当たり 24 単位。（共生システム理工学類のみ 30 単位）

(注) Cap除外科目

以下の科目はCap計算上、除外される科目になります。

全学類で共通	社会とデータ科学の基礎、集中講義、自主学修プログラム、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目
人間発達文化学類	教職に関わる科目（免許取得を希望する教職登録者のみ。ただし、1年次は希望しない学生でも対象科目は除外）
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、社会教育実習、社会福祉課題研究、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、中国語コミュニケーション、英語コミュニケーション、English Presentations
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目

共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農地域実習

(2) 履修登録撤回制度について

履修登録をした科目について、授業内容が予想していたものと違っていた、または授業についていけない、などを理由にして所定期間内に手続きをした者に、履修登録撤回を認める制度を「履修登録撤回制度」といいます。

これは、上記のような場合に、学生の自主的な履修登録撤回によって、低いG P を取得しG P Aが低下することを回避するための措置です。

履修登録撤回期間

具体的な日程は「教務関係日程表」により確認してください。

集中講義については、集中講義開始日の翌日まで履修登録撤回を認めます。ただし、食農学類開講の「畜産学特別実習」と「森林特別実習」については、履修登録撤回を認めません。また、共生システム理工学類の実習関係の集中講義に関しては、6月30日までを撤回期日とします。

履修登録撤回は、学生の履修計画を前提とした例外的な措置なので、ある科目を履修撤回した場合に、代わりに別の科目を追加登録することはできません。

なお、履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、病気や事故などやむをえない理由で、履修登録をした科目の受講を継続することが困難になった場合などは、例外的にさかのぼって履修登録撤回を認めることがあります。入院していた証明書などを添付の上、授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、教務課へ申請する必要があります。

(注) 履修登録撤回を認めない科目

以下の科目は、履修撤回が認められません。

全学類で共通	受講調整実施科目、スタートアップセミナー、社会とデータ科学の基礎、キャリア形成論、健康運動科学実習、英語A、英語B、英語(夜間主)、英語以外の外国語（基礎、基礎（特設）、応用）、スポーツ実習、情報リテラシー、問題探究セミナーⅠ
人間発達文化学類	問題探究セミナーⅡ、卒業研究科目
行政政策学類	必修科目、単位互換を除く放送大学科目（夜間）
経済経営学類	「全学類で共通」欄のとおり（専門科目における制限は無し）
共生システム理工学類	必修科目
食農学類	「畜産学特別実習」「森林特別実習」

5. シラバスについて

「シラバス (syllabus)」とは、「授業計画」のことで、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価の基準や方法、予習・復習についての指示、教科書・参考書、履修条件などが記載されています。学生のみなさんは、履修計画の参考に使うほか、授業期間全体を通じた授業の進め方を確認し、各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることができます。

履修計画を立てる際には、まず年度始めのガイダンス、学修案内によりその年度にどの科目を受講すべきか、受講可能であるかを確認します。学修案内の科目一覧には、授業の詳細な内容までは記されていないので、シラバスを参照して履修計画を立てることになります。授業全体に対する現在の授業の位置づけの確認や、予習・復習のためのアドバイス、参考書など、勉強の参考になる情報が書かれているので、必ず自分の目で確認してどんどん活用してください。

また、シラバスには当該科目に関連する DP (ディプロマ・ポリシー) の各項目の割合が示されています。後段で説明がありますが、各学生の学修履歴の記録やふり返しなどのツールとしてラーニング・ポートフォリオ (L ポートフォリオ) 上で活用するためのものです。個々の授業を履修する際に特に意識する必要はありませんが、DP の各割合に応じてポイントが算出されるので、単に科目の単位 (評価) だけでなく、DP の達成度も客観的に計ることが可能です。L ポートフォリオでは卒業するまでセメスターごとに、自己評価、授業評価を行い、それを 4 年間積み上げ、卒業までの自己の成長を記録します。

(1) 「LC」のシラバス

福島大学では、学生の履修登録システムとして「LC」を導入していますが、履修登録時や授業履修時に参考になるように、各授業のシラバスも「LC」から閲覧できるようになっています。「LC」にログインし、「シラバス」の項目から履修したい授業科目を検索して参照してください。

なお、自宅やアパート等、大学外から「LC」のシラバスを参照したい場合は、<https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>より「LC」を選択し参照してください。(教務課 HP からログイン不要で参照可能なシラバスは簡易版です)

(2) 詳細シラバス

教員によっては、授業の最初の時間に、「LC」に掲載したシラバスに加え詳細なシラバスを配布する場合があります。また、授業時の資料配布やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので、授業時のアナウンスを参考にしてください。

6. オフィス・アワーについて

学生は授業の前後や教員の都合の許す時間帯に、履修上の相談や授業に関する質問等を行うことができますが、「オフィス・アワー」とは、教員 (非常勤講師を除く) が研究室等において、そうした相談や質問に応じるため、あらかじめ設定されている時間帯のことです。各教員は、毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し、研究室等に待機しています。学生のみなさんは、オフィス・アワーを利用して研究室を訪れ、いろいろな質問や相談を行うことができます。非常勤講師は研究室を持たないため、質問などは授業前後の時間を利用するなどしてみてください。

大学の授業は、一般に 15 回にわたって体系的に構成されているため、一つの疑問点をそのままにしていると、授業全体が理解できなくなるおそれがあります。まさに、「聞くは一

時の恥、聞かぬは一生の恥」です。また、疑問点を質問するばかりでなく、オフィス・アワーを利用して、その授業科目のより発展的な勉強をするのにはどうすればよいか、担当教員にアドバイスを求めるのもよいでしょう。各教員のオフィス・アワーの時間・場所等についてはシラバスで調べることができます。

7. その他履修上の注意点

- ①各セメスターの所定の期間に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合、当該セメスターの履修を認めないので、注意してください。
- ②各科目の履修方法等に従い履修してください。これに反する履修は認めません。違反した場合、単位の修得ができなくなる場合があります。
- ③指定された履修年次（セメスター）で単位を修得しないと、以降の学年での履修計画に支障を来すことがあるので、注意してください。
- ④出席不良により、正規（平常）試験の受験を認めないことがあるので、注意してください。
- ⑤講義等の録画・録音は、原則として認めません。ただし、やむを得ない場合は、担当教員の許可を得た上で認めることがあります。板書等を写真に撮る場合も担当教員の許可を得た上で撮影してください。

履修上の諸手続きについて

1. 学生への連絡方法等

学生に対する全ての諸連絡は、「LC」連絡もしくは共通講義棟（S棟）2階（基盤教育、人間発達文化学類、行政政策学類(夜間主含む)、経済経営学類、共生システム理工学類、食農学類、掲示板に掲示します。休講や授業に関する連絡事項など教務上の全ての諸案内は、「学修案内」に記載する他、掲示により周知することになるので、毎日掲示板を見る習慣を身に付け、見落としによる過誤が生じないようにしてください。

なお、休講・補講等の情報は「LC」により閲覧できます。

また、基盤教育科目及び他学類の授業科目に関する連絡等は、当該学類等の掲示板に掲示されますので見落とさないよう留意してください。

掲示物には履修や成績に関わる重要な内容が記載されていますので、絶対にはがしたり、汚損したりしないようにしてください。

2. 証明書の発行手続き

(1) 証明書自動発行機で発行するもの

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、JRの学割証及び通学定期券購入証明書は、共通講義棟（S棟）2階（教務課前）に設置の自動発行機により、交付を受けることができます。利用できる時間は8:30～20:30ですが、土日・祝日、夏期・年末年始の休業日及び入試など大学行事により講義棟への出入りの出来ない日は利用できないので、必要日から余裕を持って手続きをしてください。

請求には情報基盤センターから発行される、IDとパスワードが必要です。発行機にトラブルが生じた時は、至急対応しますので教務課職員にお知らせください。

卒業後の証明書申請手続きは、本学のHPに掲載されています。発行まで時間のかかる場合もありますので、余裕を持って申請してください。

なお、成績証明書等の厳封を必要とする場合は、証明書自動発行機で交付された証明書を窓口を持参のうえ申し込んでください。

自動発行機で取得できる証明書

学割証	最大、1日3枚まで発行できます。
在学証明書	—
JR通学定期券購入証明書	「LC」に学籍情報を登録していて、定期券が必要な地域に在住の学生のみ発行できます。福島交通バスなどJR以外は学生支援課で申し込みします。
成績証明書	—
卒業見込証明書・ 修了見込証明書	「LC」の就職システムに志望調査登録をした最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
教育職員免許状 取得見込証明書	教員免許の資格希望を出している最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
健康診断証明書	保健管理センターで定期検診を受けた学類生、大学院生のみ。 また、異常が認められた学生には発行されません。

(2) 窓口で発行するもの

上記(1)以外の証明書については、教務課各学類係で交付しますので、教務課各学類係にご相談ください。なお、申し込みの翌日以降の発行となりますので、余裕をもって申し込んでください。

3. 休退学の願出

休学、退学を希望する事態が生じた場合は所定の手続きが必要となるので、速やかに教務課各学類係に相談してください。休学や退学の異動の場合は授業料の納入期と関わりが生じ、手続きの遅れが多大な経済的負担を生じる場合がありますので、次のことに留意ください。

(1) 授業料は年間2回に分け(前期・後期)その納入期限を前期は4月に、後期は10月に納入することになっています。納入方法は入学時に届け出た銀行等の口座より引き落としとなるので期日までに所定額を入金しておいてください。

(2) 休学や退学の事由が生じた場合、在籍している学期分の授業料は納入しなければならなくなるので留意してください。このため、9月及び3月時の学期末に生じた異動は速やかに教務課各学類係まで申し出る必要があります。

4. 改姓・改名の届出

改姓・改名をした場合は、教務課各学類係に申し出てください。

5. 窓口受付時間

窓口受付時間は、原則として下記の曜日・時間です。

曜日	月～金
受付時間	9:00～12:30
	13:30～17:00
	17:00～19:40(夜間主生のみ対応)

【注意事項等】

特別の場合を除き、窓口時間外の受け付けは一切行いません。また、土曜・日曜・祝日・休日、入学試験当日及びその準備期間など、別途指定した期間においても窓口業務を行いません。

電話による質問や問合せは誤解や間違いを生じる可能性があるため原則対応しません。受付時間内に直接窓口で確認してください。また、外部からの学生呼び出し等連絡を依頼されても、応じられません。

掲示等について不明な点がある場合は、教務課窓口で確認してください。

2026（令和8）年度 基盤教育科目授業一覧表

【 】書きは、2018年度以前入学生用科目名称

社会とデータ科学の基礎

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	社会とデータ科学の基礎（教育実践）	植田 啓嗣 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（心理学・幼児教育）	原野 明子 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（特別支援・生活科学）	和田 恵 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（芸術・表現）	今尾 滋 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（人文科学）	滋澤 尚 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（数理自然科学）	中田 文憲 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（スポーツ健康科学）	小川 宏 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（行）	西田 奈保子 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（経）	佐藤 英司 ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（理）	中村 勝一・樋口 良之 ほか	-	-	1	2	遠隔・対面	
前期	社会とデータ科学の基礎（食）	高橋 秀和 ほか	-	-	1	2	遠隔	

キャリア形成論

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	キャリア形成論（人）	伊藤 雅隆 ほか	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論（行）A	中里 真・徳竹 剛	水	2	1	2	L1	
前期	キャリア形成論（行）B	中里 真・徳竹 剛	水	2	1	2	M21	
前期	キャリア形成論（経）	野口 寛樹	水	2	1	2	L4	
前期	キャリア形成論（理）	馬場 一晴	水	2	1	2	L3	
前期	キャリア形成論（食）	小山 良太	水	2	1	2	食大講	

健康運動科学実習

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	雨天時 教室	備考
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		行政政策学類
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	2	1	1	S44	
前期	ソフトボール	竹田 隆一	月	2	1	1	M2	
前期	サッカー	(非)平山 相太	月	2	1	1	M21	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1		
前期	バレーボール	小川 宏	月	3	1	1		人間発達文化学類
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S42	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S44	
前期	ソフトボール	竹田 隆一	月	3	1	1	M3	
前期	サッカー	(非)平山 相太	月	3	1	1	M34	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		経済経営学類
前期	テニス	蓮沼 哲哉	月	3	1	1		
前期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1		
前期	バドミントン	本嶋 良恵	火	3	1	1	M4	
前期	卓球	(非)菅家 礼子	火	3	1	1	M33	
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	火	3	1	1		共生システム理工学類
前期	サッカー	松本 健太	火	3	1	1	M34	
前期	テニス	杉浦 弘一	火	3	1	1		
前期	バレーボール	(非)佐藤 浩明	金	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	3	1	1	S14	
前期	ソフトボール	本嶋 良恵	金	3	1	1		食農学類
前期	卓球	(非)川口 鉄二	金	3	1	1	M34	
前期	テニス	(非)沼田 尚	金	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	4	1	1		
前期	卓球	(非)川口 鉄二	金	4	1	1	S41	
前期	テニス	(非)沼田 尚	金	4	1	1	S42	

英語AⅠ・AⅡ

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考	
前期	英語AⅠ01	(非)飯嶋 良太	月	2	1	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類	
前期	英語AⅠ02	(非)齋藤 伸	月	2	1	1	S32		
前期	英語AⅠ03	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S31		
前期	英語AⅠ04	(非)ウィリアム・スコット	月	2	1	1	S43		
前期	英語AⅠ05	(非)高橋 了治	月	2	1	1	S34		
前期	英語AⅠ06	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S21		
前期	英語AⅠ07	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S14		
前期	英語AⅠ08	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S38		
前期	英語AⅠ09	(非)ロナルド・スコット	月	2	1	1	S22		
前期	英語AⅠ10	(非)小室 竜也	月	2	1	1	S35		
前期	英語AⅠ21	佐藤 元樹	月	3	1	1	S28	行政政策・経済経営学類	
前期	英語AⅠ22	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S31		
前期	英語AⅠ23	(非)ウィリアム・スコット	月	3	1	1	S43		
前期	英語AⅠ24	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S21		
前期	英語AⅠ25	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S14		
前期	英語AⅠ26	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S38		
前期	英語AⅠ27	(非)ロナルド・スコット	月	3	1	1	S22		
前期	英語AⅠ28	佐久間 康之	月	3	1	1	S23		
前期	英語AⅠ29	吉高神 明	月	3	1	1	S11		
前期	英語AⅠ30	(非)小室 竜也	月	3	1	1	S35		
前期	英語AⅠ61	(非)ロナルド・スコット	火	4	1	1	S22	食農学類	
前期	英語AⅠ62	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S21		
後期	英語AⅠ11	(非)飯嶋 良太	月	2	1	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類	
後期	英語AⅠ12	(非)齋藤 伸	月	2	1	1	S32		
後期	英語AⅠ13	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S31		
後期	英語AⅠ14	(非)ウィリアム・スコット	月	2	1	1	S43		
後期	英語AⅠ15	(非)高橋 了治	月	2	1	1	S34		
後期	英語AⅠ16	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S21		
後期	英語AⅠ17	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S14		
後期	英語AⅠ18	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S38		
後期	英語AⅠ19	(非)ロナルド・スコット	月	2	1	1	S22		
後期	英語AⅠ20	(非)小室 竜也	月	2	1	1	S35		
後期	英語AⅠ41 (上級)	佐久間 康之	月	2	1	1	S23	食農学類も受講可 食農学類も受講可	
後期	英語AⅠ42 (基礎)	吉高神 明	月	2	1	1	S11		
後期	英語AⅠ31	佐藤 元樹	月	3	1	1	S28	行政政策・経済経営学類	
後期	英語AⅠ32	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S31		
後期	英語AⅠ33	(非)ウィリアム・スコット	月	3	1	1	S43		
後期	英語AⅠ34	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S21		
後期	英語AⅠ35	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S14		
後期	英語AⅠ36	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S38		
後期	英語AⅠ37	(非)ロナルド・スコット	月	3	1	1	S22		
後期	英語AⅠ38	佐久間 康之	月	3	1	1	S23		
後期	英語AⅠ39	吉高神 明	月	3	1	1	S11		
後期	英語AⅠ40	(非)小室 竜也	月	3	1	1	S35		
後期	英語AⅠ43 (上級)	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S36	食農学類も受講可 食農学類も受講可	
後期	英語AⅠ44 (基礎)	朝賀 俊彦	月	3	1	1	S34		
後期	英語AⅠ71	(非)ロナルド・スコット	火	4	1	1	S22	食農学類	
後期	英語AⅠ72	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S21		
前期	英語AⅡ61	高田 英和	木	2	1	1	S21	食農学類	
前期	英語AⅡ62	(非)ロナルド・スコット	木	2	1	1	S22		
前期	英語AⅡ63	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S38	人間発達文化・共生システム理工学類	
前期	英語AⅡ01	村上 雄一	金	1	1	1	M33		
前期	英語AⅡ02	(非)久保田 恵佑	金	1	1	1	S41		
前期	英語AⅡ03	(非)齋藤 元康	金	1	1	1	S42		
前期	英語AⅡ04	(非)齋藤 伸	金	1	1	1	S32		
前期	英語AⅡ05	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S21		
前期	英語AⅡ06	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S33		
前期	英語AⅡ07	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S12		
前期	英語AⅡ08	(非)ウィリアム・スコット	金	1	1	1	S43		
前期	英語AⅡ09	フィリップ・マッカーズランド	金	1	1	1	S38		
前期	英語AⅡ10	照沼 かほる	金	1	1	1	S14	行政政策・経済経営学類	
前期	英語AⅡ21	照沼 かほる	金	3	1	1	S36		
前期	英語AⅡ22	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S12		
前期	英語AⅡ23	(非)齋藤 元康	金	3	1	1	S42		
前期	英語AⅡ24	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S23		
前期	英語AⅡ25	高木 修一	金	3	1	1	S24		
前期	英語AⅡ26	村上 雄一	金	3	1	1	M33		
前期	英語AⅡ27	(非)ヤン・ユ・フェイ	金	3	1	1	S32		
前期	英語AⅡ28	(非)ウィリアム・スコット	金	3	1	1	S43		
前期	英語AⅡ29	(非)ロナルド・スコット	金	3	1	1	S22		
前期	英語AⅡ30	フィリップ・マッカーズランド	金	3	1	1	S38	食農学類	
後期	英語AⅡ71	高田 英和	木	2	1	1	S21		
後期	英語AⅡ72	(非)ロナルド・スコット	木	2	1	1	S22		
後期	英語AⅡ73	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S38	人間発達文化・共生システム理工学類	
後期	英語AⅡ11	村上 雄一	金	1	1	1	M33		
後期	英語AⅡ12	(非)久保田 恵佑	金	1	1	1	S41		
後期	英語AⅡ13	(非)齋藤 元康	金	1	1	1	S42		
後期	英語AⅡ14	(非)齋藤 伸	金	1	1	1	S32		
後期	英語AⅡ15	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S21		
後期	英語AⅡ16	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S33		
後期	英語AⅡ17	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S12		
後期	英語AⅡ18	(非)ウィリアム・スコット	金	1	1	1	S43		
後期	英語AⅡ19	フィリップ・マッカーズランド	金	1	1	1	S38		
後期	英語AⅡ20	照沼 かほる	金	1	1	1	S14	食農学類も受講可 食農学類も受講可	
後期	英語AⅡ41 (上級)	高木 修一	金	1	1	1	S24		
後期	英語AⅡ42 (基礎)	高田 英和	金	1	1	1	S23		
後期	英語AⅡ31	照沼 かほる	金	3	1	1	S36		行政政策・経済経営学類
後期	英語AⅡ32	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S12		
後期	英語AⅡ33	(非)齋藤 元康	金	3	1	1	S42		
後期	英語AⅡ34	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S23		
後期	英語AⅡ35	高木 修一	金	3	1	1	S24		
後期	英語AⅡ36	村上 雄一	金	3	1	1	M33		
後期	英語AⅡ37	(非)ヤン・ユ・フェイ	金	3	1	1	S32		
後期	英語AⅡ38	(非)ウィリアム・スコット	金	3	1	1	S43		
後期	英語AⅡ39	(非)ロナルド・スコット	金	3	1	1	S22	食農学類も受講可 食農学類も受講可	
後期	英語AⅡ40	フィリップ・マッカーズランド	金	3	1	1	S38		
後期	英語AⅡ43 (上級)	川田 潤	金	3	1	1	S14		
後期	英語AⅡ44 (基礎)	福富 靖之	金	3	1	1	S35		

人文科学分野【「人間と文化」分野】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	精神疾患とその治療	片山 規央	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業
前期	心理学Ⅱ	岸 竜馬	木	1	1	2	L4	
前期	言語・文学Ⅰ	半沢 康・井実 充史	金	2	1	2	L2	
後期	美術	加藤 奈保子	月	1	1	2	M21	
後期	哲学Ⅱ	(非)額岸 佑亮	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業(定員500名)
後期	音楽	杉田 政夫 (ほか)	水	2	1	2	音201	
後期	倫理学	小野原 雅夫・樋口 良之	水	2	1	2	L4	
後期	ことばの仕組み	福富 靖之	木	1	1	2	L1	
後期	言語・文学Ⅱ	高橋 由貴 (ほか)	金	2	1	2	L2	

社会科学分野【「社会と歴史」分野】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	経営学	村上 早紀子	月	1	1	2	L3	
前期	歴史学Ⅰ	阿部 浩一・鎌和田 賢	木	1	1	2	L2	
前期	政治学	大黒 太郎	木	1	1	2	L1	
前期	ジェンダー学入門	高橋 準	金	2	1	2	L3	
後期	日本国憲法01	鈴木 めぐみ	水	2	1	2	L1	行政政策学類生履修不可
後期	経済学Ⅰ	荒 知宏	木	1	1	2	M21	経済経営学類生履修不可
後期	日本国憲法02	(非)二瓶 由美子	金	2	1	2	L1	行政政策学類生履修不可
後期	地理学Ⅰ	末吉 健治	金	2	1	2	M21	

自然科学分野【「自然と技術」分野】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	物質の科学	岩村 振一郎	月	1	1	2	M2	
前期	情報化と経営	石岡 賢	木	1	1	2	M21	
前期	食と健康	升本 早枝子	金	2	1	2	L4	
後期	食品の機能	熊谷 武久	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業(定員400名)
後期	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	岡 史仁	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	環境の科学Ⅰ	川崎 興太	水	2	1	2	M21	
後期	ちからとうごき	馬場 一晴 (ほか)	木	1	1	2	M2	
後期	環境の科学Ⅱ	川越 清樹	金	2	1	2	M2	

ワーキングスキル【総合科目】

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教室	備考
前期	身近なデータと問題解決				2	2		2年生以上 (2026年度欠講)
前期	アントレプレナーシップ概論	大越 正弘	月	3	2	2	M1	2年生以上
後期	ICTと身近な問題解決				2	2		2年生以上 (2026年度欠講)
後期	知的財産の基礎知識 (JASRAC寄附講座)	横島 善子	火	4	2	2	L1	2年生以上
後期	ワーキングシミュレーション	石井 由貴	火	4	2	2	S24	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習A	加藤 穂高	木	3	2	2	S21	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習B	鈴木 光海	木	3	2	2	S22	2年生以上

スポーツ実習

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	雨天時 教室	備考
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	L2	行政政策・経済経営学類
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	2	1	1	L3	
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	S42	人間発達文化学類
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1		
後期	卓球	小川 宏	月	3	1	1	S44	
後期	ソフトボール	本嶋 良恵	月	3	1	1	M33	
後期	アルティメット	杉浦 弘一	月	3	1	1	M34	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1		
後期	バレーボール	(非)佐藤 浩明	金	3	1	1		
後期	コンディショニング	(非)鈴木 史江	金	3	1	1	L1	共生システム理工・食農学類
後期	アルティメット	杉浦 弘一	金	3	1	1		

英語BⅠ・BⅡ、応用英語

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語BⅠ01	佐久間 康之	月	1	2	1	S23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅠ02	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S28	
前期	英語BⅠ03	(非)ロナルド・スコット	月	1	2	1	S22	
前期	英語BⅠ04	(非)飯嶋 良太	月	1	2	1	M34	
前期	英語BⅠ05	(非)齋藤 伸	月	1	2	1	S32	
前期	英語BⅠ06	(非)川崎 和基	月	1	2	1	S35	
前期	英語BⅠ07	(非)ウィリアム・スコット	月	1	2	1	S43	
前期	英語BⅠ08	(非)高橋 了治	月	1	2	1	S34	
前期	英語BⅠ09	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S21	
前期	英語BⅠ41 (上級)	(非)植竹 大輔	月	1	2	1	S38	食農学類も受講可
前期	英語BⅠ42 (基礎)	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S33	食農学類も受講可
前期	英語BⅠ61	佐藤 元樹	火	2	2	1	S36	食農学類
前期	英語BⅠ62	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S21	
前期	英語BⅠ21	(非)ロナルド・スコット	水	1	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅠ22	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S31	
前期	英語BⅠ23	(非)齋藤 伸	水	1	2	1	S32	
前期	英語BⅠ24	(非)猪井 新一	水	1	2	1	S23	
前期	英語BⅠ25	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S21	
前期	英語BⅠ26	(非)九頭見 理香	水	1	2	1	S33	
前期	英語BⅠ27	(非)植竹 大輔	水	1	2	1	S38	
前期	英語BⅠ28	(非)飯嶋 良太	水	1	2	1	M34	
前期	英語BⅠ29	吉高 神明	水	1	2	1	S11	
前期	英語BⅠ43 (上級)	福富 靖之	水	1	2	1	S36	食農学類も受講可
前期	英語BⅠ44 (基礎)	高木 修一	水	1	2	1	S28	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ11	佐久間 康之	月	1	2	1	S23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語BⅠ12	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S28	
後期	英語BⅠ13	(非)ロナルド・スコット	月	1	2	1	S22	
後期	英語BⅠ14	(非)飯嶋 良太	月	1	2	1	M34	
後期	英語BⅠ15	(非)齋藤 伸	月	1	2	1	S32	
後期	英語BⅠ16	(非)川崎 和基	月	1	2	1	S35	
後期	英語BⅠ17	(非)ウィリアム・スコット	月	1	2	1	S43	
後期	英語BⅠ18	(非)高橋 了治	月	1	2	1	S34	
後期	英語BⅠ19	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S21	
後期	英語BⅠ51 (上級)	(非)植竹 大輔	月	1	2	1	S38	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ52 (基礎)	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S33	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ71	佐藤 元樹	火	2	2	1	S36	食農学類
後期	英語BⅠ72	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S21	
後期	英語BⅠ31	(非)ロナルド・スコット	水	1	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
後期	英語BⅠ32	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S31	
後期	英語BⅠ33	(非)齋藤 伸	水	1	2	1	S32	
後期	英語BⅠ34	(非)猪井 新一	水	1	2	1	S23	
後期	英語BⅠ35	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S21	
後期	英語BⅠ36	(非)九頭見 理香	水	1	2	1	S33	
後期	英語BⅠ37	(非)植竹 大輔	水	1	2	1	S38	
後期	英語BⅠ38	(非)飯嶋 良太	水	1	2	1	M34	
後期	英語BⅠ39	吉高 神明	水	1	2	1	S11	
後期	英語BⅠ53 (上級)	福富 靖之	水	1	2	1	S36	食農学類も受講可
後期	英語BⅠ54 (基礎)	高木 修一	水	1	2	1	S28	食農学類も受講可

前期	英語B II 01	(非)飯嶋 良太	水	2	2	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語B II 02	(非)植竹 大輔	水	2	2	1	S38	
前期	英語B II 03	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S21	
前期	英語B II 04	(非)齊藤 伸	水	2	2	1	S32	
前期	英語B II 05	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	M33	
前期	英語B II 06	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S31	
前期	英語B II 07	(非)ウィリアム・スコット	水	2	2	1	S43	
前期	英語B II 08	(非)ロナルド・スコット	水	2	2	1	S22	
前期	英語B II 09	吉高神明	水	2	2	1	S11	
前期	英語B II 41 (上級)	村上 雄一	水	2	2	1	S12	食農学類も受講可
前期	英語B II 42 (基礎)	川田 潤	水	2	2	1	S36	食農学類も受講可
前期	英語B II 61	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S38	食農学類
前期	英語B II 62	(非)ロナルド・スコット	木	4	2	1	S22	
前期	英語B II 63	高田 英和	木	4	2	1	S21	
前期	英語B II 21	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S33	行政政策・経済経営学類
前期	英語B II 22	(非)久保田 恵佑	金	2	2	1	S41	
前期	英語B II 23	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S42	
前期	英語B II 24	(非)齊藤 伸	金	2	2	1	S32	
前期	英語B II 25	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S23	
前期	英語B II 26	(非)ウィリアム・スコット	金	2	2	1	S43	
前期	英語B II 27	(非)ロナルド・スコット	金	2	2	1	S22	
前期	英語B II 28	フィリップ・マッカーズランド	金	2	2	1	S38	
前期	英語B II 29	久我 和巳	金	2	2	1	S31	
前期	英語B II 43 (上級)	照沼 かほる	金	2	2	1	S35	食農学類も受講可
前期	英語B II 44 (基礎)	川田 潤	金	2	2	1	S14	食農学類も受講可
後期	英語B II 11	(非)飯嶋 良太	水	2	2	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語B II 12	(非)植竹 大輔	水	2	2	1	S38	
後期	英語B II 13	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S21	
後期	英語B II 14	(非)齊藤 伸	水	2	2	1	S32	
後期	英語B II 15	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	M33	
後期	英語B II 16	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S31	
後期	英語B II 17	(非)ウィリアム・スコット	水	2	2	1	S43	
後期	英語B II 18	(非)ロナルド・スコット	水	2	2	1	S22	
後期	英語B II 19	吉高神明	水	2	2	1	S11	
後期	英語B II 51 (上級)	村上 雄一	水	2	2	1	S12	食農学類も受講可
後期	英語B II 52 (基礎)	川田 潤	水	2	2	1	S36	食農学類も受講可
後期	英語B II 71	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S38	食農学類
後期	英語B II 72	(非)ロナルド・スコット	木	4	2	1	S22	
後期	英語B II 73	高田 英和	木	4	2	1	S21	
後期	英語B II 31	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S33	行政政策・経済経営学類
後期	英語B II 32	(非)久保田 恵佑	金	2	2	1	S41	
後期	英語B II 33	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S42	
後期	英語B II 34	(非)齊藤 伸	金	2	2	1	S32	
後期	英語B II 35	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S23	
後期	英語B II 36	(非)ウィリアム・スコット	金	2	2	1	S43	
後期	英語B II 37	(非)ロナルド・スコット	金	2	2	1	S22	
後期	英語B II 38	フィリップ・マッカーズランド	金	2	2	1	S38	
後期	英語B II 39	久我 和巳	金	2	2	1	S31	
後期	英語B II 53 (上級)	照沼 かほる	金	2	2	1	S35	食農学類も受講可
後期	英語B II 54 (基礎)	川田 潤	金	2	2	1	S14	食農学類も受講可
前期	応用英語 X I	(非)小室 竜也	月	5	1	1	S35	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
前期	応用英語 X III	(非)佐々木 俊彦	火	5	1	1	S35	
前期	応用英語 X V	フィリップ・マッカーズランド	水	1	1	1	S41	
前期	応用英語 X VII	(非)長谷川 明子	木	5	1	1	S35	
前期	応用英語 X IX	福富 靖之	金	5	1	1	S35	
後期	応用英語 X II	(非)小室 竜也	月	5	1	1	S35	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
後期	応用英語 X IV	(非)佐々木 俊彦	火	5	1	1	S35	
後期	応用英語 X VI	フィリップ・マッカーズランド	水	1	1	1	S41	
後期	応用英語 X VIII	福富 靖之	木	5	1	1	S35	
後期	応用英語 X X	福富 靖之	金	5	1	1	S35	

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ドイツ語基礎ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S11	主に行政政策・経済経営学類
前期	ドイツ語基礎ⅠB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S12	
前期	ドイツ語基礎ⅠC	(非)齋藤 寛	木	2	1	1	S13	
前期	ドイツ語基礎ⅠD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ドイツ語基礎ⅠE	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S11	
前期	ドイツ語基礎ⅠF	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	1	S13	
前期	ドイツ語基礎ⅠG	(非)グンスケフォンケルン・J	木	4	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ドイツ語基礎(特設)ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S11	
前期	ドイツ語基礎(特設)ⅠB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S12	
前期	ドイツ語基礎(特設)ⅠC	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S11	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	ドイツ語基礎ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎ⅡC	(非)齋藤 寛	木	2	1	1	S13	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎ⅡD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎ⅡE	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎ⅡF	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	1	S13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ドイツ語基礎ⅡG	(非)齋藤 寛	木	4	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎(特設)ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎(特設)ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S12	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	ドイツ語基礎(特設)ⅡC	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S11	
前期	【ドイツ語初級ⅠBC】	(非)グンスケフォンケルン・J (非)齋藤 寛	火 木	2 2	1 1	2	S12 S13	
前期	【ドイツ語初級ⅠFG】	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ (非)グンスケフォンケルン・J	火 木	3 4	1 1	2	S13 S12	
後期	【ドイツ語初級ⅡBC】	(非)グンスケフォンケルン・J (非)齋藤 寛	火 木	2 2	1 1	2	S12 S13	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【ドイツ語初級ⅡFG】	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ (非)齋藤 寛	火 木	3 4	1 1	2	S13 S12	
前期	ドイツ語応用ⅠA【ドイツ語中級A】	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S11	学類指定なし
前期	ドイツ語応用ⅠB【ドイツ語中級B】	ぐんすけふおんけるん・M	木	3	2	1	S11	
後期	ドイツ語応用ⅡA【ドイツ語中級C】	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S11	学類指定なし
後期	ドイツ語応用ⅡB【ドイツ語中級D】	ぐんすけふおんけるん・M	木	3	2	1	S11	
前期	フランス語基礎ⅠA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S38	主に行政政策・経済経営学類
前期	フランス語基礎ⅠB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S35	
前期	フランス語基礎ⅠC	田村 奈保子	木	2	1	1	M33	
前期	フランス語基礎ⅠD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	フランス語基礎ⅠE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S35	
前期	フランス語基礎ⅠF	田村 奈保子	木	4	1	1	M33	
前期	フランス語基礎(特設)Ⅰ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S21	主に人間発達文化・共生システム理工学類 学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	フランス語基礎ⅡA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S38	
後期	フランス語基礎ⅡB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S35	
後期	フランス語基礎ⅡC	田村 奈保子	木	2	1	1	M33	主に行政政策・経済経営学類
後期	フランス語基礎ⅡD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S38	
後期	フランス語基礎ⅡE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S35	
後期	フランス語基礎ⅡF	田村 奈保子	木	4	1	1	M33	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	フランス語基礎(特設)Ⅱ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S21	
前期	【フランス語初級ⅠAC】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	2 2	1 1	2	S38 M33	
前期	【フランス語初級ⅠDF】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	3 4	1 1	2	S38 M33	
後期	【フランス語初級ⅡAC】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	2 2	1 1	2	S38 M33	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【フランス語初級ⅡDF】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	3 4	1 1	2	S38 M33	
前期	フランス語応用ⅠA【フランス語中級A】	(非)レジス・ドラビゾン	火	1	2	1	S12	学類指定なし
前期	フランス語応用ⅠB【フランス語中級B】	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S12	
後期	フランス語応用ⅡA【フランス語中級C】	(非)レジス・ドラビゾン	火	1	2	1	S12	学類指定なし
後期	フランス語応用ⅡB【フランス語中級D】	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S12	

前期	中国語基礎 I A	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S32	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎 I B	(非)呉 怡芳	火	2	1	1	S31	
前期	中国語基礎 I C	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S32	
前期	中国語基礎 I D	(非)王 效紅	木	2	1	1	S34	
前期	中国語基礎 I E	(非)池澤 貴芳	木	2	1	1	S33	
前期	中国語基礎 I F	(非)井上 浩一	木	2	1	1	S35	
前期	中国語基礎 I G	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎 I H	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S32	
前期	中国語基礎 I I	(非)池澤 貴芳	火	3	1	1	S33	
前期	中国語基礎 I J	(非)呉 怡芳	火	3	1	1	S31	
前期	中国語基礎 I K	金 敬雄	木	4	1	1	S23	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	中国語基礎 I L	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S32	
前期	中国語基礎 I M	(非)王 效紅	木	4	1	1	S34	
前期	中国語基礎 I N	(非)手代木 有兒	木	4	1	1	S36	
前期	中国語基礎(特設) I A	金 敬雄	火	2	1	1	S23	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	中国語基礎(特設) I B	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S34	
前期	中国語基礎(特設) I C	金 敬雄	火	3	1	1	S23	
前期	中国語基礎(特設) I D	(非)手代木 有兒	火	3	1	1	S36	
後期	中国語基礎 II A	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S32	主に行政政策・経済経営学類
後期	中国語基礎 II B	(非)呉 怡芳	火	2	1	1	S31	
後期	中国語基礎 II C	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S32	
後期	中国語基礎 II D	(非)王 效紅	木	2	1	1	S34	
後期	中国語基礎 II E	(非)池澤 貴芳	木	2	1	1	S33	
後期	中国語基礎 II F	(非)井上 浩一	木	2	1	1	S35	
後期	中国語基礎 II G	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎 II H	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S32	
後期	中国語基礎 II I	(非)池澤 貴芳	火	3	1	1	S33	
後期	中国語基礎 II J	(非)呉 怡芳	火	3	1	1	S31	
後期	中国語基礎 II K	金 敬雄	木	4	1	1	S23	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	中国語基礎 II L	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S32	
後期	中国語基礎 II M	(非)王 效紅	木	4	1	1	S34	
後期	中国語基礎 II N	(非)手代木 有兒	木	4	1	1	S36	
後期	中国語基礎(特設) II A	金 敬雄	火	2	1	1	S23	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	中国語基礎(特設) II B	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S34	
後期	中国語基礎(特設) II C	金 敬雄	火	3	1	1	S23	
後期	中国語基礎(特設) II D	(非)手代木 有兒	火	3	1	1	S36	
前期	【中国語初級 I B E】	(非)呉 怡芳	火	2	1	2	S31	主に行政政策・経済経営学類
		(非)池澤 貴芳	木	2	1	2	S33	(2018年度以前入学生のみ)
前期	【中国語初級 I G M】	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S34	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)王 效紅	木	4	1	2	S34	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【中国語初級 II B E】	(非)呉 怡芳	火	2	1	2	S31	主に行政政策・経済経営学類
		(非)池澤 貴芳	木	2	1	2	S33	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【中国語初級 II G M】	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S34	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)王 效紅	木	4	1	2	S34	(2018年度以前入学生のみ)
前期	中国語応用 I A 【中国語中級 A】	金 敬雄	火	1	2	1	S23	学類指定なし
前期	中国語応用 I B 【中国語中級 B】	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S34	
前期	中国語応用 I C 【中国語中級 C】	(非)伊藤 由美	火	1	2	1	S32	
前期	中国語応用 I D 【中国語中級 D】	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S32	
前期	中国語応用 I E 【中国語中級 E】	(非)王 效紅	木	3	2	1	S34	
後期	中国語応用 II A 【中国語中級 F】	金 敬雄	火	1	2	1	S23	学類指定なし
後期	中国語応用 II B 【中国語中級 G】	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S34	
後期	中国語応用 II C 【中国語中級 H】	(非)伊藤 由美	火	1	2	1	S32	
後期	中国語応用 II D 【中国語中級 I】	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S32	
後期	中国語応用 II E 【中国語中級 J】	(非)王 效紅	木	3	2	1	S34	
前期	ロシア語基礎 I A	(非)吉川 宏人	火	2	1	1	S28	主に行政政策・経済経営学類
前期	ロシア語基礎 I B	(非)吉川 宏人	木	2	1	1	S28	
前期	ロシア語基礎 I C	クスネツォーフ・マリナ	火	3	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ロシア語基礎 I D	クスネツォーフ・マリナ	木	4	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ロシア語基礎(特設) I	クスネツォーフ・マリナ	金	2	1	1	S28	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	ロシア語基礎 II A	クスネツォーフ・マリナ	火	2	1	1	S28	主に行政政策・経済経営学類
後期	ロシア語基礎 II B	(非)吉川 宏人	木	2	1	1	S28	
後期	ロシア語基礎 II C	クスネツォーフ・マリナ	火	3	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ロシア語基礎 II D	(非)カザンツェフ・ラーダ	木	4	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ロシア語基礎(特設) II	クスネツォーフ・マリナ	金	2	1	1	S28	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	【ロシア語初級 I A B】	(非)吉川 宏人	火	2	1	2	S28	主に行政政策・経済経営学類
		(非)吉川 宏人	木	2	1	2	S28	(2018年度以前入学生のみ)
前期	【ロシア語初級 I C D】	クスネツォーフ・マリナ	火	3	1	2	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		クスネツォーフ・マリナ	木	4	1	2	S28	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【ロシア語初級 II A B】	クスネツォーフ・マリナ	火	2	1	2	S28	主に行政政策・経済経営学類
		(非)吉川 宏人	木	2	1	2	S28	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【ロシア語初級 II C D】	クスネツォーフ・マリナ	火	3	1	2	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)カザンツェフ・ラーダ	木	4	1	2	S28	(2018年度以前入学生のみ)
前期	ロシア語応用 I A 【ロシア語中級 A】	(非)吉川 宏人	火	1	2	1	S28	学類指定なし
前期	ロシア語応用 I B 【ロシア語中級 B】	クスネツォーフ・マリナ	木	3	2	1	S28	
後期	ロシア語応用 II A 【ロシア語中級 C】	(非)吉川 宏人	火	1	2	1	S28	学類指定なし
後期	ロシア語応用 II B 【ロシア語中級 D】	(非)カザンツェフ・ラーダ	木	3	2	1	S28	
前期	韓国朝鮮語基礎 I A	伊藤 俊介	火	2	1	1	S14	主に行政政策・経済経営学類
前期	韓国朝鮮語基礎 I B	伊藤 俊介	木	2	1	1	S14	
前期	韓国朝鮮語基礎 I C	伊藤 俊介	火	3	1	1	S14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	韓国朝鮮語基礎 I D	(非)梁 姫淑	火	3	1	1	S21	
前期	韓国朝鮮語基礎 I E	(非)朴 相賢	木	4	1	1	S35	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	韓国朝鮮語基礎(特設) I A	伊藤 俊介	金	2	1	1	S12	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	韓国朝鮮語基礎(特設) I B	(非)梁 姫淑	金	2	1	1	S11	
後期	韓国朝鮮語基礎 II A	伊藤 俊介	火	2	1	1	S14	主に行政政策・経済経営学類
後期	韓国朝鮮語基礎 II B	伊藤 俊介	木	2	1	1	S14	
後期	韓国朝鮮語基礎 II C	伊藤 俊介	火	3	1	1	S14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	韓国朝鮮語基礎 II D	(非)梁 姫淑	火	3	1	1	S21	
後期	韓国朝鮮語基礎 II E	(非)朴 相賢	木	4	1	1	S35	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	韓国朝鮮語基礎(特設) II A	伊藤 俊介	金	2	1	1	S12	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	韓国朝鮮語基礎(特設) II B	(非)梁 姫淑	金	2	1	1	S11	
前期	【韓国朝鮮語初級 I A B】	伊藤 俊介	火	2	1	2	S14	主に行政政策・経済経営学類
		伊藤 俊介	木	2	1	2	S14	(2018年度以前入学生のみ)
前期	【韓国朝鮮語初級 I C E】	伊藤 俊介	火	3	1	2	S14	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)朴 相賢	木	4	1	2	S35	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【韓国朝鮮語初級 II A B】	伊藤 俊介	火	2	1	2	S14	主に行政政策・経済経営学類
		伊藤 俊介	木	2	1	2	S14	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【韓国朝鮮語初級 II C E】	伊藤 俊介	火	3	1	2	S14	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)朴 相賢	木	4	1	2	S35	(2018年度以前入学生のみ)
前期	韓国朝鮮語応用 I A 【韓国朝鮮語中級 A】	伊藤 俊介	火	1	2	1	S14	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語応用 I B 【韓国朝鮮語中級 B】	(非)朴 相賢	木	3	2	1	S35	
後期	韓国朝鮮語応用 II A 【韓国朝鮮語中級 C】	伊藤 俊介	火	1	2	1	S14	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語応用 II B 【韓国朝鮮語中級 D】	(非)朴 相賢	木	3	2	1	S35	

日本語Ⅰ～Ⅳ、日本事情Ⅰ～Ⅳ (外国人留学生のみ)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語ⅠA	井本 亮	火	2	1	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語ⅠB	井本 亮	木	2	1	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語ⅢA	井本 亮	火	1	2	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語ⅢB	井本 亮	木	3	2	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅡA	井本 亮	火	2	1	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅡB	井本 亮	木	2	1	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅣA	井本 亮	火	1	2	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅣB	井本 亮	木	3	2	1	S24	留学生 (2019年度以降入学生のみ)
前期	【日本語Ⅰ】	井本 亮	火	2	1	2	S24	留学生 (2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	2	1	2	S24	
前期	【日本語Ⅲ】	井本 亮	火	1	2	2	S24	留学生 (2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	3	2	2	S24	
後期	【日本語Ⅱ】	井本 亮	火	2	1	2	S24	留学生 (2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	2	1	2	S24	
後期	【日本語Ⅳ】	井本 亮	火	1	2	2	S24	留学生 (2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	3	2	2	S24	
前期	日本事情Ⅰ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S24	留学生
後期	日本事情Ⅱ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S24	留学生

情報リテラシー【情報処理Ⅰ】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報リテラシー01【情報処理Ⅰ01】	松本 正晴	月	1	1	2	情205	
前期	情報リテラシー02【情報処理Ⅰ02】	(非)菅野 浩子	木	1	1	2	情205	
前期	情報リテラシー03【情報処理Ⅰ03】	内海 哲史	金	2	1	2	理コンピュータ室	
前期	情報リテラシー04【情報処理Ⅰ04】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	情205	
後期	情報リテラシー05【情報処理Ⅰ05】	(非)篠田 伸夫	月	1	1	2	情205	
後期	情報リテラシー06【情報処理Ⅰ06】	松本 正晴	水	2	1	2	情205	
後期	情報リテラシー07【情報処理Ⅰ07】	寛 宗徳	木	1	1	2	情205	
後期	情報リテラシー08【情報処理Ⅰ08】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	情205	

問題探究科目【総合科目】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ボランティア論	初澤 敏生	月	1	1	2	S24	定員30名
前期	暮らしと仕事と大学生	熊沢 透	月	1	1	2	L2	
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣	月	1	1	2	L4	
前期	哲学カフェ	小野原 雅夫	月	1	1	2	S31~34	定員50名
前期	生活探究演習	中村 恵子 (ほか)	木	1	1	2	S22	定員24名
前期	福島のブランド農業	則藤 孝志 (ほか)	木	1	1	2	M1	
前期	福島の地域データ	加藤 穂高	木	1	1	2	M22	
前期	STEAM実践学修	中田 文憲 (ほか)	金	2	1	2	M3	定員50名
前期	人・食・環境・生物の共生関係	望月 翔太 (ほか)	金	2	1	2	M23	
前期	ふくしま未来学入門Ⅰ	前川 直哉 (ほか)	金	2	1	2	遠隔	遠隔授業
前期	地域課題とビジネス	加藤 穂高	金	2	3	2	S13	3年生以上(高年次教養科目)
前期	むらの大学Ⅰ	前川 直哉 (ほか)	金	5	1	2	L1	
前期	EBPM入門	加藤 穂高	木	3	3	2	S13	3年生以上(高年次教養科目)
前期	地方と若者	鈴木 光海	金	2	1	2	S24	
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	M22	
後期	環境放射能学入門	難波 謙二 (ほか)	水	2	1	2	M1	
後期	地域と世界の未来をつくる科学	川越 清樹 (ほか)	水	2	1	2	M22	
後期	震災農村復興論	小山 良太 (ほか)	水	2	1	2	M2	
後期	災害復興学	藤室 玲治 (ほか)	水	2	1	2	L2	
後期	大学的福島ガイド	阿部 浩一 (ほか)	木	1	1	2	L2	
後期	SDGsと経営	根建 晶寛	木	1	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	地域デザイン	江尻 綾美	木	1	1	2	M3	
後期	データから考えるジェンダー	前川 直哉	木	1	1	2	S28	
後期	立ち直りと地域共生社会	高橋 有紀	金	2	1	2	L3	
後期	ふくしま未来学入門Ⅱ	久保田 彩乃 (ほか)	金	2	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	むらの大学ⅡA	未定	金	5	1	2	S21	
後期	むらの大学ⅡB	前川 直哉	金	5	1	2	S22	
後期	むらの大学ⅡC	鈴木 敦己	金	5	1	2	S23	
後期	むらの大学ⅡD	久保田 彩乃	金	5	1	2	S24	
後期	むらの大学(滞在型)	前川 直哉・鈴木 敦己	-	-	2	2	-	
後期	データサイエンスの基礎	高森 智嗣 (ほか)	-	-	2	2	遠隔	遠隔授業(共生システム理工学類2024年度以降入学生は対象外)
後期	地域課題と探究指導	前川 直哉 (ほか)	-	-	3	2	-	
後期	データ分析入門01	鈴木 光海 (ほか)	水	2	1	2	S13	
後期	データ分析入門02	加藤 穂高 (ほか)	木	1	1	2	S13	

接続領域の履修について

「接続領域」は、高校教育と大学の専門的な教育とをスムーズに連結させ、大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身に付けることを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。各科目の指導内容や開講のしくみ、到達すべき目標はそれぞれある程度共通化されています。

これにより質保証を図り、学類専門教育へ円滑に接続させていきます。

(1) スタートアップ科目について

高校までに培われた能力に加えて、大学ならではの学問的学びの基盤を養っていくために、必修科目として「スタートアップセミナー」と「社会とデータ科学の基礎」を開講します。「スタートアップセミナー」は大学で学ぶための基本的なアカデミック・スキルズを身に付けることを目的としています。「社会とデータ科学の基礎」は、データに基づいて対象の実態を捉えるための科学的な考え方やスキルを身に付けることを目的としています。

<スタートアップセミナーの履修について>

別項目<スタートアップセミナーの履修について>を参照してください。

<社会とデータ科学の基礎の履修について>

① 1年次前期に「社会とデータ科学の基礎」2単位を修得しなければなりません。

② 学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。

③ 「社会とデータ科学の基礎」はメディア授業（遠隔オンデマンド開講）です。時間割上には配置されていません。毎週金曜日に「LC」を通じて、授業の動画や資料等が配信されるので、それらを用いて各自空き時間に学修を進め、金曜日～月曜日までの間に確認テストに回答してください。

④ 第1回～第14回は全学類共通ですが、第15回目の授業は学類ごとに授業内容も、開講形態も異なりますので、担当教員の指示に従って学修し、確認テストに回答してください。

⑤ 「社会とデータ科学の基礎」はCAP除外科目です。

※この科目は、「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの必修科目です。詳しくは <「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について> を参照してください。

※「社会とデータ科学の基礎」は履修登録撤回できません。

(2) ライフマネジメント科目について

生涯にわたるキャリア発達と身体の健康維持とを目的とし、必修科目として「キャリア形成論」と「健康運動科学実習」を開講します。「キャリア形成論」のねらいは第一に自分と向き合い自分の人生を見つめること、第二に働くことの意味や職業についての見方を再確認すること、第三にこれらを通して大学で学ぶことの意味を考え、学ぶ主体を確立すること

です。「健康運動科学実習」は、スポーツを通して運動や健康への興味・関心を高め、生涯にわたり健やかな生活をしていくための知識や習慣を身に付けることを目的としている科目です。

<キャリア形成論の履修について>

① 1年次：前期に「キャリア形成論」2単位を修得しなければなりません。

② 学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。

行政政策学類のクラス分けは、行政政策学類の掲示等で確認してください。再履修者も同様です。

③ キャリア形成論は履修登録撤回できません。

<健康運動科学実習の履修について>

① 1年次前期に「健康運動科学実習」を修得しなければなりません。

② 指定された曜日、時間帯（下表）で受講してください。第1回目の授業の際に種目分けを行いますので、必ず出席してください。

集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し、普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

第1回目の授業に出席できなかった学生は、本嶋教員（保健体育棟114号）へ連絡をし、指示を受けてください。

学類	健康運動科学実習
行政政策学類	月曜日 2時限
人間発達文化学類	月曜日 3時限
経済経営学類	火曜日 3時限
共生システム理工学類	金曜日 3時限
食農学類	金曜日 4時限

ただし、再履修者で、必修の科目と開講時間帯が重なり、指定時間帯の受講が困難な場合は、他の時間帯での履修を認めることがありますので、第1回目の授業で担当教員に必ず申し出てください。

③ 特別な理由により実技を行うことが困難な学生には、代替措置を認める場合があります。詳しくは第1回目の授業で説明しますので必ず出席してください。

④ 健康運動科学実習は履修登録撤回できません。

(3) 外国語コミュニケーション科目について

別項目<英語、英語以外の外国語の履修について>を参照してください。

外国人留学生は、同じく<英語、英語以外の外国語の履修について>にある<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>も参照してください。

(4) スタートアップセミナーの履修について

大学教育の基礎を身につけるスタートアップ科目の中心となる科目です。内容は、アカデミック・スキルズ、すなわち文献や資料の読み方や書評レポートの書き方、調査・研究方法、情報技術の基礎、プレゼンテーション、ディスカッションの技術などを身に付けます。スタートアップセミナー（または問題探究セミナー I）終了時に初年次レポートを提出することになります。

この科目を中心として、1年終了時まで身に付けるべきアカデミック・スキルズは以下の通りです。

【アカデミック・スキルズ チェックリスト】

- OPAC、CiNii 等のデータベースを活用した文献・資料の検索方法を知っている。
- 文献・資料の内容を要約したレジюмеの基本的な形式を知っている。
- 序論・本論・結論のような、レポートの基本的な構成を知っている。
- 文献・資料の内容をレジюмеやレポートに反映させる際のルール（引用のしかた）を知っている。
- 参考文献・資料一覧を作成する際のルールを知っている。
- 文献・資料の内容を要約したレジюмеを作成することができる。
- レポートの構成や引用のしかた等、一般的または指定された形式やルールを守ったレポートを作成することができる。
- パワーポイント等の ICT を活用して、プレゼンテーションを行うことができる。

<スタートアップセミナーの履修手続きについて>

- ① 2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
- ② 未修得者は、必ず履修登録前に「LC」/各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。
- ③ スタートアップセミナーは、履修登録撤回できません。

スタートアップセミナー担当者一覧（経済経営学類）

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数
スタートアップセミナー	A	木 3	荒知宏	1	2
	B		石川大輔		
	C		沼田大輔		
	D		奥本英樹		
	E		野口寛樹		
	F		村上早紀子		
	G		藤原遥		
	H		末吉健治		
	I		三家本里実		
	J		生島和樹		
	K		根建晶寛		
	L		稲村健太郎		
	M		福富靖之		

(5) 英語、英語以外の外国語の履修について

英語について

<「英語AⅠ」・「英語AⅡ」について>

CEFR B1 level を目指します。ただし、基礎クラスはA2 level を、上級クラスはB2 level を目指します。

- (ア)「英語AⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。
- (イ)「英語AⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。
- ・ Reading …「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
 - ・ Writing …「書く」能力を養成するためのコース
 - ・ Oral Communication …「聴く・話す」能力を養成するためのコース
- (ウ)1年次では、「英語AⅠ」及び「英語AⅡ」を各2単位、計4単位を修得しなければなりません。また、各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。**
- (エ)「英語AⅠ」及び「英語AⅡ」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、
- 「英語AⅠ」について前・後期各1クラスの計2クラス、
- 「英語AⅡ」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。
- (オ)開講曜日・時限は学類ごとに指定されています。
- ・ 人間発達文化学類・共生システム理工学類は、「英語AⅠ」が月曜日2時限、「英語AⅡ」が金曜日1時限
 - ・ 行政政策学類・経済経営学類は、「英語AⅠ」が月曜日3時限、「英語AⅡ」が金曜日3時限
 - ・ 食農学類は、「英語AⅠ」が火曜日4時限、「英語AⅡ」が木曜日2時限
 - ・ 学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。
- (カ)「英語AⅠ」、「英語AⅡ」は、履修登録撤回できません。

<英語AⅠ・英語AⅡの履修について>

- (ア)前期の所属クラスは「英語AⅠ」、「英語AⅡ」とともに、以下の手続きで行います。
1. シラバスを読んで、受講希望クラスの第1回目の授業に必ず出席してください。
 2. 第1回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が2回(1次、2次)行われます。

<1次説明・受付>

- ・ 第1回目授業開始時刻(1時限8時40分、2時限10時20分、3時限13時00分、4時限14時40分)に希望クラスの教室に行き授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

- ・ 1次受付で定員に達したクラスは、2次受付は行いません。

<2次説明・受付>

- ・ 1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻（1時限9時40分、2時限11時20分、3時限14時00分、4時限15時40分）までに希望クラスの教室に行ってください。授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
- ・ 2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口提出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語AⅠ」、「英語AⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

- ・ 同一教員のクラスが後期に開講されていない場合は、前期クラスの教員の指示に従ってください。
- ・ 前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

(ウ)「英語AⅠ」、「英語AⅡ」は、それぞれ後期のみ「基礎クラス」、「上級クラス」が開講されます。ただし、食農学類に関しては「英語AⅠ」のみ「基礎クラス」が開講されます。

成績評価は、「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。（人数が多い場合等は希望が認められない場合があります。）

(イ)食農学類の学生で「英語AⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(ウ)）他学類枠（月曜2時限または月曜3時限）の「英語AⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

(ウ)食農学類の学生で「英語AⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(ウ)）、他学類枠（金曜1時限または金曜3時限）の「英語AⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

<「英語BⅠ」・「英語BⅡ」について>

CEFR B2 level を目指します。ただし、基礎クラスはB1 level を、上級クラスはC1 level を目指します。

(ア)「英語BⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(イ)「英語BⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

- ・ Reading …「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース

・ Writing …「書く」能力を養成するためのコース

・ Oral Communication …「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ウ) **2年次で英語を選択する学生は、「英語B I」及び「英語B II」を各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。**

(I) 「英語B I」及び「英語B II」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、「英語B I」について前・後期各1クラスの計2クラス、「英語B II」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。

(カ) 開講曜日・時限は学類毎に指定されています。

・ 人間発達文化学類・共生システム理工学類は「英語B I」が月曜日1時限、「英語B II」が水曜日2時限

・ 行政政策学類・経済経営学類は「英語B I」が水曜日1時限、「英語B II」が金曜日2時限

・ 食農学類は「英語B I」が火曜日2時限、「英語B II」が木曜日4時限

・ 学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(ク) 「英語B I」、「英語B II」は、履修登録撤回できません。

<英語B I・英語B IIの履修について>

(ア) 前期の所属クラスは「英語B I」、「英語B II」とともに、以下の手続きで行います。

1. シラバスを読んで、受講希望クラスの第1回目の授業に必ず出席してください。

2. 第1回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が2回(1次、2次)行われます。

<1次説明・受付>

・ 第1回目授業開始時刻(1時限8時40分、2時限10時20分、4時限14時40分)に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

・ 1次受付で定員に達したクラスは、2次受付は行いません。

<2次説明・受付>

・ 1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻(1時限9時40分、2時限11時20分、4時限15時40分)までに希望クラスの教室に行ってください。授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

・ 2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口提出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語BⅠ」、「英語BⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。ただし、「通常クラス」から「基礎クラス」、「上級クラス」に限って変更ができます。

(ウ)「英語BⅠ」、「英語BⅡ」の「基礎クラス」と「上級クラス」は、前期から開講されます。ただし、食農学類に関しては「基礎クラス」、「上級クラス」は開講されません。成績評価は「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

・「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、「通常クラス」と同様、第1回目授業開始時刻（1時限8時40分、2時限10時20分、4時限14時40分）に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻（1時限9時40分、2時限11時20分、4時限15時40分）までに希望クラスに行ってください。授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口提出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(I)前期に通常クラスに所属していた学生に限り、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」へ変更可能です。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の可否は掲示板等でお知らせします。

（前期の時点で「基礎クラス」、「上級クラス」が定員を満たしている場合、また希望人数が多い等の場合は希望が認められないことがあります。）

(オ)食農学類の学生で「英語BⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（月曜1時限または水曜1時限）の「英語BⅠ基礎クラス」または「英語BⅠ上級クラス」を受講することができます。他学類枠（月曜1時限または水曜1時限）の「英語BⅠ基礎クラス」または「英語BⅠ上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(I)）を行ってください。

(カ)食農学類の学生で「英語BⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（水曜2時限または金曜2時限）の「英語BⅡ基礎クラス」または「英語BⅡ上級クラス」を受講することができます。他学類枠（水曜2時限または金曜2時限）の「英語BⅡ基礎クラス」または「英語BⅡ上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(I)）を行ってください。

<応用英語について>

- (ア) 1年次から、「応用英語」を履修することができます。
- (イ) 当該科目は、それぞれの授業の目的・内容が異なります。詳細はシラバスに記載されています。
- (ウ) ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。
例：応用英語 X I、X II → 別の科目
- (エ) 修得した単位は、教養領域・外国語科目の単位として計上されます。
- (オ) 受講人数が多い場合、受講調整が行われることがあります。
- (カ) 同一曜日・同一時限の応用英語とアドバンスト演習は、同じ科目としてみなされるため、再修得できません。

<再履修等の履修手続きについて>

- (ア) 2年次生以上で「英語 A I・A II」、「英語 B I・B II」の再履修希望学生は、基盤教育係窓口から「英語再履修希望調査カード」を受け取り、第1回目授業開始時に希望クラスの教室に行き、カードを担当教員に提出してください。第1希望のクラスが受入不可で、第2、第3希望のクラスでも受付不可だった場合は、基盤教育係窓口まで申し出て下さい。

再履修希望カード配布時期：前期 3月中旬～下旬 / 後期 9月中旬

- (イ) 1クラス（半期）のみの再履修希望学生は、修得済みクラスの開講時期（前期／後期）に関わらず、前期、後期いずれでも履修可能です。
- (ウ) 再履修以外の理由（休学等）で、「英語 A I・A II」を2年次生以上、「英語 B I・B II」を3年次生以上で履修する学生も同じ手続きをとってください。
- (エ) 再履修として前期から履修している学生は、後期の再履修手続は不要です。後期は、前期と同一教員のクラスになります。前期に「通常クラス」に所属し、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、所定の手続きをとってください。
- (オ) 4年次生以上で専門教育科目の履修の関係で英語の再履修が困難な学生は、英語再履修受付期間に必ず基盤教育係窓口へ申し出て下さい。

<外部検定試験の活用について>

「2019年度入学生からの英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

<海外語学研修について>

「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

英語以外の外国語について

<英語以外の外国語について>

英語以外の外国語は下記のとおり「Ⅰは前期、Ⅱは後期」に開講されます。

言語	1年次	1年次希望者 (基礎と同一セメスター)	2年次
ドイツ語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
フランス語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
中国語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
ロシア語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
韓国朝鮮語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ

<英語以外の外国語：履修について>

(ア)人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類の場合

・**基盤教育接続領域外国語コミュニケーション科目**(履修基準表参照)として、1年次に英語以外の外国語(以下、非英と略す)の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(計2単位:Ⅰは前期、Ⅱは後期)を履修しなくてはなりません(必修)。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期または後期に15回受講し期末試験に合格することによって修得できます。

・**基盤教育教養領域外国語科目**(履修基準表参照)として、英語と非英のどちらか一方4単位、又は英語2単位と非英2単位、合わせて4単位を履修しなくてはなりません(選択必修)。外国語科目として履修できるのは、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」および「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」です。

(イ)共生システム理工学類・食農学類の場合

・**基盤教育教養領域外国語科目**として、1年次と2年次で英語4単位か、非英4単位か、英語2単位+非英2単位のいずれかの形で、4単位履修しなければなりません(選択必修)。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期または後期に15回受講し期末試験に合格することによって修得できます。

・**基盤教育教養領域外国語科目**の4単位を、英語4単位で修得するのではなく、非英も受けて英語2単位+非英2単位、または非英4単位で修得したい学生は、1年次で非英の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(2単位、(2)を参照)を修得する必要があります。また非英4単位を修得するには、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(2単位)に加えて、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」(2単位)又は「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」(2単位)((2)を参照)を修得する必要があります。

<英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」について>

(ア)「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」（１年次）

・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」（各１単位）は、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語の５言語から１言語を選択し、「基礎Ⅰ」と「基礎Ⅱ」は同じ言語を履修しなければなりません。

・「基礎Ⅱ」の履修は、当該言語「基礎Ⅰ」の単位修得が必要となります。なお、前期の「基礎Ⅰ」と後期の「基礎Ⅱ」は同一クラス（例えば「基礎ⅠA」と「基礎ⅡA」など）で履修します。

・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」は、行政政策学類と経済経営学類は火曜日２時限または木曜日２時限、人間発達文化学類と共生システム理工学類は火曜日３時限または木曜日４時限、食農学類は火曜日３時限に開講されます。

※人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類の学生は、接続領域として合計２単位を必ず修得しなければなりません。なお、上記２単位を修得した後、別言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」の修得が可能ですが、修得単位は、自由単位への計上となります。

(イ)「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」（１年次）

・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」履修者のうち希望者は、同時に同じ言語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」を履修することができます。この科目は「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」で学ぶ言語の勉強にもっと力を入れたい学生のための科目です。この科目を受講する学生は、１年次に同じ言語の授業を、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」と合わせて週２回受講することになります。なお「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」と同様にセットで履修しなければなりません。

・フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は、金曜日２時限に開講されます。金曜２時限に情報リテラシーや学術基礎科目、問題探究科目などの受講が確定した場合、フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は受講できません。なお、ドイツ語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は木曜日２時限と木曜日４時限、中国語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は火曜日２時限と火曜日３時限に開講されます。

・**なお、「基礎(特設)Ⅰ」を履修せずに「基礎(特設)Ⅱ」のみを履修することはできません。**

(ウ)「基礎（特設）Ⅰ」・「基礎（特設）Ⅱ」と「アドバンスト演習Ⅰ」（経済経営学類専門科目）

・「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」は、「アドバンスト演習Ⅰ①」「アドバンスト演習Ⅰ②」（経済経営学類専門科目）としても履修できますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育の外国語科目（必修４単位）に計上することはできませんので十分注意してください。**

・「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」（Ⅰは前期、Ⅱは後期）を、「アドバンスト演習Ⅰ」として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習Ⅰ①」と「アドバンスト演習Ⅰ②」（①は前期、②は後期）をあわせて履修してください。「基礎（特設）Ⅰ」と「アドバンスト

演習Ⅰ②」、または「アドバンスト演習Ⅰ①」と「基礎（特設）Ⅱ」を組み合わせで履修することはできません。

(I)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」（２年次）

・１年次の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」で学んだ語学力のレベルアップを図ります。また海外語学研修や留学への接続も意識した科目です。

・前期「応用Ⅰ」の履修には、当該言語「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」の単位修得が必要となります。また「応用Ⅱ」の履修には、当該言語「応用Ⅰ」の単位修得が必要となります。なお「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は同一クラス（例えば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」など）で履修します。

・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、すべての言語で火曜１時限と木曜３時限にあわせて２クラス以上が開講されます。「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」２単位を修得（次頁表②④の場合）するには、「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」とも同じ１クラス（たとえば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」）を選択し、それぞれ週１回受講しなければなりません。また「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」４単位を修得（上表③の場合）するには、「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」とも同じ２クラス（たとえば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」および「応用ⅠB」と「応用ⅡB」）を選択し、それぞれ週１回受講しなければなりません。クラス選択に指示がある場合はそれに従ってください。また②④において、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」のどちらかを修得できなかった場合、同一言語の「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」で代替が可能です。

・「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」は、同一言語で８単位まで修得できますが、４単位を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

(II)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」と「アドバンスト演習Ⅱ」（経済経営学類専門科目）

・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、「アドバンスト演習Ⅱ①」「アドバンスト演習Ⅱ②」「アドバンスト演習Ⅱ③」「アドバンスト演習Ⅱ④」（経済経営学類専門科目）として履修することもできますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育教養領域外国語科目（選択必修４単位）に計上することはできませんので十分注意してください。**

・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」（Ⅰは前期、Ⅱは後期）を、「アドバンスト演習Ⅱ①」「アドバンスト演習Ⅱ②」「アドバンスト演習Ⅱ③」「アドバンスト演習Ⅱ④」（①と③は前期、②と④は後期）として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習Ⅱ①」または「アドバンスト演習Ⅱ③」と「アドバンスト演習Ⅱ②」または「アドバンスト演習Ⅱ④」をセットで履修してください。「応用Ⅰ」と「アドバンスト演習Ⅱ②」、「アドバンスト演習Ⅱ①」と「応用Ⅱ」などの組み合わせで履修することはできません。

・アドバンスト演習Ⅱ①②③④の履修は、応用の修得単位に加えて８単位まで修得することができます。

(III)教養領域「外国語科目」では英語と英語以外の外国語の同一言語を下表①～④のいずれかで合計４単位を修得しなければなりません、学類毎に修得方法が違いますので注意してください。

下表①～④以外で外国語科目４単位を修得しても、卒業要件を満たしません。（英語で３単位＋英語以外の外国語で１単位、または英語で１単位＋英語以外の外国語で３単位では、卒業要件を満たしません。）

＜教養領域「外国語科目」4単位の修得方法：人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類＞

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類		
①	英語で4単位	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から4
②	英語以外で4単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2、応用Ⅰ・応用Ⅱを2
③	英語以外で4単位	同一言語の応用Ⅰ・応用Ⅱを4
④	英語で2単位と	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から2
	英語以外で2単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2、または応用Ⅰ・応用Ⅱを2

＜教養領域「外国語科目」4単位の修得方法：共生システム理工学類、食農学類＞

共生システム理工学類、食農学類		
①	英語で4単位	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から4
②	英語以外で4単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2、基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2
③	英語以外で4単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2、応用Ⅰ・応用Ⅱを2
④	英語で2単位と	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から2
	英語以外で2単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2

＜英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の履修手続きについて＞

(ア)「基礎Ⅰ」「基礎(特設)Ⅰ」の履修言語・クラスは、希望言語調査をふまえて担当教員が指定します。詳しくは新入生ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。なお「基礎Ⅰ」の希望者が1クラス30名を超える言語は、受講調整を行う場合があります。

(イ)「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」を履修する学生は、選択するクラスの第1回目の授業に出席してください。

(ウ)「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、履修撤回できません。

(I)履修方法について質問がある学生は、基盤教育係窓口にご相談してください。

＜英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の再履修手続きについて＞

(ア)「基礎Ⅰ」の再履修希望学生は、3月上旬～下旬に基盤教育係窓口から「英語以外の外国語基礎Ⅰ受講希望調査カード」を受領し、必要事項を記入の上、指定されたレポートBoxに提出してください。また「基礎Ⅰ」再履修とあわせて「基礎(特設)Ⅰ」の履修を希望する場合は、その旨を同カードに記入してください。手続き・詳細は1月下旬～2月上旬頃に掲

示で指示します。

- (イ) 履修クラスは 4 月の授業開始前に掲示します。その指示に従って第 1 回目の授業を受講してください。なお、この「受講希望調査カード」を提出しないと希望する言語が履修できないことがあります。
- (ウ) 「基礎Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第 1 回目の授業に出席してください。受講希望調査カードは不要です。事前に掲示による指示があった場合にはそれに従ってください。やむを得ない理由で第 1 回目の授業に出席できない場合は、必ず各言語の責任教員に相談してください。(責任教員は掲示により確認してください。)
- (I) 「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第 1 回目の授業に出席してください。

<その他>

- (a) 外部資格試験を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「2019 年度入学生からの英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」/ 掲示等でお知らせします。
- (b) 海外語学研修を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「2019 年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」/ 掲示等でお知らせします。
- (c) 留学ビザによる編入学生は「英語以外の外国語」として「日本語」の履修を認めることがあります。

<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>

・外国人留学生は、外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から**母語・母国語系統を除く 1 カ国語で次の①から③のいずれかの方法で 8 単位を修得しなければなりません。**(日本語の履修が望ましいです。)

①	日本語	「ⅠA・ⅠB」・「ⅡA・ⅡB」・「ⅢA・ⅢB」・「ⅣA・ⅣB」※1	8 単位
②	英語	「AⅠ・AⅡ」・「BⅠ・BⅡ」・「応用英語」※2	8 単位
③	英語以外の外国語	ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語 いずれか同一言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」、「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」※2	8 単位

※1 「日本語」はローマ数字の順で修得してください。

(例: 「日本語ⅡA」の履修は「日本語ⅠA」または「日本語ⅠB」どちらか 1 単位の修得が必要です。「日本語ⅢB」の履修は「日本語ⅡA」または「日本語ⅡB」どちらか 1 単位の修得が必要です。)

※2 「英語」、「英語以外の外国語」は、それぞれの履修方法を参照してください。

なお、8単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

・「日本事情」は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

上記で述べた点以外は、基盤教育の履修方法は一般学生と同じです。

教養領域の履修について

今日、高等教育で重視されている教養教育は、学生が他領域で学ぶ他の学生と価値観を共有し、より幅広く他領域の専門内容を理解し、協働するための「共通の言語」を形づくることを目的としています。これらを踏まえ「**教養領域**」では、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5単位
共生システム理工学類、食農学類	7単位
※外国人留学生（全学類）	7単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

（1）学術基礎科目について

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の分野からなり、幅広い教養教育の中心に位置する科目群です。各学問の基本的概念や特有の事象の見方・切り取り方を学ぶことによって、自らが専門として学ぶ学問とは異なる観点から多角的・学際的にアプローチする方法が数多く存在することに気づくことを目的としています。

<学術基礎科目の履修方法について>

- ①学術基礎科目の3分野（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）から各2単位を修得しなければなりません。
- ② ①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ③教員免許状取得を希望する学生は、「社会科学」分野の「日本国憲法」を修得してください。（ただし、行政政策学類生は学類の学修案内で科目を確認してください。）

④科目名称についての注意

- ・授業科目名の二桁の数字だけが異なる場合は、同一の授業科目とみなします。**この場合両方を履修することはできません。**

例：日本国憲法 01、02 → 同一の科目

- ・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり**両方を履修することができません。**

例：歴史学Ⅰ、Ⅱ → 別の科目

⑤行政政策学類生は「市民と法」「日本国憲法 01、02」を履修できません。

⑥経済経営学類生は「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」「経営学」を履修できません。

⑦「履修希望受付」は、以下の「抽選履修登録方法」手続きで行います。

<抽選履修登録方法>

受付期間等や「LC」の抽選履修登録方法は、教務関係日程表・マニュアル等により確認してください。

<1> 1次受付（前期科目4月初旬／後期科目10月上旬）

①履修希望科目のシラバスをあらかじめ確認し、曜日・時限毎に履修希望科目を「LC」で抽選履修登録してください。第3志望まで登録ができます。

②抽選履修登録の結果、教室収容人数を超える科目は「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。
受講調整が行われる場合、抽選となります。

③1次受付結果は「LC」で発表します。各自、確認してください。

④1次受付で受講が認められた科目の扱いは、以下のとおりです。

- ・受講調整があった科目は、当該時間帯で科目の変更・追加・撤回できません。
- ・受講調整がない科目は、原則として当該時間帯で科目の変更・追加できません。

⑤当該時間帯に1次受付で受講が認められた科目以外を登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び1次受付で受講が認められた科目も受講できなくなります。

⑥受講調整があった科目は、「LC」等でお知らせします。

<2> 2次受付（詳細は、1次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）

①1次受付後、受講調整を行った結果、履修希望が認められなかった学生に限り2次受付を行います。

受付期間・時間帯に注意してください。

②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

・1次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

③2次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

④当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び2次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

⑤2次受付結果は「LC」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

<3> 3次受付（詳細は、2次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）

①1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として特別に3次受付を行うことがあります。

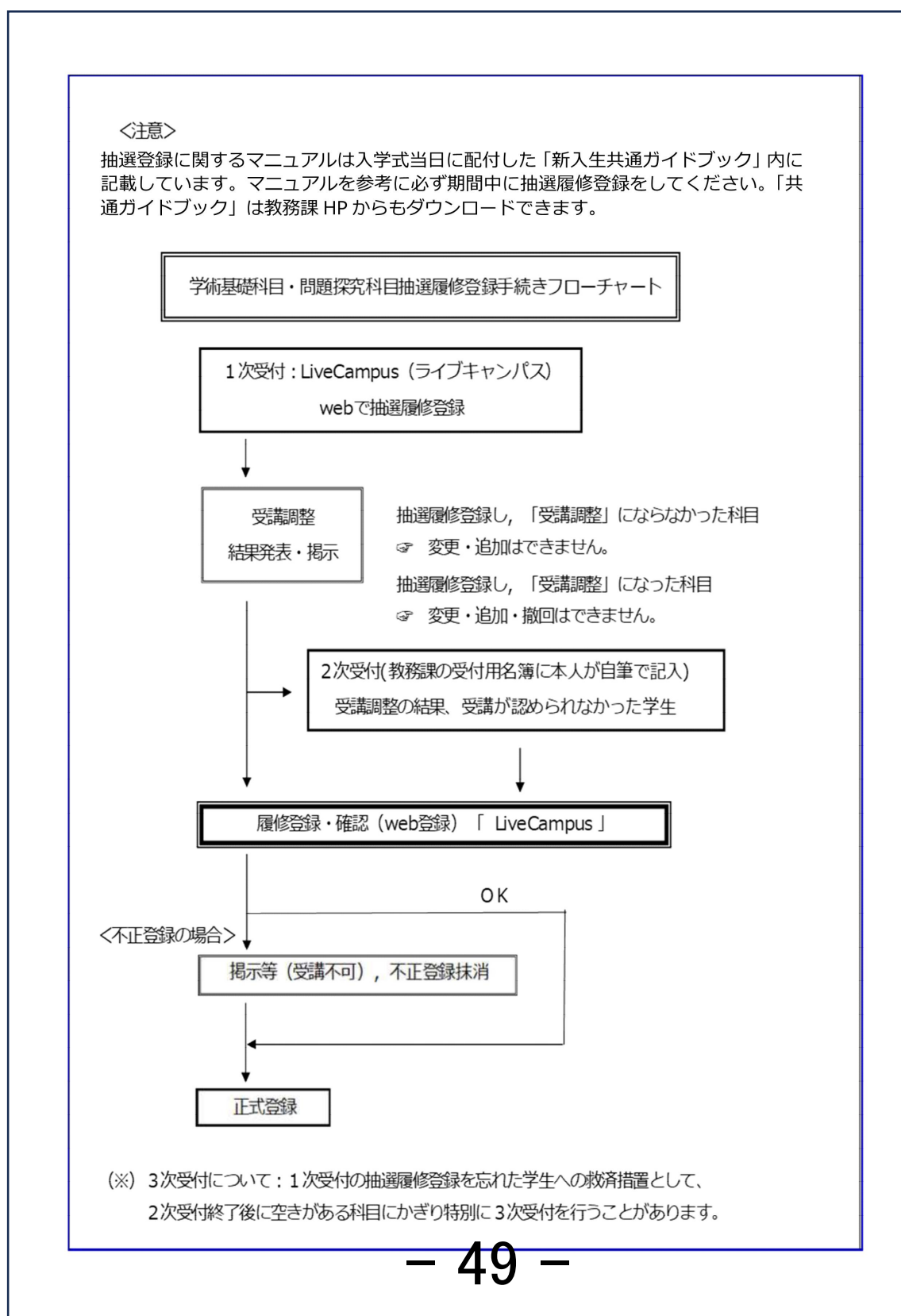
受付期間・時間帯に注意してください。

②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

・1次受付及び2次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

- ③ 3次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。
- ④ 当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び3次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。
- ⑤ 3次受付結果は「LC」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。



※「新入生共通ガイドブック」は教務課 HP からダウンロードすることも可能です。

(2) キャリア設計科目について

「キャリアモデル学習」「ワーキングスキル」の2科目からなります。「キャリアモデル学習」は各学類に関わりの深い職業人による、職業や仕事内容、人生設計などについての講義が中心の科目です。

「ワーキングスキル」は、めまぐるしく変貌を遂げる現代社会の中で、より豊かなキャリア設計を実現するために、最新のスキルや知識を修得するための科目です。

キャリアモデル学習は、別項目<キャリアモデル学習の履修について>を参照してください。

<ワーキングスキルの履修について>

2年生以上から履修が可能です。

「抽選履修登録方法」は、学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

(3) 健康・運動科目について

身体運動を楽しみ、生涯を通して、健康でスポーツに親しむ技能・知識を身に付けることを目的として「スポーツ実習」を開講します。

<スポーツ実習の履修について>

①「スポーツ実習」は、1年次後期から履修することができます。また、同一種目の場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は、選択必修または自由選択の単位になります。

②**第1回目の授業の際に受講調整を行います。集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と屋内シューズ、屋外シューズを持参し運動できる格好で出席してください。**欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

③スポーツ実習は、履修登録撤回できません。

④教員免許状取得のためには、「体育」科目として「健康運動科学実習」1単位に加え「スポーツ実習」1単位の修得が必要です。「スポーツ実習」の履修にあたっては、履修時限の指定はありませんが、下記表の曜日・時間にお

いては、指定された学類の教員免許状取得希望者を優先します。教員免許取得希望者は必ず第1回目の授業の際に担当教員に伝えてください。第1回目の授業に出席できなかった学生は、本嶋教員（保健体育棟114号）へ連絡をし、指示を受けてください。

スポーツ実習 教員免許希望者が優先される学類

月曜日 2時限 行政政策学類、経済経営学類

月曜日 3時限 人間発達文化学類

金曜日 3時限 共生システム理工学類、食農学類

（４）外国語科目について

別項目<英語、英語以外の外国語の履修について>を参照してください。

外国人留学生は、同じく<英語、英語以外の外国語の履修について>にある<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>も参照してください。

（５）情報科目について

高度情報化社会においてパーソナル・コンピュータやネットワークなどの情報機器を適切に操作・活用し、情報の収集・整理・編集・発信・コミュニケーションを主体的に行うための基礎スキルの修得をめざします。具体的には、基本的な情報機器の構成・操作方法を理解し、情報収集、文書作成・データ集計などの方法を学びます。また、インターネットなどの情報発信・コミュニケーションに関わる基礎知識を身につけ、セキュリティなど日頃注意を払うべき事柄と心構えを学びます。

学修内容：コンピュータのしくみ（ハードウェア/OS/ソフトウェア）/インターネットと情報セキュリティ/情報倫理/情報の収集・整理・編集の実際

<情報リテラシーの履修について>

①修得単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

なお、教員免許取得を希望する学生は、『情報リテラシー』か『社会とデータ科学の基礎』を必ず修得してください。

②情報リテラシー、社会とデータ科学の基礎は、履修登録撤回できません。

- ③受講を希望する学生は、各自で持ち運び可能なノートパソコンを準備し、大学に持参してください。推奨する PC のスペック等については、福島大学ホームページ内の BYOD サポートページを参照してください。

■前期履修手続き

- ・「情報リテラシー」の履修希望者は、「LC」の学内アンケート「情報リテラシー受講希望調査」に希望クラスを選択回答してください。受講希望に基づき、決定した所属クラスを決定次第、「LC」及び基盤教育掲示板に掲示します。

1 回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと教室を確認して履修してください。

- ・全て同一科目のため複数クラスは受講できません。
- ・受講希望者数がクラスの収容人数を超えた場合、抽選となります。
- ・2年次生以上の学生は、基盤教育係窓口から「受講希望調査カード（2年次生以上）」を受領し、希望クラスを記入のうえ、基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は3月下旬～4月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「**情報リテラシー**」の履修登録は教務課で行います。

■後期履修手続き

- ・前期の履修手続きで後期開講「情報リテラシー」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要はありません。掲示情報を確認し、所属クラスの授業を履修してください。
- ・前期の履修希望受付期間に「希望調査カード」を提出しなかった後期履修希望学生、再履修希望学生は受講可能なクラスを掲示で確認し、受講希望カードを基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は9月下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「**情報リテラシー**」の履修登録は教務課で行います。

■再履修について

- ・「情報リテラシー」の再履修は基本的に認められますが、受講希望人数が収容可能数より多い場合は抽選をおこない、再履修者の受講を決定し、掲示でお知らせします。

(6) 高年次教養科目について

「教養領域」の科目は、学年指定がない限り1年次のうちに履修してしまう学生が多いと思います。しかしながら、幅広く他領域の専門内容を理解し、学際性を養うことは、本格的に専門教育を学び始めた2年次以上でも大事になってきます。

そのために、「高年次教養科目」という仕組みを設けました。対象となる他学類の専門科目や教育推進機構開講科目を2年次以上で履修した場合に、基盤教育の「教養領域」と「問題探究領域」にまたがる選択必修の単位として計上することができます。（学類毎の単位数は下表のとおりです。）必修単位分として計上することはできないので注意してください。なお、対象となる科目名等は、別途掲示を確認してください。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5単位
共生システム理工学類、食農学類	7単位
※外国人留学生（全学類）	7単位

(7) キャリアモデル学習の履修について

①学類毎の開講となります。詳細は、掲示等でお知らせします。

②人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類は「キャリア設計科目」の中から
選択して修得することになります。

開講	科目	担当教員	曜日	時 限	履修 年次	単 位	教室	備考
前期	キャリアモデル学習	福富靖之・ 村上早紀子	木	5	3	2	L3	経済経営

問題探究領域の履修について

「問題探究領域」は、東日本大震災や地域の過疎化などの現実的な問題から、「自分事」として取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行うことを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5単位
共生システム理工学類、食農学類	7単位
※外国人留学生（全学類）	7単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

（１）問題探究科目

福島の震災・原発事故に関する問題や、地域や世界の今日的な課題を学び、その原因解明や問題解決方法を考えることを目的とし、「問題解決を基盤とした学習」の中心に位置づく科目です。

具体的な問題解決の事例や各学問によるアプローチの手法を学ぶ講義型科目のほか、学生たちが自ら問題解決に取り組むアクティブ・ラーニング型の科目も開講します。

<問題探究科目の履修について>

- ① 2単位を修得しなければなりません。
- ② ①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ③ 行政政策学類生は、夜間開講の問題探究科目で受講できる科目があります。
詳細は、行政政策学類の掲示等で確認してください。
- ④ 科目名称についての注意
 - ・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。
例：ふくしま未来学入門Ⅰ，Ⅱ → 別の科目
- ⑤ 「抽選履修登録」は、教養領域の学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。
- ⑥ 「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。

(2) 自主学修プログラム

自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、任意の教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。活動は、自主的な協働学修やプロジェクト型の学修が主たる内容です。

自主学修プログラムは、学修の企画を立ち上げ、計画し、実践して成果をまとめるという一連のプロセスを評価し、単位認定します。

<自主学修プログラムの履修について>

- ①修得単位（1単位または2単位／認定単位は「N（認定）」評価）は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ②前期申請は4月、後期申請は10月です。詳細は、別途掲示等を確認してください。

(3) 問題探究セミナー I の履修について

「問題探究セミナー I」は、本学の教育理念でもある「問題解決を基盤とした教育」の入口科目で「スタートアップセミナー」とともに初年次教育の重要な科目であり、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルの定着を目的とするのに対し、この科目は現実の問題に対する理解・探究・解決を目的とするものです。すなわち、両者は縦糸と横糸の関係になります。

<問題探究セミナー I の履修手続きについて>

- ① 2 単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
- ② 未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」／各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。
- ③ 問題探究セミナー I は、履修登録撤回できません。

問題探究セミナー I 担当者一覧

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数
問題探究 セミナー I	A	木 3	荒知宏	2	2
	B		井上健		
	C		沼田大輔		
	D		尹 卿烈		
	E		金善照		
	F		村上早紀子		
	G		藤原遥		
	H		末吉健治		
	I		三家本里実		
	J		生島和樹		
	K		根建晶寛		
	L		稲村健太郎		
	M	木 5	井本亮		

1. ラーニングポートフォリオ（Lポートフォリオ）について

ラーニングポートフォリオ（Lポートフォリオ。「LC」上は「学修ポートフォリオ」という名称になっています。この文章上も以降Lポートフォリオで説明します。）は、自身の学修履歴の記録や学修の振り返りのツールで、「LC」上に構築されています。Lポートフォリオで自己評価を記録していくことにより、自身の能力向上への意識が強くなります。また、評価結果は授業やカリキュラムの改善にフィードバックされます。

Lポートフォリオを使う場合は、ネットワークに接続し、自身のコンピュータを使って、「LC」にアクセスし、左部メニューから選択します。Lポートフォリオでは、次のことを行います。

(1) 学修目標：長期的な目標として、自己認識、年次ごとの目標、 Semesterごとの活動記録、教職履修カルテ（教職登録者のみ活用）などを記録します。

(2) 学修成果シート：短期的な目標として、基盤教育、専門教育、英語の3区分において、目標 → 活動成果（振り返り）を記録します。

〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉（全学 DP）や自分の所属する学類の DP（DP はディプロマ・ポリシーの略で、大学が学位を与える方針）に即して作られたルーブリック（評価基準表）で自己評価します。また、自己評価のコメントも記入します。

(3) 成績情報の確認：「成績ダッシュボード」において、各自の成績をグラフなど視覚的な情報として確認することができます。

(4) その他：教員免許状を取得する場合は教職履修カルテを登録したり、ボランティア活動やサークル活動など各自の活動記録を自由に記録できます。

学修成果シートは、Semester（学期）ごとに、**指定された期間内に記入する必要があり、記入が完了しないと、次のSemesterの履修登録ができません。**

全学 DP、各学類のルーブリックは下記のとおりです。左側に能力の内容を示し、「克服すべきレベル」から「応用レベル」まで能力のレベルが記載されています。各項目の内容をよく読んで、自身が該当するレベルをLポートフォリオ上でマークしてください。

(https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/pdf/f_guidebook/portfolio_manual.pdf)

→「学修ポートフォリオ利用マニュアル」

〈全学 DP の〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉ルーブリック〉

大項目*	中項目**	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
最新の専門知識及び技術 (専門知識・技術)	資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル	ほとんどのアカデミックスキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	基本的なアカデミック・スキルを身に付けており、ある程度実用レベルに達している	授業以外でもアカデミック・スキルを身に付けようと努力している	大学で学修するためにアカデミック・スキルを身に付ける必要があることを理解できる	基本的なアカデミック・スキルが身につけていない
	最新の学問的知識や技術を身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や技術を改善したり更新したりする態度	自身の専門分野のより新しい知見を得ようとしており、それを社会に役立てようとしている	自分の専門分野では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自分の専門分野に関する本やインターネットの記事を読んだり集めたりしている	自身が大学で身に付けるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、力や意欲も足りない
本質を見極めるための教養と学際性 (教養と学際性)	物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着	身近な事象や社会的な事象を幅広い教養で受け止め、専門にこだわることなく探究しようとする	人文科学や社会科学、自然科学と自分の専門を関連付けることができる	自分の専門分野以外の本やインターネットの記事を日常的に読んでいる	教養を身に付ける必要性を理解している	探究的態度が弱く、教養の必要性を理解していない
	他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築	専門性を拡張させ、物事を総合的に見るために、幅広い知識のネットワークが構築できている	自身の専門領域以外に関心をもつ学問分野を持っており、知識をつなぎ合わせることができる	レポートを書くとき、自分の専門分野以外の領域にも言及することができる	知識と知識を関連付けることの必要性を理解している	知識が断片的で、自分の専門分野の意味も理解できていない
協働的な問題探究 (社会的スキル)	日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル	幅広い問題意識や問題発見・解決のスキルを実際の問題解決に活用できる	問題の持つ多様な側面を分析し、自分なりのアプローチで問題解決に向かおうとする	自分の関わる日常的問題について粘り強く問題解決に向けて努力することができる	日常生活や国際社会に対する問題意識を一定程度もっている	日常生活や国際社会に対する問題意識が弱い
	高度なリーダーシップやフォロワーシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践	高度なグループワークのスキルが身につけており、他者と協働して問題探究できる	グループワークでリーダーシップを発揮することができ、全体がうまくいくように工夫できる	グループワークにおいて、自身の役割を意識して参加することができる	少々苦手であってもグループワークに参加することができる	グループワークのスキルが身につけておらず、他者との協働が苦手である

社会の改善 につなげる 創造性 (認知的ス キル)	事実にもとづく客観 的な社会の把握、お よび多面的にアプロ ーチするためのデー タ解析やフィールド ワークなど様々なツ ールの駆使	様々なツールを 駆使して、事実 に基づき客観的 に社会を把握で きる	様々な知見に基 づいてデータを 分析し、事実 に即してアイディ アを生むことが できる	本やインターネ ット、フィール ドワークなどか ら、より客観的 なデータを得る ことができる	物事を一面的に とらえるだけで はまずいことを 知っている	主観的で、物事 の把握が一面的 である
	社会と自身の関係を 問い直し、常識にと らわれることのない 独創的で未来志向 的な思考方法と失敗を 恐れないチャレンジ 精神	独創的で未来志 向的な思考方法 と失敗を恐れな いチャレンジ精 神を持ち、社会 に貢献しようと する	自分の考えを理 路整然と述べる ことができ、他 者との違いを調 整できる	うまく発表でき ないまでも、理 屈に合った自分 なりの考え方を 持っている	他人に流されな い自分なりの考 え方を持つよう している	一般的な考え方 に流されやす く、これまでの やり方にこだわ る
市民として の主体的態 度 (態度や価 値観)	東日本大震災及び東 京電力福島第一原子 力発電所事故の被災 地に学ぶ者として、 被災の概要を知り、 被災地に寄添い共感 的にアプローチする 態度	被災地に学ぶ者 として、現状を 十分に理解して おり、被災者に 共感的にアプロ ーチできる	被災地の特定分 野や特定地域に 関心をもってお り、復興に必要な 術を考えること ができる	関係授業、フィ ールドワークや 学習会に参加す るなどして自分 なりに情報を集 めたことがある	福島大学が東日 本大震災・原発 事故の被災地 にあることを意識 している	東日本大震災へ の関心が薄く、 被災地への共感 が薄い
	地域の抱える課題を 社会が直面する 21 世紀的課題として捉 え直し、主体的に探 究しようとする態度	地域の抱える課 題を社会が直面 する 21 世紀的 課題として捉え 直し、主体的に 探究しようとし る	身近な課題を世 界が直面するグ ローバルな課題 と関連付けてと らえ、探究しよ うとする	すべてではない にせよ地域や社 会の抱えている 課題の現状を知 っている	少子高齢化や環 境問題などの現 代社会が抱えて いる課題に関心 をもっている。	日本や世界全体 が直面している 課題への関心が 薄い

* 大項目は〈福島大学生に期待する姿勢および能力〉を表します。

** 中項目は「大項目」の下位に属する具体的な説明を表します。

経済経営学類DPルーブリック

大項目	中項目	4	3	2	1	0
I 経済学と経営学の専門知識	各コースが掲げる専門的力量を身につけている。	経済、経営に関するリテラシーおよび専門知識が十分身につけている	経済、経営に関するリテラシーが身につけており、専門知識もある程度獲得している	ひととおり経済、経営に関するリテラシーが身につけている	経済、経営事象に興味があり、専門知識の必要性を認識している	経済学、経営学に興味関心を抱いていない
	それを応用して課題を発見、分析し解決に取り組むことができる。	習得した専門知識を用いて課題の発見や分析に自発的に活用している	習得した専門知識を課題の発見や分析に活用しようと試みている	社会的課題の解決を意識して専門知識を習得する意識をもっている	社会的課題と専門知識の結びつきを意識していない	経済事象に関心がない
II エビデンスにもとづいて論理的に思考する力	量的、質的なデータを適切に収集し、エビデンスにもとづいて分析することができる。	データから導かれた結果をもとに、課題に対して適切な結論を導くことができる	データを活用し、課題に即して適切に処理する意識および技術を備えている	基本的なデータの収集方法を身につけており、それを実践する意欲を備えている	エビデンスにもとづいて分析することの重要性を認識しているが、データ利用という観点はもっていない	エビデンスにもとづいて分析するという意識が全くみられない
	論理的に思考し、多面的かつ柔軟な考察を展開できる。	課題に対する多面的なとらえかたについて、それらの関連性を示し、柔軟な結論を導くことができる	課題に対して多面的なとらえかたを提示するとともに、それらの関連性について考察する意識を備えている	課題に対して多面的なとらえかたを提示することができる	物事を一面的にとらえるだけでは不十分であることを知っている	主観的で、物事の把握が一面的である
III フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力	様々なフィールドを通じて、社会の課題に主体的、実践的に取り組むことができる。	専門知識を活かして社会の課題を分析し、基本的な調査スキルを身につけ、フィールドワークにより一定の課題解決を図っている	社会の課題に対して、専門知識を活かそうという意識があり、基本的な調査スキルを身につけ、主体的にフィールドワークに取り組んでいる	社会の課題について関心を持っており、フィールドワークにも参加している	社会の課題について若干関心を持っているが、フィールドで活動しようという意識がみられない	社会の課題について関心を持たず、フィールドで活動するという意識が全くみられない
IV グローバルに思考し実践に進む力	調査研究やコミュニケーションのために実用的な語学力を身につけている。	英語）その場や会話の参加者に応じた適切な言葉遣いで、社会的な内容について自分自身の述べたいことを明確に伝えることができる その他の外国語）単純な表現を使って日常生活に関連する話題について個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる	英語）馴染みのある状況では十分な駆使能力がある。母語の影響が残るが、本人が述べようとしていることは伝わる その他の外国語）ゆっくりと明瞭な発話において、場の状況に関連した句や表現が理解でき、基本語彙を用いた短い簡単な文を作れる	英語）単純な表現を使って日常生活に関連する話題について個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる その他の外国語）挨拶や自己紹介など複数の場面での会話ができ、基本語彙を用いた短い簡単なテキストを時間をかけて理解できる	英語）発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域に関連した句や表現が理解できる その他の外国語）挨拶など限定された場面での会話ができ、基本的な単語を発音でき、それらを用いたテキストをゆっくり音読できる	英語）よく用いられる、日常的なあいさつや応答、基本的な語彙を用いた短い簡単なテキストが理解できない その他の外国語）基本的な挨拶ができず、単語を発音できず、短い簡単なテキストを音読できない
	海外や地域の課題解決に向けて、対象を適切に調査し、実践に関わることができる。	異なる価値観をもつ人と積極的に関わる適切な方法を身につけており、調査や実践を通して課題解決への方法が身につけている	異なる価値観をもつ人と積極的に関わりようとする意欲を持って、調査や実践に取り組んだ経験を持つ	海外や地域の課題解決を理解し、それに向けての実践に参加したことがある	海外や地域の課題があることを理解し、その解決のための調査や実践について学習したことがある	海外や地域の課題解決に目を向けようとする意欲や問題意識が生まれず、実践の必要性を理解できない
V キャリアを見据え自立し協働する力	人間的な働き方と暮らし方を志向しながら、社会的、倫理的な観点から自らを律するとともに目標設計を主体的に行うことができる。	自分にも他者にも持続可能な働き方と暮らし方を志向しながら、具体的な目標を定め、その目標に向けて諸資源を有効に活用できる	自分にも他者にも持続可能な働き方と暮らし方を志向しながら、具体的な目標を定め、その目標に向けて努力ができる	不十分ながら、自分自身を含めた人間の働き方や暮らし方に関心があり、学習や活動においてそれを意識している	自分自身を含めた人間の働き方や暮らし方に関心はあるけれども、学習や活動の動機とするには至らない	自分自身を含めた人間の働き方や暮らし方に関心をもたない
	相手の立場と意見をふまえながら、自分の意見を述べ、討論し、文章で表現できるようなコミュニケーション能力を通じて、他者と共創し協働できる。	人間の多様性を前提として、自分とは異なる他者に配慮した意見表出ができるとともに、他者と協力し合って活動できる	人間の多様性を前提として、自分とは異なる他者に配慮した意見表出と、他者と協力し合って活動する努力ができる	学習や活動におけるその反映には不十分なところがあるが、人間が多様であることは理解している	他者の存在に関心はあるけれども、学習や活動の動機とするには至らない	他者の存在に関心をもたない

経済経営学類の教育方針

○ ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラム・ポリシー(CP)

経済経営学類の教育目標は以下に掲げるⅠ～Ⅴの5点です。これらの教育目標をもう少し詳しく説明したものをディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）といたします。そして、DPの求める能力を身につけてもらうようにどのようにカリキュラムを編成しているのかを述べたものをカリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成の方針）といたします。

1. 経済経営学類の教育目標

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身につけ、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成する。

- Ⅰ 経済学と経営学の専門知識
- Ⅱ エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- Ⅲ フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- Ⅳ グローバルに思考し実践に進む力
- Ⅴ キャリアを見据え自立し協働する力

2. 経済経営学類ディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）

本学類は、現代社会で起こっている様々な問題に関心をもち、それらを経済学と経営学の視点でとらえる能力をもつことによって、社会において実践できる人材を養成する。そのため以下の5つの能力をディプロマ・ポリシーとして提示する。

- Ⅰ 経済学と経営学の専門知識
 - 各コースが掲げる専門的力を身につけている。
 - それを応用して課題を発見、分析し解決に取り組むことができる。
- Ⅱ エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
 - 量的、質的なデータを適切に収集し、エビデンスにもとづいて分析することができる。
 - 論理的に思考し、多面的かつ柔軟な考察を展開できる。

Ⅲ フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力

様々なフィールドを通じて、社会の課題に主体的、実践的に取り組むことができる。

Ⅳ グローバルに思考し実践に進む力

- 調査研究やコミュニケーションのために実用的な語学力を身につけている。
- 海外や地域の課題解決に向けて、対象を適切に調査し、実践的に関わることができる。

Ⅴ キャリアを見据え自立し協働する力

- 人間的な働き方と暮らし方を志向しながら、社会的、倫理的な観点から自らを律するとともに目標設計を主体的に行うことができる。
- 相手の立場と意見をふまえながら、自分の意見を述べ、討論し、文章で表現できるようなコミュニケーション能力を通じて、他者と共存し協働できる。

3. 経済経営学類カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成の方針）

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身につけ、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成する。これにしたがって、本学類のディプロマ・ポリシーでは、Ⅰ 経済学と経営学の専門知識、Ⅱ エビデンスにもとづいて論理的に思考する力、Ⅲ フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力、Ⅳ グローバルに思考し実践に進む力、Ⅴ キャリアを見据え自立し協働する力の5つを掲げる。これらの達成に向けて、以下の方針でカリキュラムを構築している。

Ⅰ 経済学、経営学分野の専門知識を習得させるため、専門教育を系統的に編成する。

1. 第1～3セメスターにおける、経済学・経営学分野の基礎基本に関する一連のリテラシー科目群
2. 第4セメスター以降における、コースごとの系統的編成による専門教育
3. より高度な学修を可能にするアドバンスト科目群（大学院科目など）
4. 4年間を通じた演習形式での小集団教育
5. 必修の卒業研究

Ⅱ エビデンスにもとづいて論理的に思考する力を養成する。

1. リテラシー科目から卒業研究に至る科目編成を通じて、論理的思考力を育成する。

2. データを適切に収集し客観的に分析する力を養成するための調査法とデータ分析手法に関する科目群（調査・分析スキルズ）

Ⅲ フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力を養成する。

1. 課題解決に向けて主体的に取り組む力を養成する、演習形式の実践的科目群
2. 企業・各種団体など様々な外部組織と大学が協同運営する「コーオペ演習」および「連携講義」

Ⅳ 社会のグローバルな要請に対応するための実践的な教育を展開する。

1. 幅広い世界認識と多文化理解、外国語能力の重点的向上を目指す特別な学修プログラム、海外での学修を組み入れた実践的科目群
2. グローバルな課題に取り組む思考力と実践力を身につけるための、座学とフィールドワークの連結
3. ローカルな課題に取り組む思考力と実践力を身につけるための、座学とフィールドワークの連結

Ⅴ キャリアを見据え自立し協働する力を養成する。

1. 労働と生活にかかわる制度や状況を整理し、これからの働き方と暮らし方を示す科目群
2. 幅広い教養と自己認識を深め、コミュニケーション能力を高めることによって、自立する力、協働する力を養成

Ⅵ. アドバイザー教員による履修計画及び学生生活全般に係る助言指導体制をおく。

○ 経済経営学類の教育内容

・学類カリキュラムマップ

カリキュラムマップは1年次・第1セメスターから4年次・第8セメスターまでの、各セメスターでの標準的な学修の流れを示したものです。

各自の志向や実際の履修状況、単位修得の状況によって学修の道のは変わってきます。科目区分や単位数などは履修基準表で確認してください。

		1年次	
		第1セメスター	第2セメスター
基 盤 教 育	外国語コミュニケーション科目、 外国語科目	【英語、英語以外の外国語】 ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語	
	学術基礎科目、 健康・運動科目、 情報科目	【学術基礎科目(人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野)、 健康運動科学実習・スポーツ実習、情報リテラシー】	
	スタートアップ科目	スタートアップ・セミナー	
	問題探究セミナー		問題探究セミナー I
専 門 教 育	学類基礎科目	【リテラシーA】	
		入門マクロ経済学、入門政治経済学、入門経営学、簿記概論 I	入門ミクロ経済学、簿記概論 II

			【リテラシーB】
			歴史と経済、基礎経営学Ⅰ、 多文化理解
	コース専門科目	【グローバル・エキスパート・プログラム】	
自由選択	【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】		

		2年次	
		第3セメスター	第4セメスター
基 盤 教 育	外国語コミュニケーション 科目、外国語科目	【英語、英語以外の外国語】 ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語	
	キャリア設計科目	ワーキングスキル	
	学術基礎科目、 健康・運動科目、 情報科目	【学術基礎科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学 分野）、健康運動科学実習・スポーツ実習、情報リテラシー】	
専 門 教 育	問題探究科目	問題探究セミナーⅡ	
	学類基礎科目	【リテラシーA】 入門統計学	

		<p>【リテラシーB】</p> <p>ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、世界経済論Ⅰ、地域と経済、基礎経営学Ⅱ、入門会計学</p>	
	コース専門科目		<p>【経済学コース専門科目】</p> <p>経済理論モデル</p> <p>グローバル経済モデル</p>
			<p>【経営学コース専門科目】</p> <p>地域経営モデル</p> <p>会計ファイナンスモデル</p>
			<p>専門演習・AL 科目群</p>
			<p>【会計エキスパート・プログラム】</p> <p>【キャリア・リテラシー】</p> <p>【調査・分析スキルズ】</p>
		<p>【グローバル・エキスパート・プログラム】</p>	
自由選択		<p>【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】</p>	

		3年次	
		第5セメスター	第6セメスター
基盤教育			
	キャリア設計科目	キャリアモデル学習	
専門教育	コース専門科目	【経済学コース専門科目】	
		経済理論モデル グローバル経済モデル	
		【経営学コース専門科目】	
		地域経営モデル 会計ファイナンスモデル	
		専門演習・AL科目群	
		【グローバル・エキスパート・プログラム】 【会計エキスパートプログラム】 【キャリア・リテラシー】 【調査・分析スキルズ】	
自由選択		【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】	

		4年次	
		第7セメスター	第8セメスター
基盤 教育			
専門 教育	コース専門科目	【経済学コース専門科目】	
		経済理論モデル グローバル経済モデル	
		【経営学コース専門科目】	
		地域経営モデル 会計ファイナンスモデル	
		卒業研究演習Ⅰ	卒業研究演習Ⅱ
			卒業研究
自由選択		【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類 開放科目など】	

○ コースとモデルについて

1. 経済経営学類の専門教育の構成

経済経営学類の専門教育はおおよそ次のような流れで構成されます。

まず、第1 Semesterから第3 Semesterでは「リテラシーA」「リテラシーB」科目という経済学・経営学の基幹的科目を学びます。リテラシーA・B科目は専門教育の入門科目という位置づけです。

第4 Semesterからは「経済学コース」または「経営学コース」のどちらかに所属し、本格的に展開されていく「コース専門科目」によって系統的な学修を深めていきます。また、各コースには望ましい履修パターンとしての「モデル」があります（各コースの概要は次項以降のコース概要を参照してください）。

経済学コース： 経済理論モデル、グローバル経済モデル

経営学コース： 地域経営モデル、会計ファイナンスモデル

あわせて、小集団学修方式による学修として、第1 Semesterの「スタートアップ・セミナー」、第2 Semester「問題探究セミナーⅠ」、第3 Semester「問題探究セミナーⅡ」、本格的な専門教育の段階に入り、第4～6 Semester「専門演習」、そして、学修の集大成としての第7・8 Semester「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」と「卒業研究」に続いていきます（詳しくは「カリキュラムマップ」「履修基準表」「開講科目一覧」「専門領域の履修について」を相互に参照してください）。

2. コース所属について

コース所属は第3 Semesterの所定の期間に、希望に基づいて決定されます。

学生の希望が尊重されますが、希望者が定員を超えたコースについては、それまでの成績に基づいて決定されます。

● コース定員

経済学コース：120名

経営学コース：100名

● コースの定員超過の場合の決定方法

- (1) 第2セメスターまでの総修得単位数（N認定科目を含む）が32単位以上の者を優先する
- (2) (1)の者を対象に、総GPAの順位で決定
- (3) その後、第2セメスターまでに32単位未満の者の修得単位数にしたがって決定
- (4) コース所属希望調査について未回答の者は定員に空きのあるコースに割り当てる

学生は必ずどちらかのコースに所属しなければなりません。コースは原則として変更することはできません。ただし、正当な理由によって第5セメスターから転コースを希望する学生については、所定の手続きを経て、認否を決定します。

経済学コース

1. コース概要

経済学コースは、これまでの経済分析専攻と国際地域経済専攻をひとつに統合したコースです。経済社会の課題、歴史と現在と未来を考えるために、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみなさんにとっても、科目が選びやすくなり、経済社会をより多角的に理解することにつながります。

経済理論モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適応することができる人材の育成を目指します。

グローバル経済モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだ上で、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材育成を目指します。

2. 望ましい履修パターン

セメスター	経済理論モデル	グローバル経済モデル
1	リテラシーA：入門マクロ経済学 入門政治経済学 入門経営学 簿記概論 I	
2	リテラシーA：入門ミクロ経済学 簿記概論 II リテラシーB：歴史と経済 多文化理解	
3	リテラシーA：入門統計学 リテラシーB：ミクロ経済学 I マクロ経済学 I 世界経済論 I 地域と経済 入門会計学	
4	ミクロ経済学 II マクロ経済学 II 入門金融論 経済数学 経済政策 地域経済論 経済学史 統計学概論 財務諸表論 I	ミクロ経済学 II マクロ経済学 II 社会開発論 調査法 I 経済政策 地域経済論 経済学史 統計学概論 国際関係論
5～8	国際経済学 応用経済分析 公共経済学 環境経済学 産業組織と規制の経済学 計量経済学 産業連関分析 国際金融論 地域金融論 財政学 地方財政論 社会政策 労働経済 地域政策論 交通政策論 日本経済論 社会思想史 日本経済史 比較経済史 政治経済学 卒研のための統計分析 財務管理論 現代ファイナンス論 財務諸表論 II	地方財政論 地域政策論 交通政策論 日本経済論 開発経済学 世界経済論 II アメリカ経済論 欧州経済論 アジア経済論 社会思想史 日本経済史 比較経済史 政治経済学 環境経済学 産業連関分析 国際経営論 国際経済学 国際金融論 調査法 II 海外調査

(注) 上記はあくまでも望ましい履修パターンで、パターンどおりの履修を強制するものではありません。

経営学コース

1. コース概要

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPO など)を含め、より幅広い視野で経営現象を捉えます。とりわけ、地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を越えて学びます。

経営学コースには履修モデルとしての「地域経営モデル」と「会計ファイナンスモデル」があります。

地域経営モデル

少子高齢化や人口減少などの課題を抱えている地方都市、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材の育成を目指します。

会計ファイナンスモデル

企業活動の結果分析と将来に向けた適切な経営意思決定を行うために必要とする会計情報を活用できるスキルと知識の習得を目指します。また、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学修し、会計数値を経営行動に活用できる人材の育成を目指します。

2. 望ましい履修パターン

セメスタ ー	地域経営モデル	会計ファイナンスモデル
1	リテラシーA：入門マクロ経済学 入門政治経済学 入門経営学 簿記概論Ⅰ	
2	リテラシーA：入門ミクロ経済学 簿記概論Ⅱ リテラシーB：歴史と経済 多文化理解 基礎経営学Ⅰ	
3	リテラシーA：入門統計学 リテラシーB：ミクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅰ 世界経済論Ⅰ 地域と経済、基礎経営学Ⅱ 入門会計学	

4	経営戦略論、経営組織論、組織行動論、マーケティング論、統計学概論 原価計算Ⅰ、財務諸表論Ⅰ、中級簿記 ミクロ経済学Ⅱ、経済政策	
	地域経済論、調査法Ⅰ	租税法概論、マクロ経済学Ⅱ、入門金融論
5～8	国際経営論、地域企業経営論、人的資源管理論、コーオプ演習 コスト・マネジメント、管理会計、原価計算Ⅱ、財務管理論 地域金融論、産業連関分析、産業組織と規制の経済学、社会政策 計量経済学、卒研のための統計分析	
	消費者行動論、環境経済学、地域政策論、交通 政策論、労働経済、調査法Ⅱ、コーオプ演習、 経営情報分析、地方財政論	国際金融論、経営情報分析、 租税法Ⅰ、上級簿記、証券市場論 財務諸表監査、財務諸表論Ⅱ 労働経済、租税法Ⅱ、現代ファイナンス論

(注) 上記はあくまでも望ましい履修パターンで、パターンどおりの履修を強制するものではありません。

経済経営学類生が卒業するためには

履修基準表

履修基準(2023年度以降の入学生)

領域区分	科目区分	開設科目等	履修開始 Semester	1科目 単位数	分類 (注1-4)	要卒単位	
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	必修	2
			社会とデータ科学の基礎	1	2		2
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2		2
			健康運動科学実習	1	1		1
		外国語コミュニケーション科目(注6, 7)	英語 A I・A II	1	1		4
			英語以外の外国語基礎 I・II	1	1		2
	(小計)					13	
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1	2	必修	2
			社会科学分野の科目	1	2		2
			自然科学分野の科目	1	2		2
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	5	2	選必	2
			ワーキングスキル	3	1または2		
		健康・運動科目	スポーツ実習	2	1	自由	
		外国語科目 (注6, 8, 9)	英語 B I・B II	3	1	必修	4
			応用英語	1	1		
			英語以外の外国語基礎(特設) I・II	1	1		
			英語以外の外国語応用 I・II	3	1		
	情報科目	情報リテラシー	1	2	選必		
	問題探究領域	問題探究科目		1	2	選必	2
		自主学修プログラム		1	1または2	自由	
		問題探究セミナー	問題探究セミナー I	2	2	必修	2
(小計)						21	
(合計)					34		
専門教育	専門領域	学類基礎科目	リテラシー A	1	2	必修	14
			リテラシー B	2	2	選必※	14
		問題探究科目	問題探究セミナー II	3	2	必修	2
		コース専門科目	コース専門科目群	1	2	選必	32
			専門演習	4~6	2	選必※	
			AL科目群 (注10)	2	2		
			卒業研究演習 I	7	2		
			卒業研究演習 II	8	2	必修	
		特殊講義	1	2	自由		
卒業研究	卒業研究	8	4	必修	4		
(合計)					74		
自由選択	自由選択科目		1	1または2		16	
全体	(総計)					124	

(注)

- 「選必」は同じ科目区分内で選択必修として、「自由」は自由選択科目として要卒単位の計上できます。
- 「必修」は、必修の要卒単位を超えて修得した単位を自由選択に計上できます。
- 「選必」は、同じ科目区分内で選択必修の要卒単位を超えて修得したものを自由選択に計上できます。
- 「選必※」は、選択必修の要卒単位を超えて修得したものをコース専門科目として計上できます。
なお、コース専門の要卒単位を満たしている場合は、自由選択に計上できます。
- 教養領域と問題探究領域科目については、各区分の要卒単位を満たした上、更に5単位を履修する必要があります。
なお、要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上できます。
- 接続領域及び教養領域の「英語以外の外国語」は同一言語で修得する必要があります。
- 接続領域の「英語以外の外国語」で要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上できます。
- 教養領域の外国語科目必修4単位の修得方法は、「英語4単位」「英語以外の外国語4単位」「英語2単位+英語以外の外国語2単位」のいずれ。
- 編入学生（日本国籍を有しない者）の「英語以外の外国語」に関して、日本語の履修を認めることがあります。
- AL(アクティブラーニング)科目とは、「卒研のための統計分析」「コーオブ演習」「海外調査」
グローバル演習(「WEA I・II」「JSP I・II・III」「ドイツ語実践演習 I・II」「ロシア語実践演習 I・II」「特別演習」)を指します。

履修基準 (外国人留学生) (2023年度以降の入学生)

領域区分	科目区分	開設科目等	履修開始 semester	1科目 単位数	分類 (注1-4)	要卒単位			
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	必修	2		
			社会とデータ科学の基礎	1	2		2		
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2		2		
			健康運動科学実習	1	1		1		
	教養領域	外国語コミュニケーション科目	英語 A I・A II	1	1	必修	8 (注6)		
			外国語科目	英語 B I・B II	3			1	
				応用英語	1			1	
				英語以外の外国語基礎 I・II	1			1	
				英語以外の外国語基礎(特設) I・II	1			1	
		英語以外の外国語応用 I・II	3	1					
		日本語科目	日本語 I～IV	1	1				
		日本事情	日本事情 I～IV(注7)	1	2		選必	7 (注5)	
		学術基礎科目	人文科学分野の科目	1	2		必修		2
			社会科学分野の科目	1	2				2
			自然科学分野の科目	1	2				2
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	5	2		選必		2
	ワーキングスキル		3	1または2					
	健康・運動科目	スポーツ実習	2	1	自由				
	情報科目	情報リテラシー	1	2	選必				
	問題探究領域	問題探究科目		1	2	選必	2		
自主学修プログラム			1	1または2	自由				
問題探究セミナー		問題探究セミナー I	2	2	必修	2			
(合計)						34			
専門教育	専門領域	学類基礎科目	リテラシー A	1	2	必修	14		
			リテラシー B	2	2	選必※	14		
		問題探究科目	問題探究セミナー II (注8)	3	2	選必※	2		
		コース専門科目	コース専門科目群	1	2	選必	32		
			専門演習	4～6	2	選必※	6		
			AL科目群(注9)	2	2				
			卒業研究演習 I	7	2				
			卒業研究演習 II	8	2	必修	2		
		特殊講義	1	2	自由				
		卒業研究	卒業研究	8	4	必修	4		
(合計)						74			
自由選択	自由選択科目		1	1または2		16			
全体	(総計)					124			

(注)

- 「選必」は同じ科目区分内で選択必修として、「自由」は自由選択として要卒単位の計上できます。
- 「必修」は、必修の要卒単位を超えて修得した単位を自由選択に計上できます。
- 「選必」は、同じ科目区分内で選択必修の要卒単位を超えて修得したものを自由選択に計上できます。
- 「選必※」は、選択必修の要卒単位を超えて修得したものをコース専門科目として計上できます。
なお、コース専門の必要単位を満たしている場合は、自由選択に計上できます。
- 教養領域と問題探究領域科目については、各区分の要卒単位を満たした上、更に7単位を履修する必要があります。
なお、要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上できます。
- 外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く1カ国語で8単位を修得する必要があります。なお、要卒単位(8単位)を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択に計上できます。
- 「日本事情 I～IV」は、選択必修または自由選択として単位に計上できます。
- 留学生は問題探究セミナーIIが「選必※」になります。
- AL(アクティブラーニング)科目とは、「卒研のための統計分析」「コーオ演習」「海外調査」グローバル演習(「WEA I・II」「JSP I・II・III・IV」)「ドイツ語実践演習 I・II」「ロシア語実践演習 I・II」「特別演習」を指します。

履修基準表の見方

(1) 履修基準表の体系と各区別の要卒単位

本学類が定めた履修基準表は、大きく「基盤教育」「専門教育」から構成され、全学と本学類の教育目標を達成するために各区別に多数の科目が配置されています。

学生のみなさんが卒業するためには、卒業要件として定められた各科目区分の要卒単位を修得する必要があります。履修基準表には、大切な履修や卒業要件に関する注意事項が記載されていますので、必ず目を通し内容を熟知してください。また、授業科目を履修し単位を修得する際は、履修基準表、カリキュラムマップ、各科目のシラバスを熟読し、履修方法・履修条件等を確認して、履修計画を立ててください。

履修基準表における各科目の分類

履修計画を立てる際、各区別の科目分類を正しく理解する必要があります。

履修基準表で示されている4つの分類は以下のようになっています。

分類		要卒単位を 超えた単位
選必	同じ区分内の複数科目から、要卒単位を満たすまで選択履修する必要がある科目	自由選択に計上
選必※	「選必」と同様であるが、超過履修単位がコース専門科目に計上される科目 (主に専門科目)	コース専門科目 →自由選択に計上
必修	必修的に履修する必要がある科目	自由選択に計上
自由	自由選択科目として要卒単位に計上	自由選択に計上

(2) 要卒単位

卒業するために最低限修得しなければならない単位を「要卒単位」といいます。要卒単位は以下のとおりです。

卒業するためには、履修基準表に示される各科目区分の要卒単位を満たした上で、合計 124 単位を修得しなければなりません。

履修基準表に定められた各区分別の要卒単位

※ 詳細は前項の履修基準表をよく読んでください。

領域区分		科目区分	要卒単位
基盤 教育	接続 領域	スタートアップ科目 ライフマネジメント科目 外国語コミュニケーション科目	13(注1)
	教養 領域	学術基礎科目 キャリア設計科目 健康・運動科目 外国語科目 情報科目	21(注2)
	問題探究 領域	問題探究科目 自主学修プログラム 問題探究セミナー	
専門 教育	専門 領域	学類基礎科目 問題探究科目 コース専門科目 卒業研究	74
自由選択		自由選択科目	16
(総計)			124

注1：2022年度以前入学生は11単位 注2：2022年度以前入学生は23単位

(3) 卒業研究提出資格要件

履修基準表に示されるように、「卒業研究」は必修科目です。卒業研究には、以下の提出資格要件があります。卒業研究提出資格要件を満たさなかった場合、4年間で卒業することができなくなりますので、注意してください。

第8セメスターに卒業研究を提出するためには、第6セメスター経過時に、卒業要件単位のうち80単位を修得しなければなりません。

第6セメスターの後のセメスター経過時に、80単位の要件を満たしたときには、その翌々セメスターにおける卒業研究提出資格を得ることになります。

各領域の履修について

1. 授業科目一覧

令和8年度「基盤教育」開講科目一覧

(1) 「接続領域」：スタートアップ科目【 スタートアップセミナー 】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	スタートアップセミナー	荒知宏	木	3	1	2	
		石川大輔					
		沼田大輔					
		奥本英樹					
		野口寛樹					
		村上早紀子					
		藤原遥					
		末吉健治					
		三家本里実					
		生島和樹					
		根建晶寛					
		稲村健太郎					
		福富靖之					

「接続領域」：スタートアップ科目【 社会とデータ科学の基礎 】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	社会とデータ科学の基礎	佐藤英司	遠隔		1	2	経済経営学類用

「接続領域」：ライフマネジメント科目【 キャリア形成論 】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	キャリア形成論(経)	野口 寛樹	水	2	1	2	経済経営学類用

(2) 「教養領域」：キャリア設計科目【 キャリアモデル学習 】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	キャリアモデル学習	福富・村上	木	5	5	2	経済経営学類用

「教養領域」：学術基礎科目

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	ことばの仕組み	福富靖之	木	1	1~2	2	人文科学分野
後	経済学I	荒知宏	木	1	1~2	2	社会科学分野
欠講	経済学II	欠講	金	2	1~2	2	
前	経営学	村上早紀子	木	1	1~2	2	
欠講	地域論I	欠講	欠講		1~2	2	
後	地理学I	末吉健治	金	2	1~2	2	
欠講	歴史学IV	欠講	欠講		1~2	2	

(3) 「問題探究領域」：問題探究科目

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	暮らしと仕事と大学生	熊沢透	月	1	1~2	2	
前	SDGsと経営	根建晶寛	木	1	1~2	2	

「問題探究領域」：問題探究セミナーI

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
後	問題探究セミナーI	荒知宏	木	3	2	2	
		井上健					
		沼田大輔					
		尹 卿烈					
		金善照					
		村上早紀子					
		藤原遥					
		末吉健治					
		三家本里実					
		生島和樹					
		根建晶寛					
		稲村健太郎					
		井本亮					

令和8年度専門領域開講科目及び担当者一覧（令和元年度以後入学者）

☆ = 必修, ◎ = 選必※（超過単位は○へ）, ○ = 選必（超過単位は自由選択領域へ）

この表のすべての科目は地域デザイン科学研究科経済経営専攻『経済経営学類所属生対象特別入試』への出願の際に求める専門領域科目GP平均を算出する対象となる。

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始月	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和8年度 担当者	令和9年度 開講予定
学類基礎科目 (リテラシー A)	14	入門マクロ経済学	1	2	☆	☆	石川大輔	開講
		入門政治経済学	1	2			三家本里実	開講
		入門経営学	1	2			野口寛樹	開講
		簿記概論 I	1	2			稲村健太郎	開講
		入門ミクロ経済学	2	2			沼田大輔	開講
		簿記概論 II	2	2			稲村健太郎	開講
		入門統計学	3	2			佐藤英司	開講
学類基礎科目 (リテラシー B)	14	歴史と経済	2	2	◎	◎	大川裕嗣	開講
		多文化理解	2	2			井本亮	開講
		基礎経営学 I	2	2			金善照	開講
		ミクロ経済学 I	3	2			荒知宏	開講
		マクロ経済学 I	3	2			石川大輔	開講
		世界経済論 I	3	2			朱永浩	開講
		地域と経済	3	2			吉田樹	開講
		基礎経営学 II	3	2			尹 卿烈	開講
		入門会計学★	3(1)	2			生島和樹	開講
問題探究科目	2	問題探究セミナー II ※	3	2	☆	☆	石川大輔	開講
			3	2			佐藤英司	開講
			3	2			沼田大輔	開講
			3	2			菊池智裕	開講
			3	2			吉田樹	開講
			3	2			十河利明	開講
			3	2			朱永浩	開講
			3	2			村上早紀子	開講
			3	2			貴田岡信	開講
			3	2			稲村健太郎	開講
			3	2			吉高神明	開講
			3	2			福富靖之	開講
			3	2			井本亮	開講
コース専門科目 (コース専門科目 群) [自学類開講]	○→32	ミクロ経済学 II	4	2	○	○	荒知宏	開講
		経済数学	4	2	○		佐藤寿博	開講
		マクロ経済学 II	4	2	○	○	佐藤寿博	開講
		入門金融論	4	2	○	○	(非) 安藤希	開講
		経済政策	4	2	○	○	熊沢透	開講
		公共経済学	4	2	○		沼田大輔	開講
		地域経済論	4	2	○	○	吉田樹	開講
		社会開発論	4	2	○		(非) 森元晶文	開講
		経済学史	4	2	○		(非) 下平裕之	開講
		比較経済史	4	2	○		菊池智裕	開講
		統計学概論	4	2	○	○	井上健	開講
		調査法 I (質問紙)	4	2	○	○	(非) 野際大介	開講
		経営戦略論	4	2		○	尹 卿烈	開講
		経営組織論	4	2		○	野口寛樹	開講
		組織行動論	4	2		○	金善照	開講
		マーケティング論	4	2		○	(非) 佐藤平国	開講
		中級簿記★	4(2)	2		○	貴田岡信	開講
		管理会計	4	2		○	奥山修司	開講
原価計算 I	4	2		○	貴田岡信	開講		
財務諸表論 I	4	2		○	生島和樹	開講		

☆ = 必修, ◎ = 選必※ (超過単位は○へ), ○ = 選必 (超過単位は自由選択領域へ)

この表のすべての科目は地域デザイン科学研究科経済経営専攻『経済経営学類所属生対象特別入試』への出願の際に求める専門領域科目GP平均を算出する対象となる。

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始セマ	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和8年度 担当者	令和9年度 開講予定
コース専門科目 (コース専門科目 群) [自学類開講]	○→32	租税法概論 (東北税理士会福島支部連携講義)	4	2		○	稲村健太郎	開講
		国際関係論	4	2	○		吉高神明	開講
		国際経済学	5又は6	2	○		荒知宏	開講
		応用経済分析	5又は6	2	○		佐藤寿博	開講
		国際金融論	6	2	○		石川大輔	開講
		地域金融論 (東邦銀行提供講義)	5又は6	2	○	○	石川大輔	開講
		財政学	5又は6	2	○		(非) 谷達彦	開講
		地方財政論	5又は6	2	○		(非) 小林恵美	開講
		環境経済学	5又は6	2	○		沼田大輔	開講
		社会政策	5又は6	2	○	○	熊沢透	開講
		労働経済	5又は6	2	○	○	熊沢透	開講
		産業組織と規制の経済学	5又は6	2	○	○	佐藤英司	開講
		地域政策論	5又は6	2	○	○	藤原遥	開講
		交通政策論	5又は6	2	○	○	吉田樹	開講
		日本経済論	5又は6	2	○		末吉健治	開講
		開発経済学	5又は6	2	○		(非) 幕田順子	開講
		国際政治経済学 (世界経済論Ⅱ)	5又は6	2	○		十河利明	開講
		アメリカ経済論	5又は6	2	○		十河利明	開講
		欧州経済論	5又は6	2	○		菊池智裕	開講
		アジア経済論	5又は6	2	○		朱永浩	開講
		社会思想史	5又は6	2	○		(非) 岩本吉弘	開講
		日本経済史	5又は6	2	○		大川裕嗣	開講
		政治経済学	5又は6	2	○		三家本里実	開講
		計量経済学	5	2	○	○	佐藤英司	開講
		産業連関分析	5又は6	2	○	○	佐藤寿博	開講
		調査法Ⅱ (フィールド)	5又は6	2	○	○	藤原遥	開講
		人的資源管理論	5又は6	2		○	岩井秀樹	開講
		消費者行動論	5又は6	2		○	(非) 佐藤平国	開講
		地域企業経営論	5又は6	2		○	村上早紀子	開講
		国際経営論	5又は6	2	○	○	尹 卿烈	開講
		財務管理論	5又は6	2	○	○	奥本英樹	開講
		現代ファイナンス論	5又は6	2	○	○	奥本英樹	開講
		経営情報分析	5又は6	2		○	根建晶寛	開講
		証券市場論 (野村證券提供講義)	5又は6	2		○	欠講	未定
		上級簿記	5又は6	2		○	奥山修司	開講
		原価計算Ⅱ	5又は6	2		○	高橋宏和	開講
		コスト・マネジメント	5又は6	2		○	貴田岡信	開講
		財務諸表論Ⅱ	5又は6	2		○	生島和樹	開講
		財務諸表監査 (日本公認会計士協会東北会福島県会寄附講義)	5又は6	2		○	根建晶寛	開講
		租税法Ⅰ	5又は6	2		○	稲村健太郎	開講
		租税法Ⅱ	5又は6	2		○	成川巨人 (非)	開講
		国際公共政策論	5又は6	2	○		吉高神明	開講
比較社会論	5又は6	2	○		クズネツォーワ・マリナ	開講		
言語コミュニケーション論	5又は6	2	○		福富靖之	開講		
英語圏文化スタディーズ	5又は6	2	○		(非) 佐々木俊彦	未定		
ヨーロッパ文化スタディーズ	5又は6	2	○		欠講	欠講		
アジア文化スタディーズ	5又は6	2	○		(非) 手代木有兒	開講		
Analyzing Japanese : From a Comparative Perspective	4	2	○		福富靖之	開講		
国際情勢を知るための現代史	1	2	○	○	(非) 池上 彰	未定		

☆ = 必修, ◎ = 選必修 (超過単位は○へ), ○ = 選必修 (超過単位は自由選択領域へ)

この表のすべての科目は地域デザイン科学研究科経済経営専攻『経済経営学類所属生対象特別入試』への出願の際に求める専門領域科目GP平均を算出する対象となる。

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始月	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和8年度 担当者	令和9年度 開講予定	
コース専門科目 (コース専門科目 群) [自学類開講]	○→32	中国語実践演習		2	○	○			
		韓国朝鮮語実践演習		2	○	○			
		英語実践演習 (留学)		2	○	○			
		外国語実践演習(留学)		2	○	○			
		英語アドバンスト演習 I	1	1	○	○	フィリップ・マッカーズランド	未定	
		英語アドバンスト演習II	2	1	○	○	フィリップ・マッカーズランド	未定	
		英語アドバンスト演習III	1	1	○	○	(非) 小室 竜也	未定	
		英語アドバンスト演習IV	2	1	○	○	(非) 小室 竜也	未定	
		英語アドバンスト演習V	1	1	○	○	(非) 佐々木俊彦	未定	
		英語アドバンスト演習VI	2	1	○	○	(非) 佐々木俊彦	未定	
		英語アドバンスト演習VII	1	1	○	○	(非) 長谷川明子	未定	
		英語アドバンスト演習VIII	2	1	○	○	福富靖之	未定	
		英語アドバンスト演習IX	1	1	○	○	福富靖之	未定	
		英語アドバンスト演習 X	2	1	○	○	福富靖之	未定	
		英語アドバンスト演習 XI	1	1	○	○	フィリップ・マッカーズランド	未定	
		英語アドバンスト演習 X II	2	1	○	○	フィリップ・マッカーズランド	未定	
		ドイツ語アドバンスト演習 I ①	1	1	○	○	グンスケフォンケルン・M	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習 I ②	2	1	○	○	グンスケフォンケルン・M	開講	
		フランス語アドバンスト演習 I ①	1	1	○	○	(非)長谷川 明子	開講	
		フランス語アドバンスト演習 I ②	2	1	○	○	(非)長谷川 明子	開講	
		中国語アドバンスト演習 I ①	1	1	○	○	(非)井上 浩一	開講	
		中国語アドバンスト演習 I ②	2	1	○	○	(非)井上 浩一	開講	
		ロシア語アドバンスト演習 I ①	1	1	○	○	クズネツォワ・マリーナ	開講	
		ロシア語アドバンスト演習 I ②	2	1	○	○	クズネツォワ・マリーナ	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習 I ①	1	1	○	○	伊藤 俊介	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習 I ②	2	1	○	○	伊藤 俊介	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習 II ①	3	1	○	○	グンスケフォンケルン・M	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習 II ②	4	1	○	○	グンスケフォンケルン・M	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習 II ③	3	1	○	○	グンスケフォンケルン・M	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習 II ④	4	1	○	○	グンスケフォンケルン・M	開講	
		フランス語アドバンスト演習 II ①	3	1	○	○	(非)レジス・ドラビゾン	開講	
		フランス語アドバンスト演習 II ②	4	1	○	○	(非)レジス・ドラビゾン	開講	
		フランス語アドバンスト演習 II ③	3	1	○	○	(非)レジス・ドラビゾン	開講	
		フランス語アドバンスト演習 II ④	4	1	○	○	(非)レジス・ドラビゾン	開講	
		中国語アドバンスト演習 II ①	3	1	○	○	(非)伊藤 由美	開講	
		中国語アドバンスト演習 II ②	4	1	○	○	(非)伊藤 由美	開講	
		中国語アドバンスト演習 II ③	3	1	○	○	(非)伊藤 由美	開講	
		中国語アドバンスト演習 II ④	4	1	○	○	(非)伊藤 由美	開講	
		ロシア語アドバンスト演習 II ①	3	1	○	○	(非)吉川 宏人	開講	
		ロシア語アドバンスト演習 II ②	4	1	○	○	(非)吉川 宏人	開講	
		ロシア語アドバンスト演習 II ③	3	1	○	○	クズネツォワ・マリーナ	開講	
		ロシア語アドバンスト演習 II ④	4	1	○	○	(非) カザンツェワ・ラーダ	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習 II ①	3	1	○	○	伊藤 俊介	開講	
韓国朝鮮語アドバンスト演習 II ②	4	1	○	○	伊藤 俊介	開講			
韓国朝鮮語アドバンスト演習 II ③	3	1	○	○	(非)朴 相賢	開講			
韓国朝鮮語アドバンスト演習 II ④	4	1	○	○	(非)朴 相賢	開講			
コース専門科目 (コース専門科目 群) [他学類開講]		民法総則	【行】	3又は4	2	○	○	中里 真	開講
		民法 (不法行為)	【行】	3又は4	2	○	○	中里 真	開講
		民法 (債権総論)	【行】	5又は6	2	○	○	山崎 暁彦	開講
		民法 (債権各論)	【行】	5又は6	2	○	○	山崎 暁彦	開講
		労働法 I	【行】	5又は6	2	○	○	(非)原 昌登	開講

☆ = 必修, ◎ = 選必修 (超過単位は○へ), ○ = 選必修 (超過単位は自由選択領域へ)

この表のすべての科目は地域デザイン科学研究科経済経営専攻『経済経営学類所属生対象特別入試』への出願の際に求める専門領域科目GP平均を算出する対象となる。

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始学年	単 位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和8年度 担当者	令和9年度 開講予定	
コース専門科目 (コース専門科目 群) [他学類開講]	○→32	労働法Ⅱ	【行】	5又は6	2	○	○	欠講	開講
		社会保障法	【行】	5又は6	2	○	○	欠講	開講
		社会構造論Ⅰ	【行】	5又は6	2	○	○	欠講	欠講
		商法Ⅰ	【行】	5又は6	2	○	○	福島 雄一	開講
		商法Ⅱ	【行】	5又は6	2	○	○	欠講	開講
		経済法	【行】	5又は6	2	○	○	欠講	欠講
		国際法Ⅰ	【行】	5又は6	2	○		鈴木 めぐみ	開講
		国際法Ⅱ	【行】	5又は6	2	○		鈴木 めぐみ	開講
		公共政策論Ⅰ	【行】	5又は6	2	○	○	尹 海園	欠講
		地域社会学	【行】	5又は6	2	○	○	石川 俊介	開講
		エコロジカル経済学	【理】	5	2	○	○	西嶋大輔	開講
		経営工学	【理】	3	2	○	○	石川友保	開講
		応用数学Ⅱ	【理】	6	2	○		(非) 中山 明	開講
		サプライチェーンマネジメント	【理】	4	2		○	石川友保	開講
		応用数学Ⅰ	【理】	5	2	○		(非) 中山 明	開講
		生産管理概論	【理】	3	2		○	寛 宗徳	開講
		流通管理概論	【理】	3	2		○	石川友保	開講
		経営情報システム	【理】	5	2		○	董 彦文	未定
		協同組合学	【食】	5又は6	2	○	○	小山 良太	開講
		農林資源経済論	【食】	5又は6	2	○	○	林 薫平	開講
フードシステム論	【食】	5又は6	2	○	○	則藤 孝志	開講		
コース専門科目 (専門演習)		専門演習		4~6	2	◎	専門演習一覧参照	開講	
コース専門科目 (AL科目)	◎→6	卒研のための統計分析		6	2	◎	佐藤英司	開講	
		コーオペ演習：アクセシブル		4~6	2	◎	野口寛樹	開講	
		コーオペ演習：地域デザインⅠ		5	2	◎	欠講	未定	
		コーオペ演習：地域デザインⅡ		6	2	◎	欠講	未定	
		海外調査：アジアⅠ		5	2	◎	朱永浩	開講	
		海外調査：アジアⅡ		6	2	◎	朱永浩	開講	
		海外調査：欧米Ⅰ		5	2	◎	菊池智裕	開講	
		海外調査：欧米Ⅱ		6	2	◎	菊池智裕	開講	
		Japan Study ProgramⅠ (JSPⅠ)		3	2	◎	フィリップ・マッカーズランド	開講	
		Japan Study ProgramⅡ (JSPⅡ)		4	2	◎	フィリップ・マッカーズランド	開講	
		Japan Study ProgramⅢ (JSPⅢ)		3	2	◎	クラルト ヨースト	開講	
		Japan Study ProgramⅣ (JSPⅣ)		4	2	◎	欠講	未定	
		Japan Study ProgramⅤ (JSPⅤ)		3	2	◎	クラルト ヨースト	開講	
		Work Experience AbroadⅠ (WEAⅠ)		2	2	◎	フィリップ・マッカーズランド	開講	
		Work Experience AbroadⅡ (WEAⅡ)		3	2	◎	フィリップ・マッカーズランド	開講	
		特別演習 外書講読 (英語)		4	2	◎	根建晶寛	開講	
		ドイツ語実践演習Ⅰ		3	2	◎	グンスケフォンケルン・M	開講	
		ドイツ語実践演習Ⅱ		4	2	◎	グンスケフォンケルン・M	開講	
		ロシア語実践演習Ⅰ		4	2	◎	クズネツォワ・マリーナ	開講	
		ロシア語実践演習Ⅱ		5	2	◎	クズネツォワ・マリーナ	開講	
コース専門科目 (卒業研究演習Ⅰ)		卒業研究演習Ⅰ		7	2	◎	指導教員一覧参照	開講	
コース専門科目 (卒業研究演習Ⅱ)	2	卒業研究演習Ⅱ		8	2	☆	指導教員一覧参照	開講	
卒業研究	4	卒業研究		8	4	☆	指導教員一覧参照	開講	
コース専門科目 (特殊講義)	—	英語技能検定試験対策講座Ⅰ		1	2		福富靖之	開講	
	—	英語技能検定試験対策講座Ⅱ		1	2		未定	開講	

☆ = 必修, ◎ = 選必※ (超過単位は○へ), ○ = 選必 (超過単位は自由選択領域へ)

この表のすべての科目は地域デザイン科学研究科経済経営専攻『経済経営学類所属生対象特別入試』への出願の際に求める専門領域科目GP平均を算出する対象となる。

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始セマ	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和8年度 担当者	令和9年度 開講予定
コース専門科目 (特殊講義)	—	ビジネス法務	4	2			根建晶寛	開講
	—	アドバンスト科目	5	2			—	—
	—	海外語学研修 (英語) ほか学修案内「自由選択」の項参照	1	2~4			—	—
	—	Academic English Literacy I 【国】	1	2			何 敏	未定
	—	Academic English Literacy II 【国】	2	2			何 敏	未定
	—	Basic Chinese Course II 【国】	2	2			欠講	未定
	—	Path to CEFR C1 I 【国】	3	2			何 敏	未定
	—	Path to CEFR C1 II 【国】	3	2			何 敏	未定
	—	Path to CEFR C1 III 【国】	3	2			何 敏	未定
	—	Path to CEFR C1 IV 【国】	4	2			何 敏	未定
	—	Path to CEFR C1 V 【国】	4	2			何 敏	未定
	—	Path to CEFR C1 VI 【国】	4	2			何 敏	未定
	—	Fukushima's History and Culture I 【国】	3	2			クラルト ヨースト	未定
	—	Fukushima's History and Culture II 【国】	3	2			クラルト ヨースト	未定
	—	国際協働プロジェクト学習 I 【国】	2	2			クラルト ヨースト	未定
	—	国際協働プロジェクト学習 II 【国】	1	2			クラルト ヨースト	未定
	—	Discussing Japanese Society I 【国】	3	2			クラルト ヨースト	未定
	—	Discussing Japanese Society II 【国】	3	2			クラルト ヨースト	未定
	—	TOHOKU nature resources 【国】	3	2			(非) パンティング ティモシー	未定
	—	Understanding Post-Disaster Fukushima 【国】	3	2			欠講	未定

備考

- ・★のついた科目は会計エキスパート・プログラムの飛びセメスター対象科目です。
- ・※「問題探究セミナーII」は1科目2単位を必ず履修する必要があります。なお、留学生は選択必修科目となります。
- ・「ドイツ(ロシア)語実践演習」には受講条件があります。
「ドイツ語実践演習 I」は「ドイツ語基礎 I・II」2単位の修得を受講の条件とします。
「ドイツ語実践演習 II」「ロシア語実践演習 II」では、対応する「演習 I」の修得がそれぞれ受講の条件となります。
- ・英語アドバンスト演習は同一曜日、同一時限の応用英語を修得済みの場合、同じ科目としてみなされるため、再修得できません。
- ・「英語以外の外国語アドバンスト演習」の受講を希望する場合は、必ず履修登録前に教務課に相談ください。
基盤教育の外国語科目の単位には計上できません。後期開講は前期とのセット履修です。
※基盤教育の外国語基礎(特設)や外国語応用とのセットはできません。
- ・【行】は行政政策学類開設科目、【理】は共生システム理工学類開設科目、【食】は食農学類開設科目を示します。
- ・【国】の国際交流センター拠出科目は、基本的に単年度開講です。
- ・「Path to CEFR C1 I ~ VI」・「国際協働プロジェクト学習 I・II」は単位修得後、同一科目について、翌年度に繰り返し履修可能です。
なお、いずれの科目も自由選択科目の要卒単位に計上可能な単位は2単位までとし、それ以上受講した場合は、要卒外単位となります。

専門演習一覧

<注>「専門演習」への所属は、2年次後期（4セメスター目）からです。

科目区分	授業科目	予定担当者	コース
コース専門	専門演習	荒 知 宏	経済学コース
		石 川 大 輔	
		井 上 健	
		大 川 裕 嗣	
		菊 池 智 裕	
		熊 沢 透	
		佐 藤 英 司	
		朱 永 浩	
		佐 野 孝 治	
		末 吉 健 治	
		十 河 利 明	
		沼 田 大 輔	
		藤 原 遥	
		三 家 本 里 実	
		吉 田 樹	経営学コース
		生 島 和 樹	
		稲 村 健 太 郎	
		奥 本 英 樹	
		奥 山 修 司	
		貴 田 岡 信	
		金 善 照	
		高 橋 宏 和	
		根 建 晶 寛	
		野 口 寛 樹	
		村 上 早 紀 子	
		尹 卿 烈	

○専門領域の履修について

専門領域

□学類基礎科目

経済経営学類では、経済・経営分野における基礎的素養を「経済経営リテラシー」と呼んでおり、学類基礎科目は、経済経営リテラシーA科目、経済経営リテラシーB科目からなります。第1 Semesterから第3 Semesterにかけて履修する科目群で、主に第4 Semester以降に履修するコース専門科目の基礎として必修性が高いものですので、各々の標準履修 Semesterにおいて、とりこぼしのないように修得しましょう。

「経済経営リテラシーA」

経済経営リテラシーAは、入学当初の第1 Semesterから第3 Semesterにかけて開講される以下の7つの科目です。

要卒単位数は14単位で、7科目すべてが必修科目です。

(第1 Semester開講) 「入門マクロ経済学」・「入門政治経済学」・「入門経営学」・「簿記概論Ⅰ*」

(第2 Semester開講) 「入門ミクロ経済学」・「簿記概論Ⅱ*」

(第3 Semester開講) 「入門統計学」

*なお日本商工会議所(日商)簿記検定3級または全国商業高等学校協会(全商)簿記実務検定試験1級を取得した学生に対しては、「簿記概論Ⅰ」と「簿記概論Ⅱ」をすでに修得したものと単位を認定する制度があります。単位認定を希望する学生は、所定の期間に、教務担当窓口で申請してください。詳しくは、「簿記概論Ⅰ」の1回目の授業で説明します。またこの単位認定制度は他学類生であっても適用されますが、例外もあるので注意してください。

「経済経営リテラシーB」

経済経営リテラシーBは、第2 Semesterと第3 Semesterで開講される以下の科目群です。要卒単位数は、9科目中の7科目を習得しての14単位です。

(第2 Semester開講) 「歴史と経済」・「多文化理解」・「基礎経営学Ⅰ」

(第3 Semester開講) 「ミクロ経済学Ⅰ」・「マクロ経済学Ⅰ」・「世界経済論Ⅰ」・「地域と経済」・「基礎経営学Ⅱ」・「入門会計学」

14単位を超えて修得した単位は、コース専門科目の単位として計上することができます。

□問題探究科目

「問題探究セミナーⅡ」

この科目は、語学力を含め、専門領域での学修に必要な力を身に着けることを目的とし、第3セメスターで演習形式によって行われる必修科目です。履修受付は、他の専門科目とは別に第2セメスターの12月頃に行います。掲示でお知らせしますので、注意してください。

なお留学生は「選必※」です。選択必修（要卒2単位）で、超過した単位はコース専門科目として計上できます。（「外国人留学生履修基準表」参照）

要卒 単位数	科目名	令和8年度 担当者
2	問題探究セミナーⅡ ※	石川大輔
		佐藤英司
		沼田大輔
		菊池智裕
		吉田樹
		十河利明
		朱永浩
		村上早紀子
		貴田岡信
		稲村健太郎
		吉高神明
		福富靖之
		井本亮

□「コース科目群」

「コース専門科目群」

コース専門科目は、各コースにおける専門的分野を系統的に学修するように組み立てられており、「開講科目一覧表」にコースごとに○印で指定されています。

第1セメスターから履修できる外国語の「アドバンスト演習」を含み、第4セメスター開講の基幹的科目と第5セメスター以降開講の中級・応用的科目が主要な科目です。

要卒単位数として、32 単位の修得が必要ですので、各コースの履修モデルを参考に、計画的に履修してください。なお 32 単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上することができます。

「専門演習」

経済経営学類は、演習形式による少人数教育を重視しています。その代表的な授業科目が「専門演習」であり、ゼミナール（ゼミ）とも呼ばれます。第 4 セメスターから開講され、担当教員の指導の下に、第 6 セメスターまでより深く専門領域を研究し、第 7・8 セメスターの卒業研究演習へとつなげていくものです。

1 セメスター当たり 2 単位、合計 6 単位まで修得することができます。

「専門演習」の所属決定は、まず第 3 セメスターの 4 月中旬頃に「コース所属及び専門演習説明会」と「専門演習募集要項」の発表を行います。その後の一定期間を所属する専門演習の選択期間としますので、専門演習所属を希望する者は、その期間に希望するゼミのゼミ訪問などを行って所属したい専門演習を選択し、所定の期日までに「LiveCampus（ライブキャンパス）」で手続きすることとなります。掲示などでの案内に注意してください。

所属は担当教員の選考を経て第 3 セメスター中に決定されます。所属決定後は、卒業研究提出まで、原則として同一教員の指導を受けることとなります。

なお「専門演習」に関わる要卒単位数は、後述の「AL 科目群」と「卒業研究演習 I」を合わせた 6 単位と設定されています。4～6 セメ連続で「専門演習」を受講すれば要卒単位数を満たすことができますが、第 1 セメスターから「AL 科目群」の学修を積み上げて、「専門演習」を受講せずに「卒業研究演習」へつなげる選択肢もあります。

なお「専門演習」・「AL 科目群」・「卒業研究演習 I」の 3 つの科目群をあわせて 6 単位を超えて修得した単位は、コース専門科目もしくは自由選択の単位として計上することができます。

また第 5 セメスター以降に「専門演習」の履修を希望する場合は、事前に担当教員の内諾を得た上で、当該セメスターの所定の期間に、「専門演習」所属の手続きをとる必要があります。

「専門演習」の所属を第 5 セメスター以降に変更したい場合は、事前に、所属する「専門演習」の担当教員に相談し、また、新たに所属を希望する「専門演習」の担当教員の内諾を得た上で、当該セメスターの所定の期間に、「専門演習」所属変更の手続きをとる必要があります。

「AL 科目群」

(卒研のための統計分析、コーオプ演習、海外調査、Work Experience Abroad I・II、Japan Study Program I・II・III・IV・V、ドイツ語実践演習 I・II、ロシア語実践演習 I・II、特別演習)

「AL 科目群」とはアクティブ・ラーニングを取り入れた科目群です。各々、多様な内容、多様な形態で開講されます。具体的な授業内容と方法については各々のシラバスを参照してください。

「卒業研究演習 I・II」

「卒業研究演習 I・II」は、卒業研究を作成するために第 7・8 セメスターに開講される演習です。第 6 セメスター経過時に、「卒業研究提出資格要件」を満たした者に限り、履修することができます。通年指導を基本とし、第 6 セメスターまで「専門演習」に所属する学生は、通常、同一の指導教員の「卒業研究演習 I・II」を履修することになります。

「専門演習」に所属しない学生は、履修登録前に、担当教員の内諾を得た上で、「所定の期日」までに「卒業研究演習所属届」を提出しなければいけません。

なおどちらの場合でも、第 7 セメスターの「卒業研究演習 I」(2 単位) は、「AL 科目群」とあわせて 6 単位が要卒単位なので必ずしも必修科目とはなりません。第 8 セメスターの「卒業研究演習 II」は必修科目となります。

「卒業研究演習 I・II」の履修登録は、「卒業研究演習担当教員一覧」を参照し行ってください。

なお「専門演習」・「AL 科目群」・「卒業研究演習 I」を合わせて 6 単位を超えて修得した単位は、コース専門科目もしくは自由選択の単位に計上することができます。

□卒業研究

「卒業研究」は、大学 4 年間の学修・研究の集大成となるべき必修科目です。専門分野により、作成の手法はさまざまですが、自らテーマを設定し、研究計画を立て、自らの手で能動的に、新たな知見を得ることが目標になります。

「卒業研究」は、複数名で作成した共同研究の成果として提出することもできます。この場合は、研究計画・研究分担・研究実施経過等を明らかにしなければなりません。

「卒業研究」の履修登録は、「卒業研究指導教員一覧」を参照し行ってください。

重要！卒業研究提出までに必要な手続き

以下の[所定の期日]までに完了しなければならない諸手続きについては、掲示・LiveCampus で手続き期間をお知らせします。重要な手続きです。見落としの無いように、十分に注意してください。

1. 「卒業研究演習履修要件」・「卒業研究提出要件」

「卒業研究演習Ⅰ（第7セメスター）」、「卒業研究演習Ⅱ（第8セメスター・必修）」、および「卒業研究（第8セメスター・必修）」を履修登録するには、第6セメスター終了時までには卒業要件単位80単位以上修得していなければなりません。その上で、第7セメスター開始時に卒業研究指導教員を決定し、卒業研究に取り組むこととなります。

2. 「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」の履修登録

- ① 「卒業研究演習Ⅰ」に所属する、あるいは、所属しないにかかわらず、第7セメスター開始時に、卒業研究演習指導教員を確定しなければいけません。「専門演習」に所属していなかった場合、および、「専門演習」と「卒業研究演習」の指導教員が異なる場合は、新たな指導教員の内諾を得た上で、「所定の期日」までに「卒業研究演習所属届」を提出しなければいけません。
- ② 「卒業研究演習Ⅰ」を履修する場合は第7セメスターの履修登録時に履修登録をしてください。（便宜上、LiveCampus では水曜 5、6 限に設定してあります）
- ③ 「卒業研究演習Ⅱ」は第8セメスターの履修登録時に必ず登録をしてください。（便宜上、LiveCampus では水曜 5、6 限に設定してあります）
- ④ 「卒業研究演習Ⅱ」を修得済の学生が、卒業研究を提出する時は、卒業研究を提出するセメスターの「所定の期日」までに、卒業研究指導教員の「卒業研究指導承諾書」を提出しなければいけません。

3. 「卒業研究」の履修登録

第8セメスターの履修登録時に、「卒業研究」の履修登録を行ってください。

「卒業研究（4単位）」は Cap 2 4 単位に含まれます。

4. 卒業研究の提出

第8セメスターの「所定の期日」までに指定の様式で、教務課経済経営学類係に提出しなければなりません。

提出時間が守れなかった場合、いかなる理由があろうと、一切受理しません。

卒業研究指導教員に直接提出した場合は無効になります。

5. 第6 Semester終了までに卒業研究提出要件の80単位を修得できなかった場合、80単位を修得した翌々Semester以降に1～4と同様の手続きをとることになります。

◎卒業研究提出様式

ア 卒業研究は原則として次の形式に従って作成・提出すること。

- (1) 手書きの場合は、黒または青のインク又はボールペンを用いる。
- (2) 用紙はA4判もしくはB5判の400字詰原稿用紙（縦書き・横書き）を用いる。
パソコンを使用する場合は同じ大きさの罫線のない用紙（片面のみ）を用い、横書きで作成してよい。

ただし、上記本文の書式については、指導教員の承諾を得れば、この限りではない。

イ 卒業研究の体裁

- ① 卒業研究題目
- ② 指導教員名
- ③ 学籍番号
- ④ 氏名

を記載した表紙を用いて綴じて、提出すること。

◎盗作・盗用の禁止についての注意喚起

物理媒体の出版物や電子媒体上の情報（インターネット上の情報を含む）など、既存の著作物から文字列、図表、図案等を引用する場合には、引用箇所を必ず明示し、その出典を明記すること。

引用箇所と出典を明示しない引用は盗作・盗用にあたるので、それが判明した場合は指導教員の判断によって成績評価に大きな影響が及ぶことがある。

◎卒業研究演習・卒業研究提出指導教員一覧

「卒業研究演習Ⅰ」は、卒業要件単位80単位を修得した次のSemesterに、

「卒業研究演習Ⅱ」は卒業研究を提出するSemesterに、履修登録を行ってください。

「卒業研究」は卒業研究を提出するSemesterに、履修登録を行ってください。

荒 知宏	菊池 智裕	末吉 健治	村上 早紀子
生島 和樹	貴田岡 信	十河 利明	尹 卿烈
石川 大輔	吉高神 明(注)	高橋 宏和(注)	吉田 樹
伊藤 俊介 (注)	クズネツォーフ・マリーナ (注)	沼田 大輔	
稲村 健太郎	金 善照	根建 晶寛	
井上 健	熊沢 透	野口 寛樹	
井本 亮(注)	グンスケフォンケルン・マル ティーナ(注)	福 富 靖之 (注)	
大川 裕嗣 (注)	佐藤 英司	藤原 遥	
奥本 英樹	佐藤 寿博(注)	フィリップ・ マッカーズラ ンド(注)	
奥山 修司 (注)	朱 永浩	三家本 里実	

「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」の開講曜日・時限は、必ず担当教員に確認の上、履修登録・受講を
してください。

(注)：受講を希望する場合は、必ず履修登録前に教務課に相談ください。

□エキスパート・プログラムの所属、認定手続き

◎ グローバル・エキスパート・プログラム

グローバル・エキスパート・プログラムとは

「グローバル・エキスパート・プログラム」は、異なる文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える人材育成を目的とするプログラムです。プログラムの趣旨については「経済経営学類の教育内容」を参照してください。

グローバル・エキスパート・プログラム所属、認定手続きについて

(1) 所属手続きについて

○ 募集時期：第1セメスター（7月下旬）第2セメスター以降に応募する場合は、教務課の経済経営学類係にご相談ください。

○ 所属学生選考方法：所定の申請用紙の記載内容に基づいて決定します。

(2) 認定手続きについて

グローバル・エキスパート・プログラムに所属し、認定要件を満たした時点で、所定の申請用紙に必要事項を記入し、教務課の経済経営学類係に提出してください。

グローバル・エキスパート・プログラム認定要件

区分	科目名	単位数	認定要件
基盤教育	接続領域・外国語コミュニケーション科目 (英語・英語以外の外国語)	各1単位	12単位
	教養領域・外国語科目(英語・英語以外の外国語)		
専門科目	アドバンスト演習科目(英語・英語以外の外国語) 英語技能検定試験対策講座	1~2単位	2単位
	グローバル演習		

	海外調査（アジア）II、海外調査（欧米）II、WEA II ドイツ語実践演習 II、ロシア語実践演習 II 中国語実践演習、韓国朝鮮語実践演習 その他の海外語学研修* 外部技能審査**（入学時の TOEIC は除く）		
	リテラシー科目・多文化理解	2 単位	2 単位
	他のグローバル EP 科目 海外調査（アジア）I、海外調査（欧米）I、WEA I、ド イツ語実践演習 I、ロシア語実践演習 I、JSP I、JSP II、JSP III、JSP IV、世界経済論 I、国際関係論、社会開発論、開発 経済学、世界経済論 II、アメリカ経済論、欧州経済論、アジ ア経済論、国際公共政策論、比較社会論、国際経営論、言語 コミュニケーション論、英語圏文化スタディーズ、ヨーロッ パ文化スタディーズ、アジア文化スタディーズ、Analyzing Japanese	1～2 単位	8 単位
・上記のうち、余剰に修得した科目 ・国際交流センター開講科目(自由選択科目)			6 単位
総 計			30 単位

グローバル・エキスパート・プログラム認定科目についての留意事項

* その他の海外語学研修を認定要件とするに際しては、認定の可否、認定方法、および単位数、手続きを現行の「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」「英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」に拠ります。この際、基盤教育科目としての単位認定との二重読みはできません。

** 外部技能審査を認定要件とするにあたっては、認定の対象となる技能審査の種類、級もしくはスコア、および単位数、手続きは現行の「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」「英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」に拠ります。この際、基盤教育科目としての単位認定との二重読みはできません。

【望ましい履修パターン：英語中心】

1 セメスター	2 セメスター
英語 4 科目、非英 1 科目	英語 4 科目、非英 1 科目 多文化理解
3 セメスター	4 セメスター
英語 2 科目、国際関係論、世界経済論 I、Analyzing Japanese、WEA I・WEA II もしくは JSP I～IV のうち 2 科目	
5 セメスター以降	
社会開発論、開発経済学、世界経済論 II、アメリカ経済論、欧州経済論、アジア経済論、国際公共政策論、比較社会論、国際経営論、言語コミュニケーション論、英語圏文化スタディーズ、ヨーロッパ文化スタディーズ、アジア文化スタディーズ	

【望ましい履修パターン：非英中心】

1 セメスター	2 セメスター
英語 3 科目、非英 1 もしくは 2 科目	英語 3 科目、非英 1 もしくは 2 科目 多文化理解

3 セメスター	4 セメスター
非英2もしくは4科目、国際関係論、世界経済論Ⅰ、ドイツ語実践演習Ⅰ・Ⅱ、ロシア語実践演習Ⅰ・Ⅱ、中国語実践演習、韓国朝鮮語実践演習	
5 セメスター以降	
海外調査（アジア）Ⅱ、海外調査（欧米）Ⅱ、社会開発論、開発経済学、世界経済論Ⅱ、アメリカ経済論、欧州経済論、アジア経済論、国際公共政策論、比較社会論、国際経営論、言語コミュニケーション論、英語圏文化スタディーズ、ヨーロッパ文化スタディーズ、アジア文化スタディーズ	

(注)上記はあくまでも望ましい履修パターンで、パターンどおりの履修を強制するものではありません。

□自由選択

自由選択の卒業要件単位は16単位です。他の領域において要卒単位数を超えて修得した単位は自由選択に計上されます。また次の科目は自由選択の単位としてのみ計上されます。

- ①所属コース以外の「コース専門科目」、②「特殊講義」、③「大学院科目」、④他学類の「開放科目」、⑤国際交流センター開講科目、⑥他大学または短期大学の授業科目、⑦単位認定される語学研修、⑧単位認定される技能審査

①所属コース以外の「コース専門科目」

「開講科目一覧」の「コース専門科目」で、経済学コースと経営学コースのどちらか一方だけに○が付いている科目は、そのコースの所属生ではない場合は自由選択の単位として計上されます。

②「特殊講義」

経済経営学類生のみが受講可能であり、コースにかかわらず自由選択科目として計上される科目です。

(「ビジネス法務」「英語技能試験対策講座」など)

③「大学院科目」

大学院で開講する「特殊研究」などの科目について、履修は第5セメスター以降で、計4単位まで自由選択の要卒単位に認定します（なお修得単位の上限はありませんが、Capの対象になります）。履修方法等は、学類掲示板にて周知しますので、掲示に注意してください。

④他学類の「開放科目」

専門領域科目のうち他学類生の受講が認められている科目を「開放科目」といいます。「開放科目」は、自由選択の単位として計上することができ、他大学等で修得した単位とあわせて最大で60単位まで修得することができます。

他学類の開放科目は、2年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上の学生に限り履修することができます。「他学類専門科目等の履修について」と「開放科目一覧」を参照してください。

開放科目を履修する場合には、①受講したい科目が開放科目であること、及び②その履修セメスターを確認した上で、LiveCampusより登録を行う必要があります。開講する曜日・時限等については、各学類の時間割表やLiveCampusの授業時間割を参照してください。また、開放科目であっても、受講者数等の事情により受講者制限を行うことがあるので、注意してください。

⑤国際交流センター開講科目

これらの授業は交換留学生向けに提供されている科目です。日本人学生も受講することは可能ですが、講義及び試験は全て英語で行われます。受講する為に求められる英語力の詳細については、各科目のシラバスを参照ください。

⑥他大学または短期大学の授業科目

「他大学及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について」及び「大学間交流協定に基づく学生派遣について」を参照してください。

⑦単位認定される語学研修

「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」を参照してください。

⑧単位認定される技能審査

「簿記に係る技能審査の単位認定に関する要項」及び「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」を参照してください。

○その他

アドバイザー教員制度について

学生のみなさんは、履修登録した授業科目を、原則として責任をもって最後まで受講しなければなりません。そのためには、何よりもしっかりした履修計画を立てることが必要になります。履修計画を立てるには、まず「学修案内」や「シラバス」を熟読することが必要です。

その上で、セメスターごとの履修登録にあたっては、登録しようとしている授業科目が自分の学修目標に適合しているか、系統的な学修が保たれているか、学修量の点から無理な計画になっていないか、など、アドバイザー教員とよく相談してください。

経済経営学類では、以下のように自分の所属する演習科目の担当教員がアドバイザー教員となります。

第1セメスター：「スタートアップセミナー」担当教員

第2セメスター：「問題探究セミナーⅠ」担当教員

第3セメスター：「問題探究セミナーⅡ」担当教員

第4セメスターから第6セメスター：「専門演習」担当教員

第7セメスターから第8セメスター：「卒業研究演習」担当教員

専門演習に所属しない学生については、4セメ開始までに教務委員会で学生の希望を考慮して担当者を割当て、アドバイザー教員を決定します。

「卒業研究演習Ⅰ」を受講しない学生の担当者は、原則として直前の専門演習担当者がアドバイザー教員となります。アドバイザー教員は、学修ばかりでなく、大学生活一般のアドバイザーでもあります。質問、相談事があれば研究室のドアをノックしてください。

早期警告措置について

経済経営学類では学生が計画的に学修を進め卒業要件を確実に満たすことができるよう促すために、成績不良の学生に対して以下のような早期警告措置を行います。

- ・ 第2セメスターの成績交付時点で、修得卒業要件単位が20単位未満の学生に関しては、アドバイザー教員に修学状況を通知します。
- ・ 第4セメスターの成績交付時点で、修得卒業要件単位が40単位未満の学生に対しては、アドバイザ

ー教員が履修指導を行います。

- ・ さらに第 6 セメスターの成績交付時点で、修得卒業要件単位が 80 単位未満の学生に対しては、履修指導を行います。
- ・ 上記の他、直前のセメスターの修得単位が 10 単位未満等の学生に対して、必要に応じて教務委員、アドバイザー教員が個別の指導（保護者への成績表郵送を含む）を行います。

転コースについて

正当な理由がある場合は、第 4 セメスターの間に、第 5 セメスターからのコース所属変更を申請することができます。手続きについては教務課に問い合わせてください。

転学類について

入学後、ようやく自分の将来像が定まり、そのために本学の他学類で勉強したい、という希望をもつ人があるかもしれません。そのような人のために、転学類制度があります。転学類は、第 3 セメスターの所定の期間に申請を受けつけ、選考を行います。認められた学生は第 4 セメスターから新しい学類に所属することになります。

ただし、転学類は、学生本人の希望どおりに認められるものではなく、各学類が転入の出願要件や選考方法を定めていますので、教務課の該当学類窓口にて確認してください。

授業以外の時間帯における演習室の使用について

- ① サブゼミ及びゼミ活動は、原則として割り振られた演習室で行うこと。
- ② 使用時間（午前 9 時～午後 10 時 30 分）以外は絶対に使用しないこと。
- ③ 割り振られたゼミ間で十分に話し合いの上使用すること。
- ④ 室内を加工するなど、現状を変更してはならない。室内備品等を他教室へ移動しないこと。
- ⑤ 常に火災等の事故が起こらないように特に注意すること。備付暖房以外の火気器具（電気調理器含）は一切使用しないこと。備付暖房を使用した場合は必ず消火したことを確認してから退出すること。
- ⑥ 整理整頓に努め、使用後は必ず清掃を行うこと。私物を置かないこと。
- ⑦ 省エネにご協力ください。退出時には使用機器類の電源を切り、窓を施錠し、消灯を確認すること。
- ⑧ 演習室内での飲食は原則禁止です。

大学間交流協定に基づく留学後の単位認定について

留学後には留学先の大学で取得した単位を、福島大学の科目として認定することができます。認定の詳細については下記のとおりです。

(1) 留学時における英語及び英語以外の外国語関連の学修については、表A又は表Bにより学修時間に応じて22単位まで専門科目として認定する。なお本学で開講する英語及び英語以外の外国語又は本学で開講していない外国語から複数の外国語を学修した場合も、認定単位は22単位までとする。

(2) 留学時における外国語関連以外の学修のうち授業内容が外国語関連以外の専門科目に相当するものがあれば、学修時間に応じて認定する。

(3) 留学中の学修で基盤教育科目(英語B I II、応用英語、英語以外の外国語応用 I IIなど)として認定できるものがあれば、学修時間に応じて認定する。

(4) 認定にあたっては、留学先各科目のシラバスが必要になります。帰国後に用意できないケースも多いので、必ず留学中に準備しておくようにしてください。準備ができない場合、希望の科目で認定できないことがあります

(5) 不明な点があれば、事前に教務課で確認してください。

表A：留学時における英語の学修について単位認定できる科目

科目名	単位	認定	科目区分
Japan Study Program 科目群	2	4	専門科目
英語実践演習(留学)※	2	18	専門科目
合計		22	

表B：留学時における英語以外の外国語の学修について単位認定できる科目

科目名	単位	認定	科目区分
ドイツ語実践演習 I II、ロシア語実践演習 I II	2	4	専門科目
外国語実践演習(留学)※	2	18又22	専門科目
合計		22	

※ 英語実践演習(留学)、外国語実践演習(留学)は、留学時単位認定用の科目とし、英語は18単位まで、ドイツ語、ロシア語は18単位まで、フランス語、中国語、韓国朝鮮語は、22単位まで認定するものとする。また本学で開講していない外国語の学修については、外国語実践演習(留学)として学修時間に応じて22単位まで認定する。

コース横断プログラムと科目

経済経営学類では、専門教育の中核をなす経済学・経営学の2コースのほか、経済経営学類生全員に学修を奨励するエキスパート・プログラムと一連の科目群を用意しています。コースやモデルの垣根に拘らない、幅広い履修を奨励します。

1. グローバル・エキスパート・プログラム

「グローバル・エキスパート・プログラム」は、異なる文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える人材育成を目的とするプログラムです。

本プログラムでは、入学後の半年間は集中的に英語を学び、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また欧州評議会が提案する複言語主義に基づき、日本語、英語とともに、英語以外の外国語を学修し、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた外国語運用能力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなど様々な異文化体験を積むことができます。下記の条件を満たした学生に、学修の証しとして、6セメ終了時に「プログラム認定証」が発行されるので、就職活動の際、海外での経験、技能審査の成績などを具体的にアピールすることができます。

グローバル・エキスパート・プログラムのメリット

- グローバル社会を疑似体験できる

福島大学では、現在19カ国からの留学生が学んでいます。また、経済経営学類には、ロシア、ドイツ、アメリカ、韓国、中国出身の教員がいます。外国語の習得はもちろんですが、多様な人々と交流しながら異文化経験を積むことができます。

- 幅広い知識を得られる

外国語を習得する上で、その背後に潜む文化を理解することは欠かせません。歴史、慣習、言語、文学、芸術、行動様式など各国の文化的特徴についての専門講義を履修することにより、幅広いものの見方、柔軟な思考を身につけることができます。

- 就職活動に活用できる

就職活動の際、エントリーシートや面接などで「大学で何を学んだか」を聞かれた場合に、海外での経験、検定試験の成績などに基づいて具体的にアピールすることができます。就職活動で活用したい方は、計画的な履修を心がけ、下記認定要件を満たしてください。

グローバル・エキスパート・プログラム履修開始から認定までの流れ

(1) ガイダンスへの参加

入学式後にグローバル・エキスパート・プログラムに関するガイダンスが開催されます。ここで、プログラムの内容、認定要件などを確認してください。下記「望ましい履修パターン」を参考にして、卒業時までには30単位習得することを目指します。

(2) プログラム授業科目の履修

● 1年次～2年次（外国語運用能力の向上）

基盤教育外国語とアドバンスト演習の履修を通して、必要な当該外国語の運用能力を身につけてください。

- ★ 基盤教育外国語の必修単位数は、英語を主として学ぶ場合、英語8単位・非英2単位、非英を主として学ぶ場合、英語4単位・非英6単位が標準です。
- ★ 英語を主として学ぶ場合、1年次には基盤教育外国語と英語アドバンスト演習を組み合わせ、極力「毎日」英語を履修しましょう。
- ★ 2セメスターに開講される「多文化理解」は必ず履修してください。

● 2年次～3年次（異文化体験）

グローバル演習科目の履修を通して、海外で様々な活動を経験してください。また、引き続きアドバンスト演習を履修することで、中長期の留学に必要な語学力を磨いてください。

- ★ グローバル演習科目を履修しない場合は、所定の外部技能審査で必要単位を満たすことができます。

● 3年次～4年次（幅広い知識の修得および留学）

プログラム関連専門科目の履修を通して、外国語運用能力の先にある学問の世界を覗いてみましょう。また、学修の集大成として、中長期の留学を目指しましょう。

(3) プログラム認定証の発行

就職活動などで、プログラムの履修をアピールしたい場合には、6セメ終了時に「プログラム認定証」を発行することができます。

具体的な履修手続きについては「3.経済経営学類が卒業するためには」の「専門教育の履修について」を参照してください。

2. 会計エキスパート・プログラム

2019年度より開始した「会計エキスパート・プログラム」については、

(ア) 検定試験の合格にもとづく単位認定

(イ) 一部科目の早期履修

というしくみとなっています。認定要件を満たした者は「会計エキスパート・プログラム修了証」が授与されます。自己申告制ですので、教務課窓口にて申請してください。

○ (ア) 検定試験* の合格にもとづく単位認定

・全商（1級）または日商（3級，2級，1級のいずれか）の合格

→「簿記概論Ⅰ」「簿記概論Ⅱ」（各2単位）の単位を認定する。成績評価は「N」。

・日商（2級または1級）の合格

→「中級簿記」（2単位）の単位を認定する。成績評価は「N」。

以上については、入学時に限定しません。各セメスター履修登録時の事前申請とします。なお、高校1種教育職員免許状「商業」の取得を目指す場合には「簿記概論Ⅰ」「簿記概論Ⅱ」の単位認定を申請せず履修登録をおこなうこと。

○ (イ) 一部科目の早期履修

入学前に全商（1級）あるいは日商（2級または1級）に合格している者は、申請により、以下の科目について、早期履修が可能です。

・「入門会計学」…… 第3セメスター → 第1セメスター。

・「中級簿記」…… 第4セメスター → 第2セメスター。

○ プログラム認定要件

・会計学関連分野の学類専門科目（「簿記概論Ⅰ」「簿記概論Ⅱ」を除く。〈別表1〉参照）の単位を20単位以上修得すること。

・大学院の会計税務プログラム科目（特殊研究。〈別表2〉参照）から、アドバンスト科目として2単位以上修得すること。

・本学入学後に日商（2級または1級）を受験し、合格すること。

<別表1> 会計エキスパート・プログラム認定対象学類科目

(第3 Semester) 入門会計学

(第4 Semester) 中級簿記, 原価計算Ⅰ, 財務諸表論Ⅰ, 租税法概論

(第5 Semester) 財務管理論, 経営情報分析, 上級簿記, 原価計算Ⅱ,
管理会計, 財務諸表論Ⅱ, 財務諸表監査, 租税法Ⅰ

(第6 Semester) 現代ファイナンス論, コスト・マネジメント, 租税法Ⅱ

<別表2> 会計エキスパート・プログラム認定対象大学院科目

原価計算論特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 管理会計論特殊研究, コスト・マネジメント特殊研究, 価値創造会計特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 財務諸表論特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 財務報告論特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 租税法特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 会計実務特殊研究Ⅰ・Ⅱ

*以下の略称を用います。

全商：全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験

日商：日本商工会議所主催簿記検定試験

○修了認定申請時期

学年にかかわらず、認定要件を満たせば申請することができます。申請時期は毎年3月、9月を予定しています。

3. キャリア・リテラシー

昨今「働き方改革」やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の重要性が叫ばれています。経済経営学類では、多角的で現実的な内容をもった「キャリア形成論」をはじめ、労働制度や社会保障についての科目を通じて、身を守ることも学んでもらう科目群を用意しています。

第1 Semester：「キャリア形成論」

第2 Semester：「基礎経営学Ⅰ」

第4 Semester：「組織行動論」

第4 Semester以降：各「コーオプ演習」

第5・6 Semester：「キャリアモデル学習」「社会政策」「労働経済」
「人的資源管理論」

これらを、これからの「働き方と暮らし方」を学ぶための科目群として位置づけています。

4. 調査・分析スキルズ

大学で学び、考え、発信していく方法として、調査・分析にかかわる適切な知識・技術を身につけることは、卒業研究をはじめすべての学術的議論の根幹をなす重要なスキルです。経済経営学類では経済学・経営学分野で特に重視されるスキルを習得する科目群を「調査・分析スキルズ」として位置づけています。

第3セメスター：「入門統計学」

第4セメスター：「統計学概論」

第5・6セメスター：「計量経済学」「卒研のための統計分析」「産業連関分析」「経営情報分析」「調査法Ⅰ（質問紙）」「調査法Ⅱ（フィールド）」「海外調査：欧米Ⅰ・Ⅱ」「海外調査：アジアⅠ・Ⅱ」

※上記のプログラムおよび科目群は両コースを横断する科目群として位置づけられていますが、個別の科目のコース専門科目での位置づけは「開講科目一覧」を参照してください。

教育職員免許状の取得について

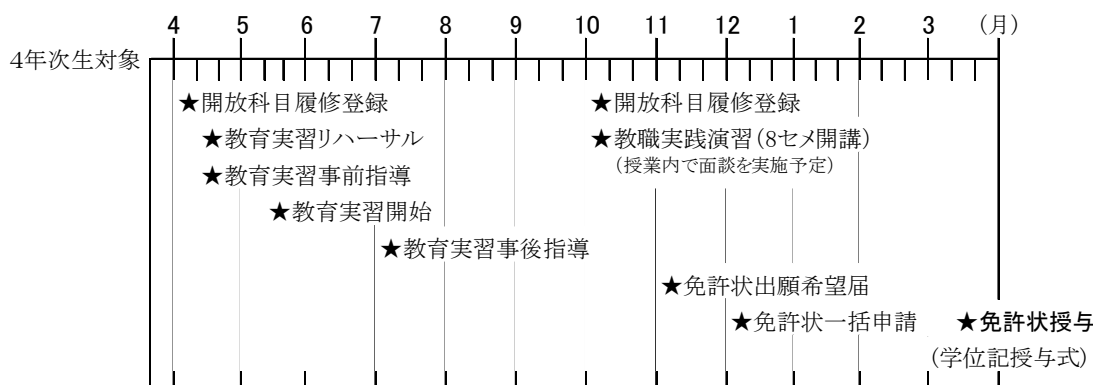
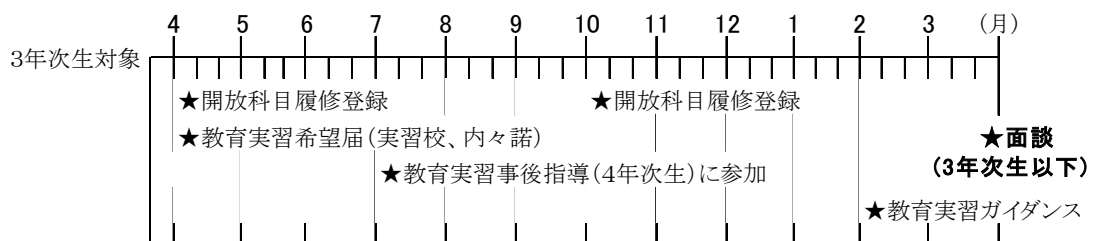
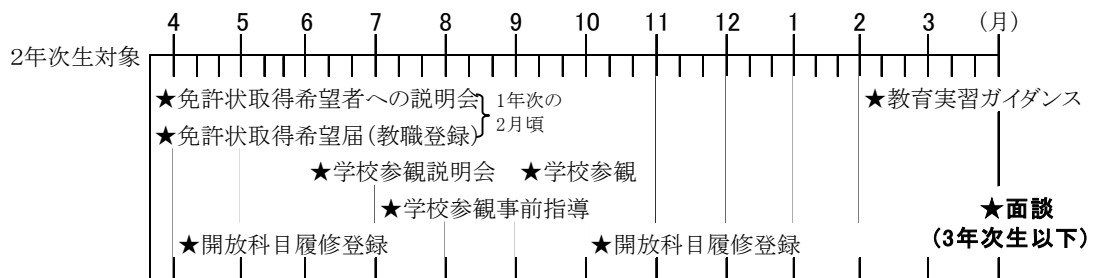
経済経営学類で取得できる教育職員免許状（以下、単に「免許状」と略す）は、高等学校教諭1種免許状「商業」です。経済学コース・経営学コースのいずれかに所属し、所要の単位を修得することによって、卒業時に取得することができます。

なお、「公民」「情報」も取得可能ですが単独では取得できません。「商業」を基礎として、さらに行政政策学類や共生システム理工学類で開講される所要の単位を修得することが必要となります。

要卒単位に加え、多くの教職関連科目を履修する必要があることや、教員への採用は狭き門であることも踏まえ、免許状の取得を目指すにあたっては、教職に就く意思があるなど、明確な目的意識が必要といえるでしょう。

1. 免許状の取得希望者に係る各種行事・手続きについて

免許取得に係る行事・手順のおおまかな時期は次のとおりです。なお、詳細については掲示します。



2. 免許状の取得希望者の募集及び受入れについて

- (1) 免許状取得希望者の募集は、1年次の後期に行う予定の説明会の際に行います。この手続きによって、免許取得希望者として登録（教職登録）され、以後の教職関連科目の履修が許可されます。
- (2) 教職登録できる人数は、1学年30名以内です。希望者がこの人数を超える場合は、GPA等を活用して選抜します。
- (3) 経済経営学類生が「情報」「公民」免許を取得するためには、「商業」の免許取得を予定し、教育実習も「商業」で実施しなければならないこととします。
- (4) 教職登録の人数制限に加え、「情報」「公民」免許での人数制限があり、「情報」関連科目を開講する共生システム理工学類、「公民」関連科目を開講する行政政策学類で選抜を行う可能性があります。
- (5) 編入学生を含む2年次生以上の学生が免許状の取得を希望する場合は、受け入れ人数に余裕のある場合に限り、本人の意欲及び履修計画を確認したうえで受け入れる場合があります。

3. 免許状を取得するために必要な単位の修得方法について

教職関連科目の中には隔年開講の科目もあり、時間割上の自由度も低いため、履修計画を立てる際には十分に注意してください。

4. 免許状取得に係る専門領域科目の履修方法について

(1) 免許状を取得するためには、免許教科に関わらず、基盤教育の「日本国憲法(2単位)」、「健康運動科学実習(1単位)」及び「スポーツ実習(1単位)」、「英語AⅠ」「英語AⅡ」から2単位、「情報リテラシー」2単位(2023年度以降の入学者は「社会とデータ科学の基礎」も可)、を修得しなければなりません。

(2) 「教育の基礎的理解に関する科目」等の開講計画及び履修方法は、下記によります。

免許法に定める科目		授業科目	要修得単位数	履修年次	2026年度担当教員	2027年度開講予定
科目	各科目に含めることが必要な事項					
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	人間と教育	2	2	植田啓嗣	開講
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	2	宗形潤子 前川直哉 高野孝男	開講
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育と社会	2	3	(非)櫻井直輝	開講
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育発達心理学	2	2	(非)高橋千枝	欠講
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育基礎	2	2	(非)橋本淳一	開講
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探求の時間の指導法	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	2	岡田努	開講
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術 ※教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む) ※2022年度以降の入学者	教育の方法	2	2	坂本篤史 高野孝男	開講
	情報通知技術を活用した教育の理論及び方法 ※2022年度以降の入学者	I C T活用の理論と方法	1	2	工藤日南子	開講
	生徒指導の理論及び方法 ※進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む	生活指導論	2	3	(非)伊藤弥	開講
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の基礎(中学校・高等学校に焦点づけて)	2	3	青木真理	開講
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後指導	1	4	教職課程委員	開講
		教育実習(高等学校)	2	4	教職課程委員	開講
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	4	岡田努 教職課程委員	開講
		計	24			

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

※ 2021年以前の入学者は入学年度の学修案内による履修方法を参照してください。

(3) 「教科に関する専門的事項」及び「各教科の指導法」の開講計画及び履修方法は、下記によります。

① 商 業

【教科に関する専門的事項】

免許法に定める科目	授業科目	要修得 単位数	履修 年次	2026年度 担当教員	備考
商業の関係科目	簿記概論Ⅰ	2	1	稲村 健太郎	
	簿記概論Ⅱ	2	1	稲村 健太郎	
	入門経営学	2	1	村上 早紀子	
職業指導	職業指導	2	2	欠講	隔年開講

備考 「職業指導」は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

上記科目（計8単位）の単位を修得し、さらに次の科目から24単位、計32単位を修得してください。

入門会計学、調査法Ⅰ、財務諸表論Ⅰ、財務諸表論Ⅱ、原価計算Ⅰ、原価計算Ⅱ、組織行動論、財務管理論、管理会計、経営情報分析、現代ファイナンス、基礎経営学Ⅰ、財務諸表監査、租税法Ⅰ、租税法Ⅱ、マーケティング論、経営組織論、基礎経営学Ⅱ、経営戦略論、人的資源管理論、証券市場論、コスト・マネジメント、中級簿記、上級簿記

【各教科の指導法】

免許法に定める科目	授業科目	要修得 単位数	履修 年次	2026年度 担当教員	備考
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ※2022年度以降の入学者	商業科教育法Ⅰ	2	2	（非）小林喜則	隔年開講
	商業科教育法Ⅱ	2	2	（非）小林喜則	隔年開講

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

② 公 民（行政政策学類の専門教育科目を履修する必要があります）

【教科に関する専門的事項】

免許法に定める科目	要修得単位数	授 業 科 目	単位数	履修年次	履修方法	備 考
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	4	現代法学論	2	1	①現代法学論と国際法Ⅰ 又はⅡ ②現代政治論Ⅰ又はⅡと 国際政治論Ⅰ又はⅡ 上記①又は②を必修とする。	
		国際法Ⅰ	2	3		
		国際法Ⅱ	2	3		
		現代政治論Ⅰ	2	1		
		現代政治論Ⅱ	2	2		
		国際政治論Ⅰ	2	3		
		国際政治論Ⅱ	2	3		
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	4	社会学原論Ⅰ	2	1	必修	
		社会学原論Ⅱ	2	2	必修	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	2	★哲学概説	2	2	} 2科目の内、いずれか 1科目必修	隔年開講
		★倫理学概説	2	2		隔年開講

備考 ★印の科目は、人間発達文化学類で開講している科目です。人間発達文化学類開講の授業科目の開講計画は人間発達文化学類「開講科目一覧表」で確認してください。

上記条件を満たしたうえで、次の科目をも加えた範囲から計32単位を修得してください。

地方自治法Ⅰ、地方自治法Ⅱ、環境法、労働法Ⅰ、労働法Ⅱ、社会保障法、経済法、商法Ⅰ、商法Ⅱ、憲法（人権）Ⅰ、憲法（人権）Ⅱ、憲法（統治）Ⅰ、憲法（統治）Ⅱ、行政法総論Ⅰ、行政法総論Ⅱ、行政救済法Ⅰ、行政救済法Ⅱ、刑法Ⅰ、刑法Ⅱ、民事裁判法Ⅰ、民事裁判法Ⅱ、民法総則、民法（不法行為）、民法（債権総論）、民法（債権各論）、民法（物権）、民法（担保物権）、刑事裁判法Ⅰ、刑事裁判法Ⅱ、民法（家族）、民法（相続）、地方行政論、地方政治論Ⅰ、地方政治論Ⅱ、政治思想史Ⅰ、政治思想史Ⅱ、行政学Ⅰ、行政学Ⅱ、政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱ、公共政策論Ⅰ、公共政策論Ⅱ、法社会学Ⅰ、法社会学Ⅱ、情報社会論、社会計画論、社会調査論、社会福祉論、地域福祉論、生活構造論Ⅰ、生活構造論Ⅱ、社会と文化の理論、スポーツ文化論Ⅰ、スポーツ文化論Ⅱ、社会構造論Ⅰ、社会構造論Ⅱ、スポーツ社会学、地域社会学、ジェンダー論Ⅰ、ジェンダー論Ⅱ、言語文化論Ⅰ、言語文化論Ⅱ、社会福祉課題研究Ⅰ、社会福祉課題研究Ⅱ、社会思想史
--

【各教科の指導法】

免許法に定める科目	授業科目	要修得単位数	履修年次	履修方法	備考
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	公民科教育法Ⅰ	2	2	必修	隔年開講
	公民科教育法Ⅱ	2	2	必修	隔年開講

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

③ 情報（共生システム理工学類の専門教育科目を履修する必要があります）

【教科に関する専門的事項】

免許法に定める科目	授業科目	単位数	履修年次	履修方法	
情報社会(職業に関する内容を含む)・ 情報倫理	情報社会と情報倫理	2	2	必修	必修以外の 科目から 18単位選択
	情報と職業	2	3	必修	
	知的財産権論 ★	2	4		
コンピュータ・ 情報処理	情報科学概論	2	2	必修	
	プログラミング基礎	2	2	必修	
	プログラミングⅠ	2	3		
	プログラミングⅡ	2	3		
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	2		
	形式言語とコンパイラ	2	3		
情報システム	ソフトウェア設計開発論	2	2	必修	
	プログラミング言語論	2	3		
	データベースシステム	2	2		
	人工知能と知識処理	2	3		
	経営情報システム ★	2	3		
情報通信ネットワーク	ネットワークシステム	2	3	必修	
	情報理論	2	3		
マルチメディア表現 ・マルチメディア技術	マルチメディアシステム論	2	3	必修	
	サウンドスケープ ★	2	3		
計				32	

備考 必修14単位、選択必修18単位、計32単位を修得してください。

★の科目は要卒単位に計上できるためCap対象になります。

※ 2023年以前の入学生は入学年度の学修案内による履修方法を参照してください。

【各教科の指導法】

免許法に定める科目	授業科目	要修得単位数	履修年次	履修方法	備考
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	情報科教育法Ⅰ	2	3	必修	
	情報科教育法Ⅱ	2	3	必修	

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

5. 教育実習について

(1) 教育実習は、教職に就く意欲がある学生に限り履修を認めることとし、教員採用試験を受験することを前提とします（実習校の多くが、採用試験を受験を実習受け入れの条件としています）。

(2) 実習参加資格

a) 4年次以上

b) 以下の単位数以上を修得していないと教育実習の履修を認めません。

要卒単位中より	教育の基礎的理解に関する科目	合計
92単位	8単位	100単位

(3) 実習校

a) 原則として出身高校で実施します。教育実習実施の前年度に、各学生が各自で受け入れ内諾を得たのち、学類として内諾依頼書を実習予定校に送付するという手続きを行います。実習校によっては実習予定者が多数となるため、できる限り早い段階で各自が実習校（出身校）に連絡をとり、内諾を得てください。

b) 普通科高校の出身者で商業免許状取得希望者については、担当係を通じて福島県立福島商業高等学校に教育実習受け入れを依頼しますが、必ずしも認められるとは限りません。

(4) 実習期間

実習期間は実習校より指定されます。期間は2週間が標準です。

(5) 実習費用

教育実習にかかわる交通費・実習費は実習生負担となります。さらに、傷害保険への加入を義務づけます。

(6) 実習の取りやめなど

教育実習生の受け入れは、実習校にとって多大な負担となるので、教職に就こうとする意思の固い学生でなければ快く受け入れてもらえません。他方で、実習生は実際に教壇に立ち、生徒に教えるのですから、大きな責任があります。

したがって、教育実習を行うのに不適當であるとみなしうる学生には、学類として事前に実習を取りやめさせています。十分に留意してください。

6. 教職実践演習（必修）について

教員免許取得のためには8セメスター（4年次後期）に、「教職実践演習」を受講しなければなりません。この授業では、4年次前期までに履修してきた、教員免許取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ、教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。

就職活動等での欠席も原則として認められません。法令で定められた必修科目ですので、この授業の単位を取得できないと、たとえ教員採用試験に合格した場合でも免許取得ができないことを十分理解の上、しっかりとした目的をもって受講してください。

7. 履修カルテの活用について

教員免許を取得希望の学生は、「教職履修カルテ」を使用します。このカルテは教員免許を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位取得後に確認したり、教育実習等の事前事後指導に活用して教員免許取得のために活用するためのものです。

詳細については、免許状取得希望者への説明会や掲示で案内します。

8. 免許状取得希望者の登録取り消しについて

修学上の理由等により教員免許状の取得を断念する場合は、速やかに教務担当窓口に申し出てください。なお、実習受入れの内諾を得た後に教育実習を取り消すことは実習予定校に多大な迷惑を及ぼすので、厳に慎んでください。

グローバル特修プログラムの履修について

皆さんは、自分の将来を考えて専門分野の知識や技能を深めることを目的に、入学されたと思います。しかし、大学で開講される多種多様な科目群から自分の興味・関心にあった科目を系統立てて履修することは、それほど簡単なことではありません。そこで、福島大学では、現代の多文化社会において必要とされる教養を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担っていく力を身につけたい学生のために「グローバル特修プログラム」を用意しました。以下の「グローバル教養プログラム」と「英語グレードアッププログラム」の二つを提供します。

①グローバル教養プログラム

「グローバル教養プログラム」は、グローバル化する社会を理解するために必要な知識や技能を身につけたい学生のために、基盤教育科目、学類専門教育科目、短期語学研修等から構成されるプログラムです。これまで出会ったことのない新しい問題に、グローバルな視点から対応する力を身につけてください。

以下に示す要認定単位数（30単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科目区分		開設科目等	セメスタ ー	1科目 単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション 科目	英語・英語以外の外国語	1～	1	4	4
		外国語科目	英語・英語以外の外国語	1～	1	2	
	教養領域	学術基礎科目	グローバル教養プログラム科目	1～	2		

	問題探究領域	問題探究科目	グローバル教養プログラム科目	1～	2		
	基盤教育 小計					10	
専門教育	学類専門科目		グローバル教養プログラム科目	1～	2	4	14
その他	短期語学研修			2～	1 又は 2		
	交流協定校認定科目			2～	1 又は 2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	
専門教育 + その他 小計						20	
基盤教育 + 専門教育 + その他 計						30	

【グローバル教養プログラム科目】

※授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語 A I	1	基盤	
基盤	英語 A II	1	基盤	
基盤	英語 B I	2	基盤	
基盤	英語 B II	2	基盤	
基盤	応用英語 X I ～ X X	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎 I	1	基盤	
基盤	フランス語基礎 I	1	基盤	

基盤	中国語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	中国語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎（特設）Ⅰ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎（特設）Ⅰ	1	基盤	
基盤	中国語基礎（特設）Ⅰ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎（特設）Ⅰ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎（特設）Ⅰ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎（特設）Ⅱ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎（特設）Ⅱ	1	基盤	
基盤	中国語基礎（特設）Ⅱ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎（特設）Ⅱ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎（特設）Ⅱ	1	基盤	
基盤	ドイツ語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	フランス語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	中国語応用Ⅰ	2	基盤	

基盤	ロシア語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	ドイツ語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	フランス語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	中国語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	ロシア語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	ことばの仕組み	1	学術	
基盤	グローバル災害論	1	問題	
基盤	アジア共同体構想	1	問題	
専門	教育の歴史	2	人間	
専門	西洋教育思想	2	人間	
専門	産業・組織心理学	2	人間	
専門	社会・集団・家族心理学	2	人間	履修にあたって条件があるので、履修希望者はシラバス参照
専門	社会的養護	2	人間	
専門	知的障害者教育指導法	3	人間	
専門	知的障害者の行動分析	2	人間	
専門	調理実習	2	人間	
専門	人間と衣服	3	人間	
専門	芸術と環境	3	人間	隔年開講

専門	映像メディア論	2人間	隔年開講
専門	現代アートマネジメント	1人間	隔年開講
専門	絵画 I	1人間	
専門	美術解剖学	2人間	
専門	芸術学 I	3人間	
専門	美術史 II	3人間	
専門	アジア言語文化論 I	2人間	
専門	アジア言語文化論 II	2人間	
専門	伝統言語文化論	2人間	
専門	ドイツ語圏の言語と文化	2人間	
専門	異文化理解	2人間	
専門	外国史概説	2人間	
専門	世界地誌	2人間	
専門	東洋近現代社会史	2人間	
専門	東洋近世社会史	2人間	
専門	東洋古代・中世社会史	2人間	
専門	ヨーロッパ近世・近代史	2人間	3年に2回開講
専門	ヨーロッパ古代・中世史	2人間	3年に2回開講
専門	ヨーロッパ近・現代史	2人間	3年に2回開講
専門	確率論・統計学	2人間	
専門	スポーツ政策論	3人間	

専門	スポーツ文化史	2	人間	
専門	異文化交流演習	2	人間	
専門	比較地域文化論	2	行政	
専門	言語文化論Ⅰ	3	行政	
専門	言語文化論Ⅱ	3	行政	
専門	国際文化交流論	3	行政	
専門	欧米文化論Ⅰ	3	行政	
専門	欧米文化論Ⅱ	3	行政	
専門	英語コミュニケーションA	3	行政	
専門	英語コミュニケーションB	3	行政	
専門	英語コミュニケーションC	3	行政	
専門	English PresentationsⅠ	3	行政	
専門	English PresentationsⅡ	3	行政	
専門	中国語コミュニケーションⅠ	3	行政	
専門	中国語コミュニケーションⅡ	3	行政	
専門	外書講読（英語）Ⅰ	3	行政	
専門	外書講読（英語）Ⅱ	3	行政	
専門	外書講読（非英）Ⅰ	3	行政	
専門	外書講読（非英）Ⅱ	3	行政	
専門	国際法Ⅰ	3	行政	
専門	国際法Ⅱ	3	行政	

専門	外国史概論	2	行政	
専門	国際政治論 I	3	行政	
専門	国際政治論 II	3	行政	
専門	言語文化論	2	行政 (夜)	
専門	国際文化交流論	2	行政 (夜)	
専門	欧米文化論	2	行政 (夜)	
専門	外国語コミュニケーション文化	2	行政 (夜)	
専門	現代文化論	1	行政 (夜)	
専門	国際関係と法	2	行政 (夜)	
専門	現代の国際政治	2	行政 (夜)	
専門	多文化理解	1	経済	
専門	国際関係論	2	経済	
専門	国際公共政策論	3	経済	
専門	比較社会論	3	経済	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	ヨーロッパ文化スタディーズ	3	経済	
専門	アジア文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習 I	1	経済	

専門	英語アドバンスト演習Ⅱ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅲ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅳ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅴ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅵ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅶ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅷ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅸ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅹ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅠ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅡ	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	

専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	

専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習Ⅰ	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習Ⅱ	3	経済	
専門	ロシア語実践演習Ⅰ	2	経済	
専門	ロシア語実践演習Ⅱ	3	経済	
専門	中国語実践演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語実践演習	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅠ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅡ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅢ	2	経済	
専門	Japan Study ProgramⅣ	2	経済	
専門	Work Experience AbroadⅠ	2	経済	
専門	Work Experience AbroadⅡ	2	経済	
専門	集合と位相Ⅰ（藤本）	2	理工	
専門	集合と位相Ⅱ（藤本）	2	理工	
自由	海外演習（随時開講）	2	理工	
専門	生物多様性概論（黒沢）	2	理工	
専門	保全遺伝学（兼子）	2	理工	
専門	地下水盆管理学（柴崎）	2	理工	
専門	気象学（吉田）	2	理工	

専門	環境文化論（後藤）	2	理工	
専門	問題探究セミナーⅡ（心理生理コース）	2	理工	
専門	流通管理概論（石川）	2	理工	
専門	サプライチェーンマネジメント（石川）	2	理工	
専門	食農実践英語演習	3	食農	
専門	森林科学	2	食農	
専門	世界の食料と農業	2	食農	
専門	土壌科学	2	食農	
専門	畜産学概論	2	食農	
専門	稲作学	2	食農	
専門	蔬菜・花き園芸学	2	食農	
専門	食品加工学Ⅱ	3	食農	
専門	植物病理学	3	食農	
専門	飼料資源学	3	食農	
専門	応用昆虫学	3	食農	
専門	農村計画学	3	食農	
専門	食品マーケティング論	3	食農	
専門	アグリビジネス論	3	食農	
専門	環境保全型農業論	3	食農	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	認定要件
実用英語技能検定 CSE スコア (日本英語検定協会)	2125 以上
TOEIC L & R + S & W (Educational Testing Service)	1355 以上
TOEFL (iBT) (Educational Testing Service)	57 以上
IELTS (International English Language Testing System)	4.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	150 以上
GTEC (Global Test of English Communication)	1075 以上
TEAP	267 以上

(Test of English for Academic Purposes)	
TEAP (CBT)	510 以上
(Test of English for Academic Purposes)	

各資格試験の認定要件（英語以外の外国語）

資格試験名	認定要件
ドイツ語技能検定試験 (ドイツ語学文学振興会)	4 級
共通ヨーロッパ語学証明書 – ドイツ語 (欧州理事会文化協調会議教育委員会)	A 1 ※
実用フランス語技能検定試験 (フランス語教育振興協会)	4 級
フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF (DELF・DALF 委員会)	A 1

中国語検定試験 (日本中国語検定協会)	4級
H S K漢語水準考試 (孔子学院総部／国家漢弁)	2級
ロシア語能力検定公開試験 (東京ロシア語学院)	4級
韓国語能力試験 (韓国教育財団)	2級

外部資格試験は、英語・英語以外の外国語からそれぞれ一つまで認定します。その場合、一方を必修2単位、他方を選択2単位に算入します。

②英語グレードアッププログラム

「英語グレードアッププログラム」は、基盤教育の必修科目を履修した後、さらに英語学習を継続し、学類専門教育科目、国際交流センターが開講する英語による講義科目などの履修を通して、海外留学・海外インターンシップなどに繋げるためのプログラムです。卒業時までには、英検の準1級程度、TOEIC L&R test の700点台に相当する英語運用能力の修得を目標としています。具体的には、「講義や研修での課題図書など、まとまった量の英文の要点を理解することができる」、「講演や講義など、興味・関心のある話題に関するまとまりのある話を理解することができる」、「自分の仕事や専門分野

に関する講義や発表などを聞いて、それについて質問したり自分の考えを述べたりすることができる」、「講義の内容や新聞の記事など、興味・関心のある話題について、聞いたり読んだりした内容の要約を書くことができる」などです。

国際交流センターが開講する英語による講義科目を履修するためには、英検 CSE スコア 2200、TOEIC L&R test 600、IELTS 5.0、TOEFL iBT 60 程度の英語力が推奨されます。詳細は各科目のシラバスを参照してください。

以下に示す要認定単位数（30 単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科目区分		開設科目等	セメスタ ー	1 科目 単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション科目	英語	1～	1	4	
	教養領域	外国語科目	英語	1～	1	4	
	問題探究領域	自主学修プログラム	留学準備等自主学修プログラム	1～	1 又は 2		2
	基盤教育 小計						10
専門教育	学類専門科目		英語グレードアッププログラム科目	1～	2	12	
	専門教育 小計						12
その他	国際交流センター開講科目		英語による講義	1～	1 又は 2		
	短期語学研修			2～	1 又は 2		6
	交流協定校認定科目			2～	1 又は 2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	

	その他 小計	8
基盤教育+専門教育+その他 計		30

【英語グレードアッププログラム科目】

※授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語 A I	1	基盤	
基盤	英語 A II	1	基盤	
基盤	英語 B I	2	基盤	
基盤	英語 B II	2	基盤	
基盤	応用英語 X I ~ X X	1	基盤	
基盤	自主学修プログラム（留学準備等）	1	問題	
専門	英語学概論	2	人間	
専門	英語意味論	2	人間	
専門	初期近代英米文学	2	人間	
専門	英米文学演習Ⅳ	2	人間	
専門	英米文学演習Ⅴ	3	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅠ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅡ	2	人間	

専門	英語コミュニケーションⅢ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅣ	1	人間	
専門	英語コミュニケーションⅤ	3	人間	
専門	英語コミュニケーションⅥ	3	人間	
専門	英語音声学	1	人間	
専門	英語コミュニケーションA	3	行政	
専門	英語コミュニケーションB	3	行政	
専門	英語コミュニケーションC	3	行政	
専門	English Presentations I	3	行政	
専門	English Presentations II	3	行政	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅰ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅱ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅲ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅳ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅴ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅵ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅶ	1	経済	

専門	英語アドバンスト演習Ⅷ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅸ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅹ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅠ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅡ	1	経済	
専門	Japan Study Program Ⅰ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅱ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅲ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅴ	2	経済	※別名で同時開講
専門	Work Experience Abroad Ⅰ	2	経済	
専門	Work Experience Abroad Ⅱ	2	経済	
専門	集合と位相 Ⅰ (藤本)	2	理工	
専門	集合と位相 Ⅱ (藤本)	2	理工	
自由	海外演習 (随時開講)	2	理工	
専門	問題探究セミナーⅡ (心理生理コース)	2	理工	
その他	Interpretation Exercises	2	国セ	
その他	Fukushima's History and Culture Ⅰ	2	国セ	
その他	Understanding Post-Disaster Fukushima	2	国セ	※別名で同時開講
その他	Popular Culture in Japan Ⅰ	2	国セ	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	スコア
実用英語技能検定 CSE スコア （日本英語検定協会）	2305 以上
T O E I C L & R + S & W （Educational Testing Service）	1560 以上
T O E F L （ i B T ） （Educational Testing Service）	72 以上
I E L T S （International English Language Testing System）	5.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 （Cambridge English Qualifications）	160 以上
GTEC （Global Test of English Communication）	1190 以上
TEAP	309 以上

(Test of English for Academic Purposes)	
TEAP (CBT) (Test of English for Academic Purposes)	600 以上

「地域×データ」実践教育プログラムの履修について

「地域×データ」実践教育プログラムは、地域に根ざした学修とデータにもとづく学修を幅広く体験できるよう基盤教育科目と学類専門教育科目とを組み合わせたプログラムです。本学の特徴ともいえる「正解のない問い」にチャレンジする学生を育成する科目の中心的な位置づけとなる特修プログラムです。

より実践的な力を身につけたい学生は「むらの大学」などのプロジェクト科目を受講し、「自主学修プログラム」などを利用して複数年にわたってプロジェクトを継続します。一般的には、「ふくしま未来学入門Ⅰ」および「ふくしま未来学入門Ⅱ」などの「地域×データ」実践教育プログラム科目を受講し、卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（30単位）を修得することで「地域×データ」実践教育プログラム修了と見なします。

【「地域×データ」実践教育プログラム履修基準表】

領域・科目区分		開設科目等	1科目 単位数	必修	要認定 単位数
基盤教育	スタートアップ科目	社会とデータ科学の基礎	2	2	12
	学術基礎科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	各2	—	
	問題探究科目	問題探究セミナーⅠ	2	2	
		ふくしま未来学入門Ⅰ・Ⅱ	各2	2	
		むらの大学Ⅰ・Ⅱ	各2	—	
		データ分析入門、福島地域データ、 データサイエンス実践演習			
		EBPM 入門、地域課題と探究指導、 地域課題とビジネス、地方と若者			
その他の問題探究科目					
自主学修プログラム（地域実践）	1～	—			
専門教育	問題探究科目	問題探究セミナーⅡ	2	2	12
	学類専門科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	各2	—	
上記の基盤教育または専門教育から					6
「地域×データ」実践教育プログラム修了認定に必要な単位合計					30

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	(人)	倫理学	
基盤	(社)	市民と法	
基盤	(社)	地域論Ⅰ	
基盤	(社)	社会論	
基盤	(社)	地理学Ⅰ	
基盤	(社)	歴史学Ⅰ	
基盤	(社)	歴史学Ⅱ	
基盤	(社)	日本国憲法	
基盤	(社)	経済学Ⅰ	
基盤	(社)	農業と人間	
基盤	(社)	政治学	
基盤	(社)	経営学	
基盤	(社)	ジェンダー学入門	
基盤	(社)	経済学Ⅱ	
基盤	(自)	環境の科学	
基盤	(自)	環境の科学Ⅰ	
基盤	(自)	環境の科学Ⅱ	
基盤	(問)	大学で学ぶ	
基盤	(問)	福島のブランド農業	
基盤	(問)	ボランティア論	
基盤	(問)	グローバル災害論	
基盤	(問)	生活探究演習	
基盤	(問)	映画の世界・映画と世界	
基盤	(問)	哲学カフェ	
基盤	(問)	ふくしま未来学入門Ⅰ	
基盤	(問)	ふくしま未来学入門Ⅱ	
基盤	(問)	災害復興支援学Ⅱ	
基盤	(問)	成年年齢引き下げと政策的課題	
基盤	(問)	アジア共同体構想	
基盤	(問)	環境放射能学入門	
基盤	(問)	震災農村復興論	
基盤	(問)	評価論入門	
基盤	(問)	再生可能エネルギー	
基盤	(問)	むらの大学Ⅰ	
基盤	(問)	むらの大学Ⅱ	
基盤	(問)	むらの大学(合宿版)	
基盤	(問)	放射線入門	
基盤	(問)	NPO論	
基盤	(問)	立ち直り支援と地域社会	
基盤	(問)	データ分析入門	
基盤	(問)	暮らしと仕事と大学生	
基盤	(問)	都市計画と「まちづくり」	
基盤	(問)	地域と世界の未来をつくる科学と数学	
基盤	(問)	地域と世界の未来をつくる科学	
基盤	(問)	社会とデータの基礎	
基盤	(問)	戦争と平和と法	
基盤	(問)	SDGsと経営	
基盤	(問)	STEAM実践学修	
基盤	(問)	災害復興学	
基盤	(問)	人・食・環境・生物の共生関係	
基盤	(問)	旅から見直す私たちの日常生活	

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	(問)	地域デザイン	
基盤	(問)	データから考えるジェンダー	
基盤	(問)	立ち直りと地域共生社会	
基盤	(問)	むらの大学(滞在型)	
基盤		自主学修プログラム	
基盤	食農	農場基礎実習Ⅱ(問題探究セミナーⅠ)	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	人間	* 現代アートマネジメント	
専門	人間	* 未来創造教育論	
専門	人間	* 科学技術と環境の倫理学	
専門	人間	* 自然災害と人間	
専門	人間	* 気候環境と人間	
専門	人間	* 都市とまちづくりの地理学	
専門	人間	食料生産と国土保全の地理学	
専門	人間	* 地域文化の総合研究	
専門	人間	* 現代社会と地域計画	
専門	人間	食と健康（人間）	
専門	人間	* 住環境学	
専門	人間	* 生涯スポーツ論	
専門	人間	* スポーツ政策論	
専門	人間	スポーツ企画演習	
専門	人間	自然体験実習	
専門	人間	地域教育実践Ⅰ	
専門	人間	* 芸術と環境	
専門	行政	憲法Ⅰ（人権）	
専門	行政	* 憲法（人権）Ⅰ	
専門	行政	民法Ⅰ（総則・不法行為）	
専門	行政	* 民法総則	
専門	行政	* 民法（不法行為）	
専門	行政	民法Ⅱ（債権）	
専門	行政	* 民法（債権総論）	
専門	行政	* 民法（債権各論）	
専門	行政	* 刑法Ⅰ	
専門	行政	* 刑法Ⅱ	
専門	行政	行政法Ⅰ（総論）	
専門	行政	* 行政法総論Ⅰ	
専門	行政	* 法社会学Ⅰ	
専門	行政	* 法社会学Ⅱ	
専門	行政	* 民事裁判法Ⅰ	
専門	行政	* 民事裁判法Ⅱ	
専門	行政	* 地方政治論Ⅱ	
専門	行政	* 公共政策論Ⅱ	
専門	行政	* 地方行政論	
専門	行政	* 社会計画論	
専門	行政	* 地域環境論	
専門	行政	* 情報社会論	
専門	行政	* 社会調査論	
専門	行政	* 地域史Ⅰ	
専門	行政	* 地域史Ⅱ	
専門	行政	* 国際文化交流論	
専門	行政	古文書学実習	
専門	行政	考古学実習	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	経済	専門演習（吉田樹）	
専門	経済	* 開発経済学	
専門	経済	* 環境経済学	
専門	経済	* 経済政策	
専門	経済	* 交通政策論	
専門	経済	* 国際関係論	
専門	経済	* 国際公共政策論	
専門	経済	* 産業組織と規制の経済学	
専門	経済	* 社会政策	
専門	経済	* 地域企業経営論	
専門	経済	* 地域経済論	
専門	経済	* 地域政策論	
専門	経済	* 地域と経済	
専門	経済	* 調査法II（フィールド）	
専門	経済	* 労働経済	
専門	経済	* 統計学概論	23入学生以降対象
専門	理工	* 経営工学	
専門	理工	* 流通管理概論	
専門	理工	* エコロジカル経済学	
専門	理工	循環型産業論	
専門	理工	社会計画概論	
専門	理工	社会計画演習Ⅰ	
専門	理工	社会計画演習Ⅱ	
専門	理工	* 環境計画論	
専門	理工	* 環境文化論	
専門	理工	再生可能エネルギーⅠ	
専門	理工	再生可能エネルギーⅡ	
専門	理工	放射線科学	
専門	理工	* 水循環システム学	
専門	理工	* 水循環システム学概論	
専門	理工	* 環境衛生科学	
専門	理工	* 環境保全論	
専門	理工	* 都市計画概論	
専門	理工	社会情報分析	
専門	食農	農場基礎実習Ⅰ	
専門	食農	食農実践演習Ⅰ	
専門	食農	食農実践演習Ⅱ	
専門	食農	（廃止）	（旧）食農実践演習Ⅲ
専門	食農	* 食品科学概論	
専門	食農	* 農業生産学概論	
専門	食農	* 生産環境学概論	（旧）生産環境科学概論
専門	食農	* 農業経営概論	
専門	食農	* 基礎微生物学	
専門	食農	* 栽培学汎論	
専門	食農	食農データサイエンス	（旧）食農情報処理演習
専門	食農	* 食品安全学	
専門	食農	* 農業工学	
専門	食農	* 畜産学概論	
専門	食農	* 農業経営学	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	食農	* 食品機能学Ⅰ	
専門	食農	* 食品加工学Ⅰ	
専門	食農	* 発酵・醸造学Ⅰ	
専門	食農	* 食品素材科学	
専門	食農	* 有機化学概論	
専門	食農	* 分析化学概論	
専門	食農	* 食品機能学Ⅱ	
専門	食農	* 食品加工学Ⅱ	
専門	食農	* 発酵・醸造学Ⅱ	
専門	食農	* 食品衛生管理学	
専門	食農	* 食品保蔵学	
専門	食農	* 食品分析学	
専門	食農	食品科学実験Ⅰ	
専門	食農	食品科学実験Ⅱ	
専門	食農	* 作物育種学	
専門	食農	* 作物学概論	(旧) 稲作学
専門	食農	* 蔬菜・花き園芸学	
専門	食農	* 果樹園芸学	
専門	食農	* 植物病理学	
専門	食農	* 飼料資源学	
専門	食農	* 応用昆虫学	
専門	食農	* 植物栄養学	
専門	食農	* 環境保全型農業論	
専門	食農	* 農地再生論	
専門	食農	* 病害虫管理学	
専門	食農	農業生産学実験・実習Ⅰ	
専門	食農	農業生産学実験・実習Ⅱ	
専門	食農	* 環境水利学	(旧) 水資源利用学
専門	食農	* 里山管理論	
専門	食農	* 農業機械学(2単位)	
専門	食農	* 森林保全学	(旧) 森林保護学
専門	食農	* 農村計画学	
専門	食農	* スマート農業論	
専門	食農	生産環境学実験・実習Ⅰ	
専門	食農	* 農業リモートセンシング	
専門	食農	* 野生動物管理学	
専門	食農	生産環境学実験・実習Ⅱ	
専門	食農	* 農業経済学	
専門	食農	* フードシステム論	
専門	食農	* 農産物流通論	
専門	食農	* 食料、農業政策学	(旧) 農業政策学
専門	食農	* 協同組合学	
専門	食農	* 農林資源経済論	
専門	食農	* 食品マーケティング論	

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	食農	* アグリビジネス論	
専門	食農	農業経営学演習Ⅰ	
専門	食農	農業経営学演習Ⅱ	
専門	食農	* 森林生物機能生態学	

「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について

英語が世界の共通言語になったように、数理・データサイエンス・AI は世界の共通知識になりつつあります。数理・データサイエンス・AI に関する知識やスキルは、様々な学問を学ぶ上でも、将来の職業生活においても非常に重要です。

学生のみなさんの中には「自分は文系だから」、「数学は苦手だ」といった理由で不安を覚える方もいるかもしれませんが、心配は要りません。

福島大学は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（以下、「認定制度」という）に認定され、全学として、基礎から実践へと積み上げ式に学んでいく「「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）」を開講しています。

本プログラムは3つの科目で構成されています。

1) 「社会とデータ科学の基礎」(スタートアップ科目)

データを構築したり、データの特性に応じた適切な分析を行ったりするために必要なデータサイエンスの考え方やスキルを学びます。

2) 「データ分析入門」(問題探究科目)

科学的方法の基本原則を講義形式で学んだ上で、授業の後半では演習形式で調査やデータ分析について経験的に学びます。

3) 「データサイエンス実践演習」(ワーキングスキル科目)

ビジネスの現場におけるデータサイエンス・AI の活用事例を学んだ後、プロジェクト型学習を通じてデータ分析を活用した政策提言を行います。

「社会とデータ科学の基礎」の単位を修得することで、プログラムの修了が認定されます。

さらに、人文社会学群（人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類）、理工学群（共生システム理工学類）、農学群（食農学類）は、「認定制度」（応用基礎レベル）に認定されており、「「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）」を開講しています。

本プログラムでは、数理・データサイエンス・AI を活用するために必要な数学・情報科学の基礎知識、将来、多様な課題解決に数理・データサイエンス・AI を活用する姿勢、それぞれの専門分野における数理・データサイエンス・AI の活用・実践を考えることのできる視野について学びます。人文社会学群、農学群では「データサイエンスの基礎」の単位を修得することで、理工学群では「数学Ⅰ（解析学）」、「プログラミング基礎」、「情報科学概論」を含めて合計10単位以上を修得することで、プログラムの修了が認定されます。

「「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム」を学んで、あなた自身の未来を切り拓いていきましょう！

*なお、プログラムへの参加・修了認定に際し、申請等の手続きは不要です。単位修得をもって修了認定し、卒業時に認定証を発行します。

他学類の専門教育科目等の履修について

(1) 自由選択の科目になるもの

専門教育科目の中には、他学類生の受講が認められている科目があります。

これらの科目は、自由選択の単位として計上することができ、最大で、他大学で修得した単位等とあわせて60単位まで修得することができます。(ちなみに自由選択の単位は、専門教育科目だけでなく、基盤教育科目を含む必修、選択必修を超えて修得した単位が自由選択の単位として計上されます。)

他学類の科目を履修できるのは、人間発達文化学類、共生システム理工学類、食農学類では1年次生以上、行政政策学類、経済経営学類では2年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上になっていることが必要です。ただし、受講者数等の事情により、他学類生について、優先的に受講制限を行う場合があります。

また、他学類の科目であることから、履修開始後に「思っていた内容と違った」「授業の内容が難しすぎた」ということが、しばしば見受けられます。履修登録をする前に、シラバスで前提として求められる基礎知識、講義の水準等をよく確認して選ぶことをお勧めします。対象となる科目については、「開放科目一覧」を確認してください。

(2) 専門教育科目になるもの

他学類の教員が担当する専門教育科目の中には、各学類において自学類の専門教育科目として履修基準に位置づけている科目があります。これらの科目は、自学類の科目と同様に履修することができます。ただし、教室収容人数等の事情により、受講者数に制限を設ける場合があります。

対象となる科目については、各学類の専門教育科目の一覧を確認してください。

(3) 夜間主開講科目について

本学には、行政政策学類の「夜間主」に所属している学生のために、夜間(6～7時限目)や土曜日に開講される科目があります。

これらの科目は、昼間の学生は受講できません。行政政策学類の学生に限り、夜間主開講の問題探究科目を受講できる場合があります。

(4) 掲示等の確認について

当該科目に係る休講や教室変更、担当教員からの連絡等については、LC 授業連絡のほか、当該科目の開講学類掲示版で確認してください。

《経済経営学類 開放科目一覧》

※備考欄について

- ・「行」「理」「農」と記載されている科目は、当該学類において専門教育科目になることを示します。
- ・他学類生は、2年次生以上で、かつ、当該科目の履修セメスター以上の学生に限り履修することが出来ます。
- ・他学類生は、収容人数等の事情からやむを得ず履修制限の対象になることがあります。

科目名称	履修開始セメスター	単位	備考
基礎経営学Ⅰ	2～	2	理
歴史と経済	2～	2	
多文化理解	2～	2	
ミクロ経済学Ⅰ	3～	2	行
マクロ経済学Ⅰ	3～	2	行
入門統計学	3～	2	理
世界経済論Ⅰ	3～	2	
入門会計学	3～	2	理
基礎経営学Ⅱ	3～	2	理
地域と経済	3～	2	行・理
経済政策	3～	2	行
ミクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
マクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
統計学概論	4～	2	理
経済数学	4～	2	
入門金融論	4～	2	
経済学史	4～	2	
地域経済論	4～	2	行
社会開発論	4～	2	
国際関係論	4～	2	行
財務諸表論Ⅰ	4～	2	
原価計算Ⅰ	4～	2	理
経営戦略論	4～	2	理
組織行動論	4～	2	
経営組織論	4～	2	
マーケティング論	4～	2	
調査法Ⅰ（質問紙）	4～	2	
中級簿記	4～	2	
租税法概論(東北税理士会福島支部連携講義)	4～	2	
公共経済学	4～	2	
比較経済史	4～	2	
計量経済学	5～	2	理
地域企業経営論	5～	2	理
管理会計	5～	2	理
調査法Ⅱ（フィールド）	5～	2	
財務管理論	5～	2	
応用経済分析	5～	2	
産業組織と規制の経済学	5～	2	
国際金融論	5～	2	
国際経済学	5～	2	行
国際公共政策論	5～	2	行
環境経済学	5～	2	理・農
国際政治経済学(世界経済論Ⅱ)	5～	2	
日本経済論	5～	2	
日本経済史	5～	2	
労働経済	5～	2	
政治経済学	5～	2	
社会政策	5～	2	行・理
地域政策論	5～	2	行・理
社会思想史	5～	2	行

科目名称	履修開始セメスター	単位	備考
地方財政論	5～	2	行
財政学	5～	2	行
交通政策論	5～	2	
開発経済学	5～	2	
アメリカ経済論	5～	2	
アジア経済論	5～	2	
経営情報分析	5～	2	理
国際経営論	5～	2	理
ヨーロッパ文化スタディーズ	5～	2	
比較社会論	5～	2	
言語コミュニケーション論	5～	2	
アジア文化スタディーズ	5～	2	
欧州経済論	5～	2	
英語圏文化スタディーズ	5～	2	
人的資源管理論	5～	2	
現代ファイナンス論	5～	2	
消費者行動論	5～	2	
原価計算Ⅱ	5～	2	理
コスト・マネジメント	5～	2	理
租税法Ⅰ	5～	2	行
租税法Ⅱ	5～	2	行
財務諸表論Ⅱ	5～	2	
上級簿記	5～	2	
地域金融論(東邦銀行提供講義)	5～	2	
証券市場論(野村證券提供講義)	5～	2	
財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会福島県会寄附講義)	5～	2	
国際情勢を知るための現代史	1～	2	
コーオプ演習：アクセンチュア	5～	2	
ドイツ語実践演習Ⅰ	3～	2	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ 2単位の修得が条件
ロシア語実践演習Ⅰ	4～	2	
ドイツ語実践演習Ⅱ	4～	2	当該外国語「実践演習Ⅰ」の修得が条件
ロシア語実践演習Ⅱ	5～	2	
Japan Study ProgramⅠ～Ⅲ	3～	2	
Work Experience AbroadⅠ・Ⅱ	2～	2	
英語アドバンスト演習Ⅺ	1～	1	
英語アドバンスト演習Ⅻ	2～	1	
Academic English LiteracyⅠ・Ⅱ	2～	2	
Basic Chinese CourseⅡ	2～	2	
Path to CEFR C1Ⅰ～Ⅵ	3～	2	
Fukushima's History and CultureⅠ・Ⅱ	3～	2	
国際協働プロジェクト学習Ⅰ・Ⅱ	2～	2	
Japan and Asia from Historical Perspective	3～	2	
Analyzing Japanese : From a Comparative Perspective	3～	2	

他大学等及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について

本学で修得した授業科目の他に、他の大学（短大含む）等で修得した単位や検定試験等学外における学修の成果を、本学類で修得の求められている授業科目の単位とみなし、一定の範囲で卒業要件単位や本学独自に定めている各種特修プログラムや履修コースの単位として認定する場合があります。これらの単位は合わせて 60 単位を上限としています。

1. 他大学等との単位互換科目の認定

本学では、以下の大学等との間で大学間単位互換協定を締結しています。

茨城大学、宇都宮大学、会津大学、医療創生大学、郡山女子大学、日本大学工学部、東日本国際大学、福島学院大学、福島県立医科大学、放送大学、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校

これは、本学に在学したまま他大学の特別聴講学生（協定により相手大学が受入れる学生）としての受入れ申請を行い、認められた場合、当該大学において開講される授業科目を履修できるものです。この場合、修得した授業科目の単位を本学で修得したものとみなします。

なお、詳細については毎年 3 月中旬にライブキャンパス及び掲示等でお知らせしますので、履修希望者は留意してください。

2. 能力検定試験等の学修成果の認定

英語や英語以外の外国語に関して、能力判定のための各種検定試験や語学研修の結果等をもって、本学で修得した単位として認める場合があります。詳細は「グローバル特修プログラム」の説明や関係規程等を参照してください。

3. 入学前在籍大学等での既修得単位

本学に入学する前に在籍していた大学や短期大学等で修得した単位は、本学で修得すべき授業科目の単位に充当できる場合があります。入学手続きの案内に記載のあるように、該当者は定められた期日までに申し出てください。なお、当該授業科目の単位・成績証明書や授業内容のわかるシラバス等の提出が必要となります。

大学間交流協定に基づく派遣交換留学について

本学では大学間交流協定に基づき、海外の大学と学術交流協定及び学生交流協定を締結しており、交換留学をはじめとした様々な交流を行っています。学生交流協定を締結している大学へ交換留学する場合には、留学先大学への入学料、検定料、授業料は免除されます。ただし、留学期間中、福島大学に授業料を納入する必要があります。また、その他の渡航費や生活費など、留学に関わる費用は自己負担となります。交換留学を希望する学生は、国際交流センターへお問い合わせください。

1. 協定締結校

国際交流センターのHPをご覧ください。

<https://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/statistics/agreement.html>

2. 応募資格等

- (1) 派遣留学応募時および留学終了時に、本学に正規生として在籍する者。
- (2) 派遣先大学での単位取得または専門の研究をする目的が明確である者。
- (3) 語学条件が設定されている協定校については、国際交流センターが定める語学要件を満たしている者。
- (4) 留学期間終了後に各種語学検定試験を受けることが可能な者。
- (5) 留学期間終了後、本学を卒業・修了できる者。

※成績不良により最低修業年限を経過している者は対象外です。

※応募資格等については、変更になる場合もありますので、必ず募集要項を確認してください。

3. 留学期間

留学期間は1年間または半年間です。渡航開始月は協定校により異なりますが、8～10月頃です。

4. 派遣までの日程

募集は、国際交流センターの掲示板やホームページにて周知します。

11月～1月末	募集
2月上旬～中旬	面接選考
2月下旬～3月中旬	派遣内定
4月～8月頃	交換留学に向けての準備期間 (ビザの取得、航空券の手配等)
6月下旬	派遣者説明会の開催
8月～10月頃	派遣先大学へ出発

※正式な派遣決定は、派遣先大学からの受入許可があつてからとなります。学内選考により派遣内定を得た場合であっても、派遣先大学の受入許可がない場合は派遣できません。

※日程については、変更になる場合もありますので、必ず募集要項を確認してください。

5. 問合せ先

国際交流センター

S棟 1階 (平日: 9:00-12:30 / 13:30-17:00)

TEL: 024-503-3066

H P: <https://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/center.html>

E-mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

関係規程等

○福島大学学則

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学学則」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○福島大学経済経営学類規程

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学経済経営学類規程」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○福島大学単位認定規程

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学単位認定規程」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

○福島大学試験規則

昭和44年3月18日

改正 昭和61年4月1日

平成11年3月16日

平成14年2月19日

平成16年4月1日

平成17年2月15日

平成17年11月15日

平成18年3月7日

平成31年3月19日

(趣旨)

第1条 この規則は、福島大学学則（昭和24年6月1日制定。以下「学則」という。）第15条第2項の規定に基づき、福島大学の試験に関し、必要な事項を定める。

(試験の方法)

第2条 単位の認定は、試験によって行う。試験は、原則として筆記試験とするが、科目によっては、レポート又は実技等によることができる。

2 前項の規定にかかわらず平常の成績をもって試験に代えることができる。

(試験の期間)

第3条 試験は次のとおりとする。

一 正規試験

二 平常試験

2 正規試験は正規試験期間及び補講期間（以下「試験期間」という。）に行う試験で第7条及び第10条の規定が適用される試験をいい、平常試験は授業期間または補講期間等に行う試験で第7条及び第10条の規定が適用されない試験をいう。

3 正規試験の科目は試験期間開始日の2週間前までに、試験日程は試験期間開始日の1週間前までに発表する。

4 教育実習及び学則第24条の2に定める留学等の特別の理由により正規試験を受験できない場合は、前項の日程とは別に正規試験の受験を認めることがある。この場合の試験日程については、別に発表する。

5 前項の試験を受験しようとする者は、各学類等が指定した期日までにその旨を願い出なければならない。

(受験資格等)

第4条 試験を受けることができる科目は、あらかじめ履修登録を行っている科目とする。

この場合において、試験の科目によっては、出席時数を受験資格の条件とすることがある。

- 2 正規試験（前条第4項に規定する試験を含む。以下「正規試験」という。）を受験しなかった場合は、第7条の規定により追試験を認められた場合を除き、試験期間終了の翌日で不合格とみなす。

(不合格科目の受験)

第5条 不合格科目を再び受験しようとする場合には、改めて履修登録をしなければならないものとする。

第6条 削除

(追試験)

第7条 病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった者については、追試験を認めることがある。この場合において、追試験を受験しようとする者は、試験期間及び当該期間終了の翌日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たるときは翌日）までに、追試験受験願（病気の場合は医師の診断書を、その他の場合はその証明書等を添付）を提出しなければならない。

- 2 追試験は、当該学期末の各学類等が指定した期日に行う。

第8条 削除

(単位の認定)

第9条 単位の認定に関する規程は、別に定める。

(不正行為)

第10条 正規試験において受験者が不正行為をした場合は、その学期における当人の総ての履修登録を取り消し、学則に基づき懲戒を行うものとする。

附 則

- 1 この規程は、昭和44年3月18日から施行し、昭和44年4月1日から適用する。
- 2 福島大学教育学部試験規程及び福島大学経済学部試験規程は、この規程適用の日から廃止する。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年3月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日から引き続き在学する者及び福島大学学則(昭和24年6月1日制定)第20条から第21条の2の規定に基づき教育学部、行政社会学部または経済学部に入学者に係る第4条、第6条及び第8条から第10条の規定は、この規則による改正後の福島大学試験規則にかかわらず、なお、従前の例による。この場合において、第4条の規定に基づき出席時数の不足により受験資格を失ったとき及び正規試験を受験できなかった者で第7条の規定に基づく追試験の手続きを行わなかったときは、当該科目を無効とし、また、不正行為をした場合は、その学期における本人の全ての履修登録科目を無効とし、学則に基づき懲戒を行うものとする。

附 則

この規則は、平成17年11月15日から施行し、平成17年10月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日から引き続き在学する者及び福島大学学則(昭和24年6月1日制定)第20条から第21条の2の規定に基づき人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類または共生システム理工学類に入学者に係る第4条第2項の規定は、この規則による改正後の福島大学試験規則にかかわらず、なお、従前の例による。

学生受験心得

(入室時間)

1. 毎試験開始5分前までに試験室に入ること。

(遅刻)

2. 30分以上遅刻した者は、原則として入室を認めない。

(試験室)

3. 指定された試験室で受験しなければならない。

(学生証の携帯)

4. 必ず学生証を携帯して入室し、机上の見やすいところに置くこと。学生証を携帯しない者は、受験することができない。なお、身分証明書をもって学生証に代えることはできない。

(不用品の携帯禁止)

5. 別段の指示のない限り、受験に不用の品を携帯してはならない。なお、携帯電話等は電源を切って指定の場所に置くこと。

(受験者の外出)

6. 受験中は監督者の許可がなければ試験室外に出てはならない。

(退室時間)

7. 試験開始後30分以上経過しなければ退室してはならない。

(試験時間終了前の答案提出)

8. 試験時間終了前に、答案を作成し終わったときは、答案を所定の場所に提出して退室すること。

(試験時間終了時の答案提出)

9. 試験時間が終了した時は、ただちに答案作成の作業をやめて答案を所定の場所に提出すること。受験者はいかなる場合も答案を試験室外に持ち出してはならない。

(不正行為)

10. 試験室内で不正と思われる行為があったと認められたときは、監督者の指示に従うこと。

(その他)

11. その他一切の疑問に関しては監督者の指示に従うこと。
12. 試験の妨げになるので、退室後の私語は慎むこと。

不正行為に該当する行為について

次の行為は不正行為となります。留意してください。

1. カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること 等）をすること。
2. 持込みが許可されていない教科書、参考書、ノート、プリント、辞書、その他の資料等をポケット等に所持すること、又は机の中に入れておくこと。
3. 他人の代わりに受験すること、又は他人に自分の身代りとして受験させること。
4. 使用が許可された参考書等を試験中に貸借する行為。
5. 机や壁、身体等に不正な書き込みをすること。
6. 試験時間中に答えを教えるなどの他の受験者を利するような行為をすること。
7. 他人の答案用紙と交換すること。
8. 私語や動作等によって不正な連絡をすること。
9. 携帯電話、パソコン、電子辞書、その他情報通信機器を使用すること。
10. 試験室において、試験監督者等の指示に従わず他の受験者の迷惑となる行為をすること。
11. その他、試験の公平性を損なう行為。

不正行為と認定された場合は、不正行為のあった日から1か月以内の停学処分となり、その学期における総ての履修登録科目が取り消されます。

福島大学試験規則に基づき「病気その他やむを得ない事情」として認めることがある場合の運用について

平成17年3月3日 専門教育委員会
平成18年9月12日 教務協議会
平成21年7月27日 教務協議会
平成24年3月21日 教務協議会
平成25年2月21日 教務協議会

1. 福島大学試験規則第7条第1項にいう「病気その他やむを得ない事情」として審査を行う場合は、この運用により行うものとする。
2. 「病気その他やむを得ない事情」とは、次の事項をいう。追試験受験を希望する者は、所定の追試験受験願に欠席の理由を証明できる証明書等を添えて学類が指定する期間に提出しなければならない。なお、追試験の受験を願い出てきた者の審査は、副学長が行う。
 - 一 本人の病気や怪我
(世帯主もしくは配偶者のある者にあつては、一親等内の病気や怪我を含む。)
 - 二 配偶者又は三親等内の親族の病気又は怪我で、看護を要するとき。
 - 三 配偶者又は三親等内の親族の死亡による忌引き
 - 四 天災その他の非常災害
 - 五 交通機関の突発事故
(電車、バス等の公的機関に限る。)
(ただし証明書を取得することが困難な事情にあつた者で、審査者が面談等により当該交通機関を利用していたものと認めた者を含む。)
 - 六 会社説明会及び就職試験出席(試験地への移動日を含む。)
 - 七 社会人については、やむを得ない残業又は出張
 - 八 妊娠・出産
 - 九 大学が単位認定を行う学外の研修に参加する場合
 - 十 公的機関が行う海外派遣事業に、部局長の承認を得て参加した場合
 - 十一 日本学生陸上競技対校選手権大会等、国民体育大会以上の大会に出場した場合
 - 十二 裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
 - 十三 その他適当と認められる特別の理由

授業欠席に関する取り扱い

平成31年1月22日 教務協議会
改正 令和4年5月18日 全学教務協議会
改正 令和4年11月16日 全学教務協議会

次の各号の理由により授業を欠席する場合は、一定の様式に基づく届けを提出することにより福島大学単位認定規程第3条第3項に規定する欠席時数として算入しないこととする（但し、集中講義を除く）。

- (1) 教育職員免許法上の必修科目である「教育実習」、「介護等体験」、児童福祉法上の必修科目である「保育実習」及び公認心理師法上の必修科目である「心理実習」、博物館法上の必修科目である「博物館実習」及び社会教育法上の必修科目である「社会教育実習」に参加する場合
- (2) 学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
- (3) 裁判員制度による裁判員及び裁判員候補者に選任された場合
- (4) 親族が死亡した場合で、葬儀その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のために通学ができないとき（※）

上記の他に欠席時数として算入しない取り扱いとする場合は、全学教務協議会でこれを認定する。

上記の理由により欠席した学生については、当該科目担当教員は単位の認定上不利益とならないよう代替措置を講じるものとする。

この取り扱いは平成31年度から適用する。

この取り扱いの制定に伴い、「『公欠』についての申し合わせ」は廃止する。

- (※) 1(4)の親族の範囲は、①配偶者、②一親等（父母、子）、③二親等（祖父母、兄弟姉妹、孫）とし、その期間は、親族の範囲が①、②の場合、連続7日間（休日を含む）の範囲内の期間、③の場合、連続3日間（休日を含む）の範囲内の期間とする。

他大学等との単位互換実施基準

平成9年11月17日

全学教育委員会決定

改正 平成14年3月20日評議会

平成16年9月21日教育研究評議会

平成17年4月1日教育研究評議会

平成31年3月19日教育研究評議会

単位互換を行う場合の基本的考え方

大学間相互単位互換は高等教育機関の教育機能の強化に資するものと考えられ、また大学間連携及び開かれた大学という観点からも、積極的に推進されるべきものとする。

単位互換科目の位置付け

(1)履修科目は、大学として教育上有益な科目とし、必修、選択又は自由、分類の扱いとする。

(2)基盤教育、専門教育又は自由選択の科目のいずれに位置付けるかは各学類教員会議が決定する。

但し、基盤教育の科目に位置付ける場合は、基盤教育委員会との協議を経るものとする。

本学において修得したものとみなすことができる単位数及び認定方法

(1)本学において修得したものとみなすことができる単位数

他大学等において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を越えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(2)単位認定方法

相手大学等の単位認定書に基づき、各学類の決定による。

単位互換対象科目の基準

(1)本学で開講し単位互換の対象とする科目

原則として次に掲げる科目のいずれにも該当するもので、かつ、関係学類又は基盤教育委員会が適当と認めたものとする。

イ 本学の常勤教員が担当する科目

ただし、必要がある場合は、非常勤講師が担当する科目を含む。

ロ 本学内で受講を制限していない科目

ただし、特別聴講学生の受講枠として特に認められた科目を含む。

(2) 相手大学等で開講し単位互換の対象とする科目

原則として本学で開講していない科目で本学の各学類又は基盤教育委員会が教育上有益と認める科目とする。

学生の身分

単位互換協定に基づく他大学等の授業科目を履修する学生の当該他大学等における身分は、特別聴講学生とする。

対象とする学生数

聴講を許可する受入れ学生数は、講義等に支障のない範囲の数とし、各学類又は基盤教育委員会において決定する。

特別聴講学生に対する検定料・入学料・授業料

特別聴講学生に対する検定料・入学料・授業料は相互に不徴収とすることを原則とする。

単位互換協定の有効期間

実施の日より4～5年程度とし、相手大学等との協議により決定する。

単位互換協定の協議手順

他大学等との単位互換協定の協議は、次の手順により行うものとする。

- ①他大学等との単位互換協定を行う必要が生じた場合、副学長のうち学長が指名した者（以下「副学長」という。）は、当該大学等との単位互換協定書（案）を作成し、教育研究評議会に提起する。
- ②教育研究評議会は、当該協定書（案）に基づき審議し、意義があると認めた場合は各学類教員会議に協定書（案）締結の可否を問い、了承を得て教育研究評議会で確認し、学長が協定書を締結する。
- ③協定書を締結した後、全学教務協議会は当該大学等との単位互換の具体化について検討を行う。
- ④具体化については、各学類等ごとに検討し、学類教員会議等の議を経て、全学教務協議会で集約する。副学長はその内容について当該大学等と協議し、その結果を全学教務協議会で確認し、各学類教員会議等に報告する。

外国の大学との単位互換については、この基準を参考にして弾力的に運用するものとする。

他の大学院との単位互換については、この基準を参考にして弾力的に運用するものとする。

この基準により難しい場合は、教育研究評議会の協議により対応するものとする。

附則

この基準は、平成9年1月17日から施行する。

附則

この基準は、平成14年3月20日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附則

この基準は、平成16年9月21日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附則

この基準は、平成16年10月1日から施行する。

附則

この基準は、平成17年4月1日から施行する。

平成17年3月31日から引き続き在学する者及び福島大学学則第20条から第21条の2の規定に基づき教育学部、行政社会学部又は経済学部に入学者については、改正後の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この基準は、平成31年4月1日から施行する。

平成31年3月31日から引き続き在学する者及び福島大学学則第20条から第21条の2の規定に基づき人間発達学類、行政政策学類、経済経営学類又は共生システム理工学類に入学者については、改正後の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

大学間相互単位互換に関する取扱規則

平成10年4月21日
改正 平成13年5月15日
平成14年3月5日
平成16年5月11日
平成16年9月21日
平成17年4月1日
平成31年3月19日
第1章 総則

趣旨

第1条 この規則は、福島大学学則第13条の5第3項、第13条の6第3項及び第37条の2第2項の規定に基づき、他の大学、短期大学又は高等専門学校（以下「他の大学等」という。）における授業科目の履修及び特別聴講学生の取扱いについて、大学間相互単位互換を行う場合の必要な事項を定めるものとする。

協議

第2条 本学の学生が他の大学等における授業科目を履修及び当該他の大学等の学生が本学の授業科目を履修する場合、学類長は学長の承認を得て、あらかじめ当該他の大学等と次の各号に掲げる事項について協議するものとする。

- 一 履修対象科目及び単位数
- 二 履修期間
- 三 対象となる学生数
- 四 単位の認定方法
- 五 検定料、入学料及び授業料
- 六 学生の身分
- 七 その他必要な事項

基盤教育委員会との協議

第3条 学類長は、前条第1号に定める履修対象科目が次の各号のいずれかに該当する場合はあらかじめ基盤教育委員会との協議を経るものとする。

- 一 他の大学等から呈示された授業科目を、本学の基盤教育の科目として履修対象科目にする場合
- 二 本学の基盤教育の科目を、他の大学等に履修対象科目として呈示する場合

履修対象科目の位置付け

第4条 学類教員会議は、他の大学等の履修対象科目を基盤教育、専門教育又は自由選択の科目に位置付けるものとする。

履修許可申請手続

第5条 他の大学等で授業科目を履修しようとする者は、履修願（別紙様式）を学類長に提出しなければならない。

受入れ依頼

第6条 学類長は、前条の規定により他の大学等の授業科目の履修願を受理した学生について、選考の上、当該他の大学等へ受入れを依頼するものとする。

履修の許可

第7条 他の大学等において授業科目を履修することの許可は、当該他の大学等の承認を得て学類長が行い、学長に報告するものとする。

履修期間

第8条 他の大学等の授業科目の履修を許可する期間は、1年以内とする。

履修許可の取消し

第9条 他の大学等の授業科目の履修を許可され履修中の者が、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該他の大学等との協議により履修許可を取り消すことがある。

- 一 成業の見込みがないと認められる場合
 - 二 学生としての本分に反した場合
 - 三 その他履修が困難と認められる事情が生じた場合
- 2 学類長は、前項の規定により他の大学等の授業科目の履修許可を取り消した場合、学長へ報告するものとする。

単位の認定

第10条 他の大学等において修得した単位の本学での認定は、当該他の大学等との協議に基づき交換する資料等により学類長が行うものとする。

- 2 学類長は、前項の結果を学長に報告するものとする。

授業料の納付

第11条 他の大学等の授業科目の履修を許可された者は、当該期間中においても本学で規定する授業料を納付しなければならない。

第3章 特別聴講学生

受入れの許可

第12条 特別聴講学生の受入れの許可は、学類教員会議の議を経て学類長が行い、学長に報告するものとする。

受入れ許可の時期

第13条 特別聴講学生の受入れ許可の時期は、原則として学年の始めとする。

履修許可期間

第14条 特別聴講学生の履修を許可する期間は、1年以内とする。

成績の通知

第15条 学類長は、特別聴講学生が履修した授業科目の成績を、当該学生が所属する他の大学等の学類長等へ通知するものとする。

受入れの取消し

第16条 特別聴講学生が履修期間中において本学の諸規程に違反した場合は、当該学生が所属する他の大学等と協議のうえ、受入れを取り消すことがある。

2 学類長は、前項の規定により特別聴講学生の受入れを取り消した場合、学長に報告するものとする。

準用規定

第17条 この規則に定めるもののほか、特別聴講学生については、本学の諸規程のうち学生に関する規定を準用する。

第4章 補則

規則の改正

第18条 この規則を改正しようとするときは、基盤教育委員会及び学類教員会議の議を経なければならない。

附則

この要項は、平成10年4月21日から施行する。

附則

この要項は、平成13年5月15日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附則

この要項は、平成14年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成16年5月11日から施行する。

附則

この規則は、平成16年10月1日から施行する。

附則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

平成17年3月31日から引き続き在学する者及び福島大学学則第20条から第21条の2の規定に基づき教育学部、行政社会学部又は経済学部に入学者については、改正後の第3条及び第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

平成31年3月31日から引き続き在学する者及び福島大学学則第20条から第21条の2の規定に基づき人間発達学類、行政政策学類及び経済経営学類又は共生システム理工学類に入学者に係る第3条第1号及び第2号並びに第4条の規定は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

制定 平成17年2月17日 専門教育委員会

改正 平成29年6月27日 教務協議会

改正 平成31年3月20日 教務協議会

(趣旨)

第1条 この要項は、英語の語学研修に係る学修の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する語学研修)

第2条 本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する語学研修は、次のとおりとする。

- 一 本学が実施する短期語学研修
- 二 その他前号に準ずる短期語学研修

(単位を認定する授業科目及び単位数等)

第3条 当該研修を修了した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位のうち自由選択領域科目または自由選択2単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。
- 3 単位は、福島大学単位認定規程（平成17年2月17日制定）に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第4条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。

- 一 申請時期が前期 8月1日より1週間（1日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
- 二 申請時期が後期 1月10日より1週間（10日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

(単位の認定方法)

第5条 本学の教務委員は、次に掲げる条件を満たす場合において、単位を認定する。

- 一 事前・事後指導が行われていること
- 二 出発以前に所定の計画書を教務委員に提出し、承認を得ること

(単位の通知)

第6条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度の入学に係る者から適用する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

2019 年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

制定 平成 31 年 2 月 20 日 教務協議会

(趣旨)

第 1 条 この要項は、英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する外国語の語学研修)

第 2 条 本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する研修は、本学の各外国語責任教員が認めた当該言語圏の信頼すべき機関が開設するものとし、次のとおりとする。

- 一 授業時数 20 時間以上の外国語講座
- 二 授業時数 20 時間以上の文化講座

(単位を認定する授業科目及び単位数等)

第 3 条 当該研修を修了した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位のうち「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅱ」又は「応用ⅠⅡ」4 単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。
- 3 単位は、福島大学単位認定規程(平成 17 年 2 月 17 日制定)に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第 4 条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。

ただし、卒業時期により、認定できない場合がある。

- 一 申請時期が前期(前期の単位として認定)
9 月 20 日より 1 週間(20 日が土・日・祝日の場合はその翌日とする)
- 二 申請時期が後期(後期の単位として認定)
3 月 20 日より 1 週間(20 日が土・日・祝日の場合はその翌日とする)

(単位の認定方法)

第 5 条 本学の各外国語責任教員は、次に掲げる条件を満たす場合において、単位を認定する。

- 一 事前指導を受けていること
- 二 当該外国語基礎Ⅰの単位を修得後に行った研修であること、又は当該外国語基礎Ⅰを履修中、正規試験期間終了後に行った研修であること。ただし、後者の場合、当該学期に当該外国語基礎Ⅰの単位を修得しなければならない。
- 三 出発以前に所定の計画書を責任教員に提出し、承認を得ていること
- 四 研修終了後、レポートを提出し、当該言語の責任教員の指導を受けていること

(単位の通知)

第 6 条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

2019年度入学生からの 英語に係る技能審査の単位認定に関する要項

制定 平成31年3月20日 教務協議会

(趣旨)

第1条 この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第13条の6第3項の規定に基づき、英語に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する技能審査)

第2条 本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、次のとおりとする。

- 一 実用英語技能検定
- 二 TOEIC (L&R/S&W)
- 三 TOEFL (iBT)
- 四 IELTS
- 五 ケンブリッジ英語検定
- 六 GTEC
- 七 TEAP
- 八 TEAP (CBT)

(単位を認定する授業科目及び単位数等)

第3条 在学中に当該試験の規定以上のスコアを取得した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。単位を認定するスコア並びに認定できる単位数については別表のとおりとする。

- 2 前項により与えることのできる単位のうち自由選択4単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。
- 3 前2項により与えることのできる単位数は、学則第13条の5第1項及び第2項並びに同第13条の7第1項及び第2項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 単位は、福島大学単位認定規程（平成17年2月17日制定）に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第4条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に合格証明書等の書類を添えて次の期日までに提出しなければならない。

- 一 申請時期が前期 8月1日より1週間（1日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
- 二 申請時期が後期 1月10日より1週間（10日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

(単位の認定方法)

第5条 単位の認定可否は、教務委員が判定する。

(単位の通知)

第6条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行し、2019年度の入学に係る者から適用する。

別表

資格試験名	スコア	科目区分	認定単位数
実用英語技能検定 (日本英語検定協会)	2305 以上	自由選択	4 単位
T O E I C (Educational Testing Service)	1560 以上	自由選択	4 単位
T O E F L (i B T) (Educational Testing Service)	72 以上	自由選択	4 単位
I E L T S (International English Language Testing System)	5.5 以上	自由選択	4 単位
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	160 以上	自由選択	4 単位
G T E C (Global Test of English Communication)	1190 以上	自由選択	4 単位
T E A P (Test of English for Academic Purposes)	309 以上	自由選択	4 単位
T E A P (C B T) (Test of English for Academic Purposes)	600 以上	自由選択	4 単位

2019年度入学生からの

英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項

制定 平成31年2月20日 教務協議会

(趣旨)

第1条 この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第13条の6第3項の規定に基づき、英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する技能審査)

第2条 本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、次のとおりとする。

- 一 ドイツ語技能検定試験
- 二 共通ヨーロッパ語学証明書—ドイツ語
- 三 実用フランス語技能検定試験
- 四 フランス文部省認定フランス語資格試験
- 五 中国語検定試験
- 六 HSK漢語水準考試
- 七 ロシア語能力検定公開試験
- 八 韓国語能力試験
- 九 日本語能力試験

(単位を認定する級、授業科目及び単位数等)

第3条 入学の前後を問わず当該資格試験に合格した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。

単位を認定する級及び授業科目並びに認定できる単位数は、別表のとおりとする。

- 2 前項により与えることのできる単位数は、学則第13条の5第1項及び第2項並びに同第13条の7第1項及び第2項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 単位は、福島大学単位認定規程（平成17年2月17日制定）に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第4条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に合格証明書等学修の成果を明らかにする書類を添えて次の期日までに提出しなければならない。

- 一 入学前の申請
入学前年度の3月31日まで（31日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
- 二 入学後の申請
 - ① 申請時期が前期（前期の単位として認定）
8月1日より1週間（1日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
 - ② 申請時期が後期（後期の単位として認定）
1月10日より1週間（10日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

(単位の認定方法)

第5条 単位の認定可否は、当該言語の責任教員が判定する。

(単位の通知)

第6条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行し、2019年度の入学に係る者から適用する。

別表

資格試験名	級	科目名	認定 単位数
ドイツ語技能検定試験 (ドイツ語学文学振興会)	5級	ドイツ語基礎 I・II	2単位
	4級	ドイツ語基礎(特設) I・II	2単位
	3級	ドイツ語応用 I・II	4単位
共通ヨーロッパ語学証明書－ドイツ語 (欧州理事会文化協調会議教育委員会)	A1※	ドイツ語基礎 I・II ドイツ語基礎(特設) I・II	4単位
	A2※	ドイツ語応用 I・II	4単位
実用フランス語技能検定試験 (フランス語教育振興協会)	5級	フランス語基礎 I・II	2単位
	4級	フランス語基礎(特設) I・II	2単位
	3級	フランス語応用 I・II	4単位
フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF (DELF・DALF 委員会)	A1	フランス語基礎 I・II フランス語基礎(特設) I・II	4単位
	A2	フランス語応用 I・II	4単位
中国語検定試験 (日本中国語検定協会)	準4級	中国語基礎 I・II	2単位
	4級	中国語基礎(特設) I・II	2単位
	3級	中国語応用 I・II	4単位
HSK 漢語水準考試 (孔子学院総部/国家漢弁)	1級	中国語基礎 I・II	2単位
	2級	中国語基礎(特設) I・II	2単位
	3級	中国語応用 I・II	4単位
ロシア語能力検定公開試験 (東京ロシア語学院)	4級	ロシア語基礎 I・II ロシア語基礎(特設) I・II	4単位
	3級	ロシア語応用 I・II	4単位
韓国語能力試験 (韓国教育財団)	1級	韓国朝鮮語基礎 I・II	2単位
	2級	韓国朝鮮語基礎(特設) I・II	2単位
	3級	韓国朝鮮語応用 I・II	4単位
日本語能力試験 (注2) (日本国際教育支援協会)	N1	日本語 I (A・B)	2単位

※ A1 (Start Deutsch 1 または Fit in Deutsch 1)、※ A2 (Start Deutsch 2)

注) 1 単位を認定された授業科目の級以下の授業についても合わせて単位を認定する。

また、別表記載の資格試験の級より上位の級に合格したものについても、同様に単位を認定する。

ただし、本学ですでに単位を修得した授業科目及び単位認定を受けた授業科目について、重ねて単位認定は行わない。

2 日本語は外国人留学生に限る。

簿記に係る技能審査の単位認定に関する要項

制定 平成25年 2月21日 教務協議会
改正 平成31年 3月20日 教務協議会

(趣旨)

第1条 この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第13条の6第3項及び第13条の7第4項の規定に基づき、簿記に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(単位を認定する技能審査)

第2条 経済経営学類における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、日本商工会議所簿記検定試験（1級、2級又は3級）又は全国商業高等学校協会簿記実務検定試験（1級）とする。

(単位を認定する授業科目及び単位数等)

第3条 当該試験に合格した者（入学前の合格を含む）は、申請により単位認定を受けることができる。単位を認定する級、授業科目及び認定できる単位数は、別表のとおりとする。

2 前項により与えることのできる単位は、経済経営学類基礎科目の「簿記概論Ⅰ」2単位、「簿記概論Ⅱ」2単位及びコース専門科目の「中級簿記」2単位とする。ただし、人間発達文化学類生、行政政策学類生、共生システム理工学類生及び食農学類生が対象となる場合には、「中級簿記」のみ開放科目2単位として認定する。

3 前2項により与えることのできる単位数は、学則第13条の5第1項及び第2項並びに同第13条の7第1項及び第2項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 単位は、福島大学単位認定規程（平成17年2月17日制定）に基づき、「N」で評価する。

(単位認定の申請期間)

第4条 単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に各検定試験の合格証を添えて所定の期間内に経済経営学類担当窓口へ提出しなければならない。

(単位の認定方法)

第5条 単位の認定可否は、経済経営学類教務委員が判定する。なお、検定試験合格を単位認定の要件とする。

(単位の通知)

第6条 単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

附 則

- 1 この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この要項に関しては、現代教養コースを除く平成 25 年度の入学及び平成 27 年度 3 年次編入学に係る者から適用する。

附 則

- 1 この要項は平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の要項は、平成 31 年度の入学及び（新元号）3 年度編入学に係る者から適用し、平成 31 年 3 月 31 日から引き続き在学する者並びに平成 31 年度及び（新元号）2 年度編入学に係る者にあつては、なお、従前の例による。

別表

資格試験名	級	科目名	認定単位数
日本商工会議所簿記検定試験	1 級	簿記概論 I	各 2 単位
		簿記概論 II	
		中級簿記	
日本商工会議所簿記検定試験	2 級	簿記概論 I	各 2 単位
		簿記概論 II	
		中級簿記	
日本商工会議所簿記検定試験	3 級	簿記概論 I	各 2 単位
		簿記概論 II	
全国商業高等学校協会簿記実務検定試験	1 級	簿記概論 I 簿記概論 II	各 2 単位

- 注) 1 申請者が希望する場合には、認定可能な授業科目の一部についてのみ単位認定を申請することができる。
- 2 本学ですでに単位を修得した授業科目及び単位認定を受けた授業科目について、重ねて単位認定は行わない。

教員電話番号表

LiveCampus (LC) より閲覧可能になります。

- ①LC (<https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/>) にログイン
- ② (左上) メニュー > キャンパス info > 「学内共有ファイル」 を選択
- ③ 「学内教員電話番号表」 から電話番号 (外線)、研究室を確認できます。
(文字検索が可能な PDF データになっています)
- ④ 各教員のメールアドレスは、各担当科目シラバスの氏名をクリックすると表示されます。非常勤講師は表示されないため、ご用の際は科目に対応する教務課学類係までお問い合わせください。

各種問い合わせ窓口について（学生関係窓口を中心に）

問い合わせ内容		担当窓口
身上 関係	学生証の紛失・破損による再発行	<教務課> 人間発達文化学類係： TEL 024-548-8106 mail:k-ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
	休学、退学、改姓・改名、転学類の手続き	
教務 関係	履修基準や専門領域科目の履修に関する相談	共生システム理工学類係： TEL 024-548-8357 mail: k-rikou@adb.fukushima-u.ac.jp
	試験について	
	教員免許、公認心理師ほか資格関係	行政政策学類係： TEL 024-548-8255 mail: kyoumu2@adb.fukushima-u.ac.jp
	教育職員免許状取得見込証明書・英文の証明書等	経済経営学類係： TEL 024-548-8356 mail: k-keizai@adb.fukushima-u.ac.jp
	「地域×データ」実践教育プログラムなど 特修プログラムの履修について	食農学類係： TEL 024-549-0061 mail: k-syokunou@adb.fukushima-u.ac.jp
	ライブキャンパス（LC） （住所・電話番号の変更など学籍情報の登録 や、履修登録の方法等）、学修ポートフォリオ、 証明書自動発行機	<教務課> 教務情報係： TEL 024-548-4070 mail: kyomujoho@adb.fukushima-u.ac.jp
	S棟・M棟・L棟の教室を借りたい場合	<教務課> 基盤教育係： TEL 024-548-8057 mail: kyotu@adb.fukushima-u.ac.jp
	接続領域科目や教養領域科目、問題探究領域科目について	
	科目等履修生、研究生等について	<教務課> 教務企画係： TEL 024-548-8053 mail: k-kikaku@adb.fukushima-u.ac.jp
	単位互換について	
福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	就職・進路（企業求人、公務員・教員採用試験等）についての相談	<キャリアセンター> TEL 024-548-8108 mail: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp
	アルバイトに関すること	
	学生が自主的に参加する就業体験やインターンシップ等について	
	学内での忘れ物・落とし物	<学生支援課> TEL 024-548-8054 mail:gakusei-kagai@adb.fukushima-u.ac.jp
	サークル活動で施設を借りたい場合	

福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	奨学生及び奨学金についての相談	<学生支援課> TEL 024-548-8060 mail: gakusei-s@adb.fukushima-u.ac.jp
	入学料・授業料の免除・徴収猶予について	
	授業料の納入について	<会計課> TEL 024-548-8015
	救急措置、健康についての診断・相談	<保健管理センター> TEL 024-548-8068 mail: hcc-admin@adb.fukushima-u.ac.jp
	学生生活上の様々な悩み事などの相談	<学生総合相談室> TEL 024-548-5156 mail: g-soudan@ipc.fukushima-u.ac.jp
	障がいのある学生の支援について	<アクセシビリティ支援室> TEL 024-503-3258 mail: a-shien@ipc.fukushima-u.ac.jp
	教育研究災害傷害保険等について	<福大生協> TEL 024-548-5141
	BYOD について	mail : byod@adb.fukushima-u.ac.jp
	センターアカウント、センターウェブメール、学内ネットワークについて	<情報基盤センター> TEL 024-548-8018 mail : ipc-office@adb.fukushima-u.ac.jp
留学・ 国際交流	留学や国際交流活動についての相談 外国人留学生の生活全般や在留資格等に関する相談	<国際交流センター> TEL 024-503-3066 024-503-3067 mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

【場所】

教務課は S 棟 2 F、学生支援課、国際交流センターは S 棟 1 F、キャリアセンターは S 棟 3 F、会計課は事務局棟 2 F、保健管理センターは事務局棟裏、フクニチャージ図書館（附属図書館）、情報基盤センターは S 棟 M 棟の北側、学生総合相談室・アクセシビリティ支援室は大学会館 2 F、福大生協は大学会館 1 F にあります。

（各建物の配置はキャンパスマップを参照してください。）

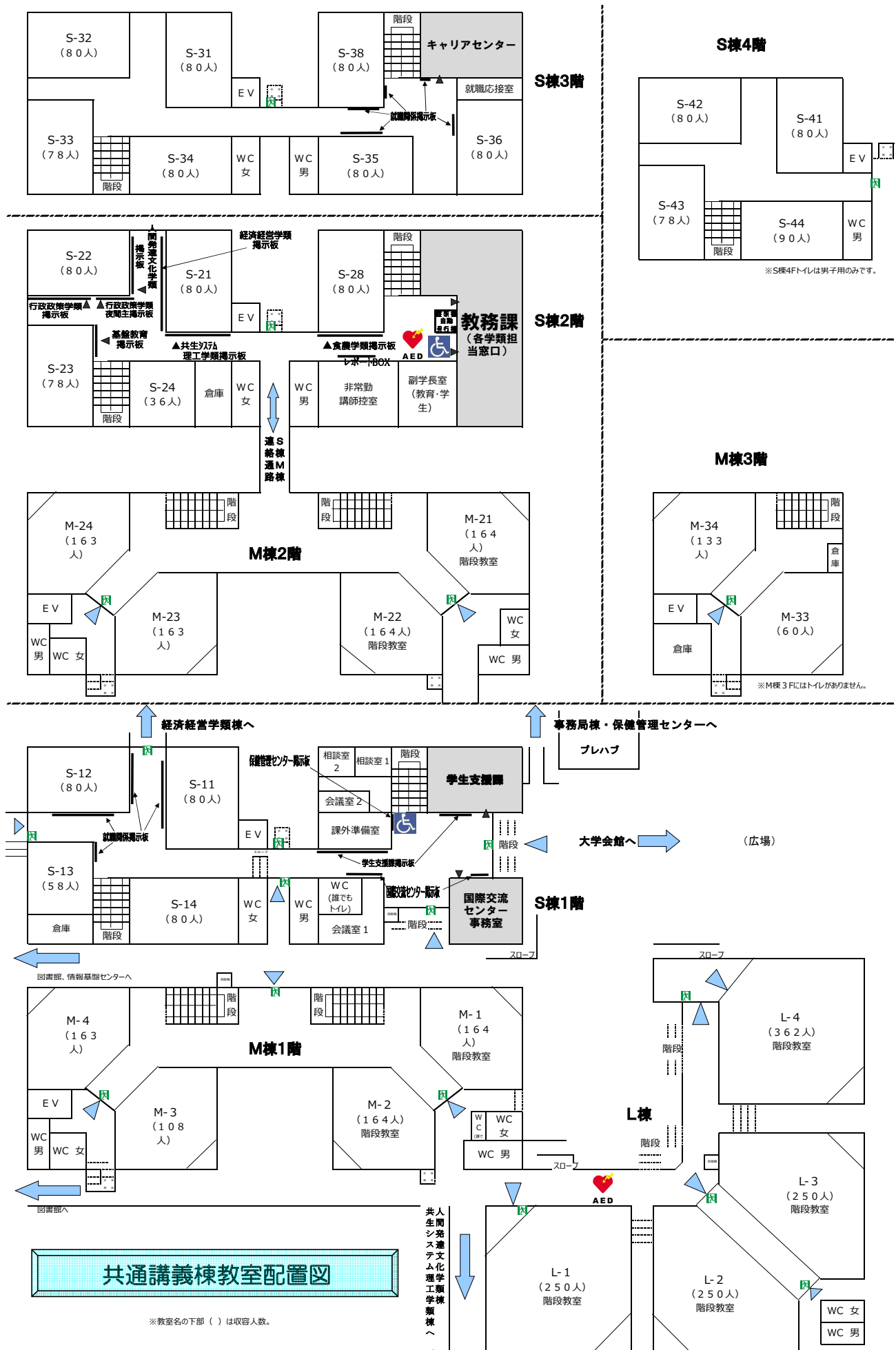
【教務 Q&A】

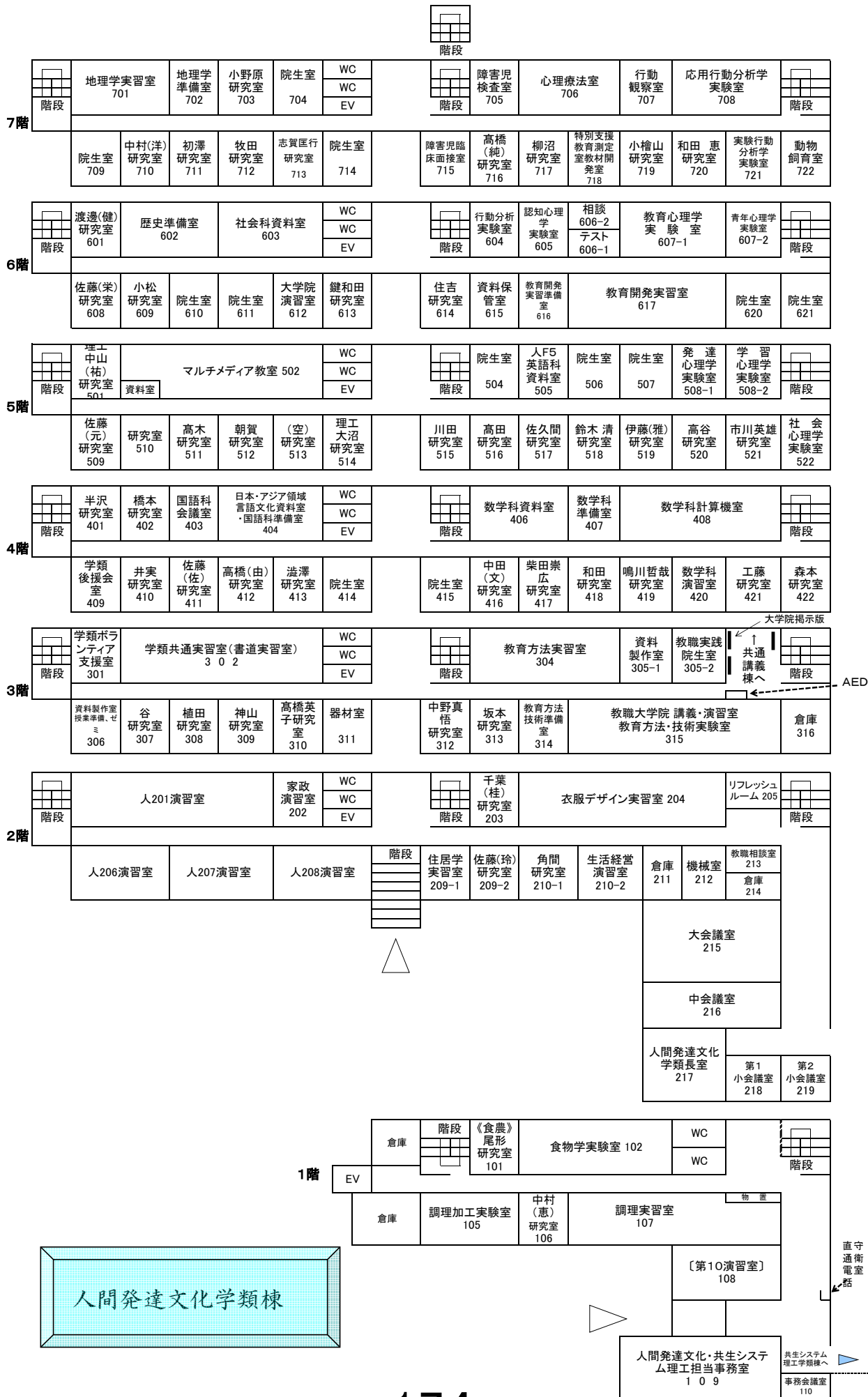
授業やカリキュラム、資格や卒業などの質問&回答、用語や制度の説明は以下のサイトに Q&A 形式で掲載されています。必ず一度は目を通しておいてください。

詳細は教務課 H P 内↓で確認できます。

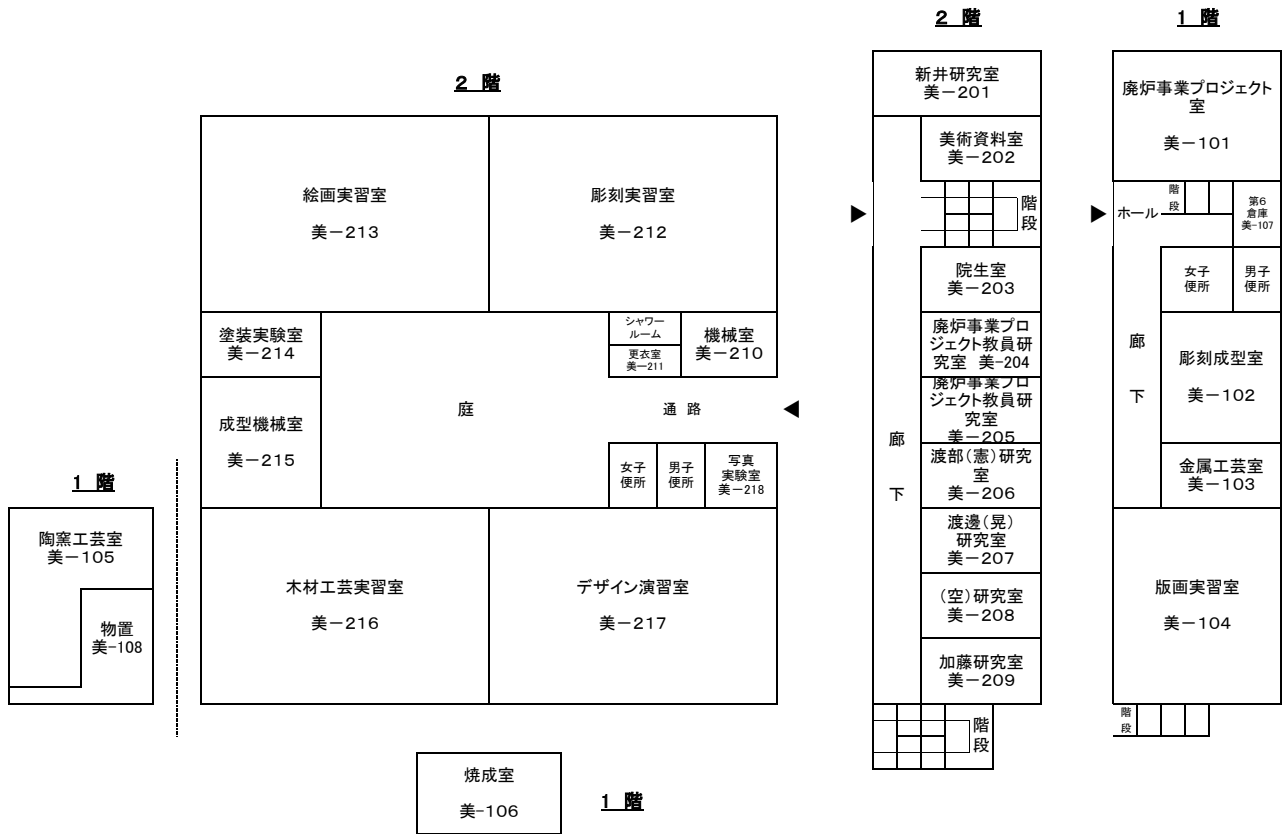
（ https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/g_qa.html ）

（注意）メールでの問い合わせの際は、必ず「用件（簡潔に）」「所属学類・研究科」「学籍番号」「氏名」を明記の上、お問い合わせください。要件を満たさないものは「迷惑メール」扱いで返信等はいりません。

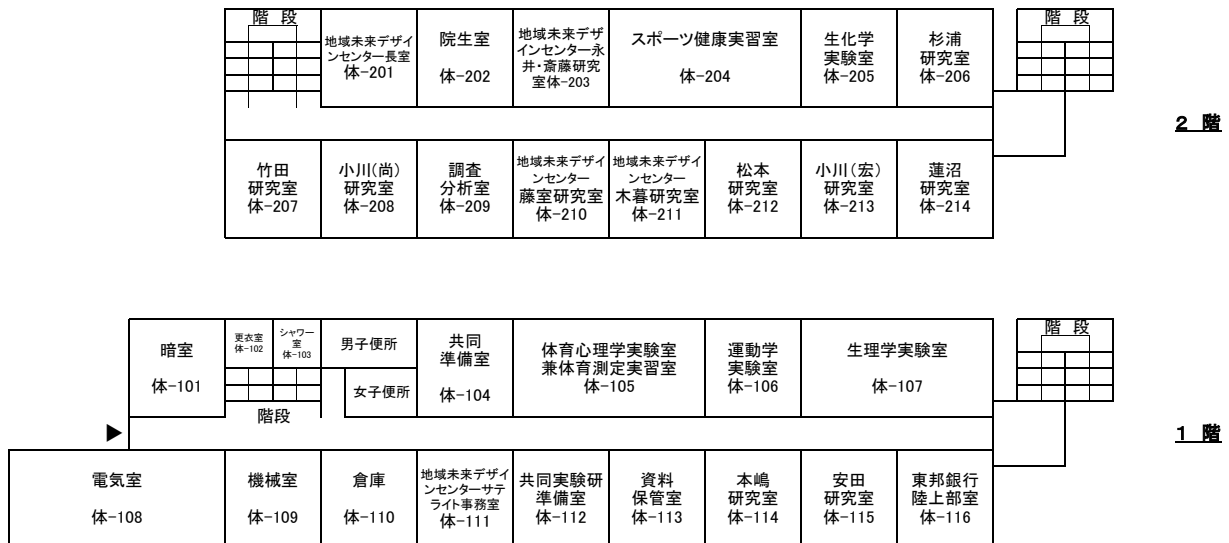




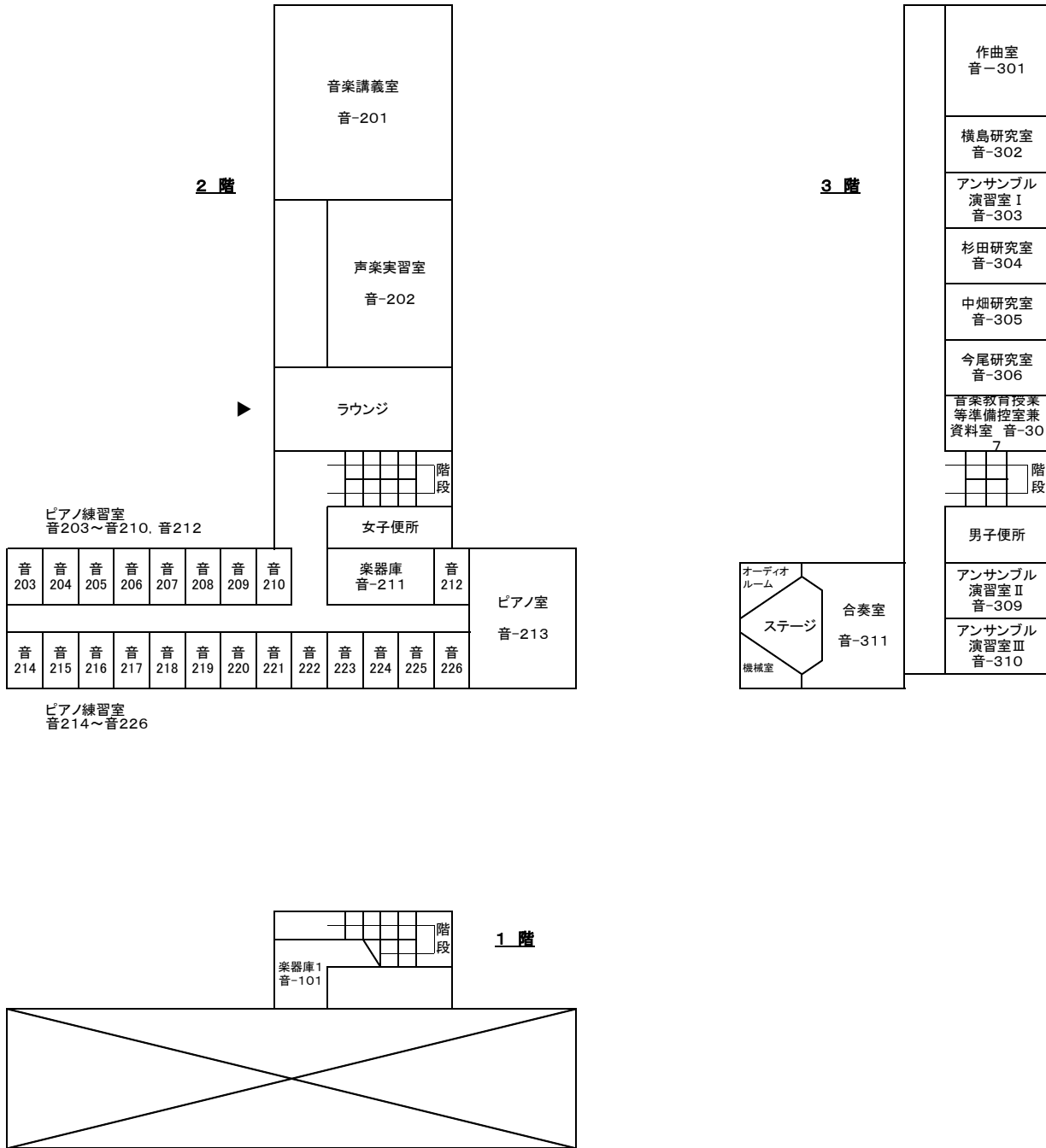
美術棟



保健体育棟



音 楽 棟



行政政策学類棟

8階	浦谷 研究室 801	金井 研究室 802	(食農)福島(慶) 研究室 803	山崎 研究室 804	研究室 805	福島(雄) 研究室 806	法令 資料室 807	ホール	WC (女/男) エレベーター	(食農)石井 研究室 808	高橋(有) 研究室 809	小規模 自治体 研究所 810
	非常階段	垣見 研究室 811	研究室 812	(食農) 研究室 813	阪本 研究室 814	鈴木(め) 研究室 815	中里 研究室 816	合同研究室 817	階段	研究室 818	研究室 819	研究室 820

7階	西田 研究室 701	尹 研究室 702	岸見 研究室 703	岩崎 研究室 704	大黒 研究室 705	廣本 研究室 706	村上 研究室 707	ホール	WC (男) エレベーター	黒崎 研究室 708	比較文化 情報 資料室 709	研究室 710
	非常階段	佐々木 研究室 711	被災文化財等 保全プロジェクト	行政情報 資料室 713	荒木田 研究室 714	田村 研究室 715	湯川村域 学連携 プロジェクト 716	合同研究室 717	階段	久我 研究室 718	F-RE!まちづく り研究室 719	照沼 研究室 720

6階	院生研究室 601	院生研究室 602	603			院生印刷室 615	ホール	WC (女) エレベーター	金敬雄 研究室 604	真歩仁 研究室 605	鈴木(典) 研究室 606
	非常階段	(食農)望月 研究室 607	小田 研究室 608	今西 研究室 609	蓬萊団地の まちづくり 活動 610	社会福祉・社会調査 実習室 611	大学院掲示板 612	階段	合同研究室 613	(食農)大瀬 研究室 614	

5階	高橋(準) 研究室 501	研究室 502	石川 研究室 503	阿部 研究室 504	歴史 資料室 505	行政社会 学会室 倉庫1	ホール	WC (男) エレベーター	考古学 実習室 509	菊地 研究室 510
	非常階段	浅野 研究室 511	徳竹 研究室 512	(食農)窪田 研究室 513	古文書学 ・博物館 実習準備室 514	古文書学・博物館 実習室 515	社会教育地域社会 実習室 516	階段	(食農)神宮宇 研究室 517	行518 演習室

4階	行401 演習室	行402 演習室	行403 演習室	行404 演習室	ホール	WC (女) エレベーター	行405 演習室
	非常階段	行406 演習室	行407 演習室	行408 演習室	行409 演習室	階段	行410 演習室 行411 演習室

3階	行301 演習室	行302 演習室	行303 演習室	WC (女)	ホール	WC (男) エレベーター	中会議室
	非常階段	貴重資料 保管室 308	行309 演習室	行310 演習室	視聴覚室		階段

行314 演習室	行315 社会情報室	演習室(日・復興知事務室) 316	行317 演習室
---------------------	---------------	----------------------	---------------------

2階	学類長室	非常勤 講師控室 (資料室)	応接室	玄関	WC (女) (男) エレベーター	教員 印刷室	教員控室
	非常階段	学生談話室		ポレ ポク スト	階段	機械室	学生印刷室 会議準備室

行211演習室	大会議室
----------------	------

1階	電気設備室	倉庫4	WC (男)	WC (障害者用)	小会議室	職員休憩室
	考古学資料 撮影分析室			エレベーター		
	機械設備室	倉庫2	階段	倉庫3	文書庫	
	行112演習室	行113演習室	特別研究教育室(法廷教室)			

経済学類棟へ

経済学類棟へ

経済学類棟へ

経済経営学類棟配置図

令和8年4月1日

※耐震改修工事(平成26年度完了)により空調はGHP(ガスヒートポンプ)、820、821、822、116、210はEHP(電気モーターヒートポンプ)

8階	非常口	井上 研究室 801	(食農) 共同 研究室 802	(食農) 根本 研究室 803	井本 研究室 804	沼田 研究室 805	プロジェクト室 806	学類合同 研究室 807	合同研究室 808	非常口	吉高神 研究室 809	(食農) 福田 研究室 810	(食農) 高野 研究室 811	(食農) 萩原 研究室 812	奥本 研究室 813	(食農) 藤野 研究室 814
		藤原 研究室 815	村上 研究室 816	プロジェクト室 817	佐藤(英) 研究室 818	(CFDC) 岩井研究室 819	石川 研究室 820	野口 研究室 821	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	<理> 永種 研究室 822	(食農) 則藤 研究室 823	ユン 研究室 824	(国際セ) 何 研究室 825	階段	
7階	非常口	菊池 研究室 701	経済基礎論 講座 資料室 702	研究室 703	十河 研究室 704	貴田岡 研究室 705	佐藤(寿) 研究室 706	生島 研究室 707	研究室 708	非常口	奥山 研究室 709	高橋 研究室 710	金 研究室 711	研究室 712	プロジェクト室 713	荒 研究室 714
		会計学講座 資料室 715	福富 研究室 716	経営学講座 資料室 717	(国際セ) ユースト 研究室 718	根建 研究室 719	合同研究室 720	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	クスネットワーク 研究室 721	合同研究室 722	稲村 研究室 723	三家本 研究室 724	階段		
6階	非常口	朱 研究室 601	プロジェクト室 602	吉田 研究室 603	熊沢 研究室 604	(食農) 林 研究室 605	プロジェクト室 606	食農 プロジェクト 室 607	コピー室 608	非常口	合同研究室 609	<教育推進> 高森 研究室 611	マカースランド 研究室 612	研究室 613	経済分析講 座資料室 614	
		(食農) 小山 研究室 615	大川 研究室 616	末吉 研究室 617	佐野 研究室 618	(CFDC) 高際 研究室 619	合同研究室 620	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	グンケフアンク ルン 研究室 621	研究室 622	研究室 623	伊藤 研究室 624	階段		
5階	非常口	演習室 501			演習室 502			合同研究室 503			非常口	院 生 研究室 504	院 生 談話室 505	院 生 研究室 506		
		演習室 507	演習室 508	演習室 509	プロジェクト室 510	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	院 生 研究室 511	院 生 研究室 512	院 生 研究室 513	院 生 研究室 514	階段				
4階	非常口	演習室 401	演習室 402	演習室 403	演習室 404	非常口	演習室 405	演習室 406	演習室 407							
	行政政策学類棟へ	演習室 408	演習室 409	演習室 410	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	演習室 411	ゼミ生用ロッカールーム 412	階段							
3階	非常口	地域未来 デザインセ ンター 研究室 301	副理事・ 事務局 次長室 302	地域未来 デザインセ ンター 等 会議室 303	<教育推進> 加藤 研究室 304	松川 資料 準備室 305	研究・地域連携担 当 理事室 306	非常口	<教育推進> 鈴木(あ) 研究室 307	食農学類 後援会室 308	食農プログラム プロジェクト室 309	<教育推進> 千葉 研究室 310	<キャリア> 石井 研究室 311			
	行政政策学類棟へ	研究振興課 312				地連 研振 資料室 313	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	<教育推進> 前川 研究室 314	<教育推進> 鈴木(敦) 研究室 315	<教育推進> 久保田 研究室 316	<教育推進> 近澤 研究室 317	階段			
2階	非常口	信陵ラウンジ100 201	学類 スタッフ室 202	第2会議室 203	教員控室 204	非常口	非常勤講師 控室 205	応接室 206	学類長室 207	第1会議室 208	準備室 209	大会議室 210		非常口		
	行政政策学類棟へ	信陵自習室 211	行政・経済学類支援室 212		印刷室 213	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	文書庫 214	高商・学部 資料室 215	文書庫 216	階段	機械室 217	EHP方式			
1階	非常口	保存書庫 101	スタジオ兼倉庫 102	専務室 103	玄関	演習室 104	プロジェクト室 105	演習室 106	プロジェクト室 107	プロジェクト室 108	非常口					
		機械室 109	電気室 110	経済学会室 111	男子休業室 112	階段	エレベーター だれでもトイレ 便所 男	演習室 113	演習室 114	階段	プロジェクト室 115	<理>サウンド スクープ研究室 116	EHP方式			

共生システム理工学類棟

9階

天文台
理 901

8階

気象観測室 801
EV機械室 802



階段	学類共通実験室 701	唐島田龍之介 研究室 702	学類 実験室(1) 703	学類 実験室(2) 704	鈴木昭夫 研究室 705	W C W C エレベーター	階段	プロジェクト 室 706	プロジェクト 室 707	都市計画 演習室 708	川崎興太 研究室 709	杉森大助 研究室 710	寛宗徳 研究室 711	生産・サービ スシステム 演習室1 712	階段
7階	713	714	理科教育学 実験室 715	理科教育学 演習室 716	平中宏典 研究室 717	プロジェクト室 718	生産・サービ スシステム 研究室2 719	植物生態学 演習室 720	水澤玲子 研究室 721	植物生態学 実験室 722	都市計画 研究室 723	724	生物工学研究室 725		

階段	心理学第2 実験室 601	実験心理学 研究室 602	地質学 第1研究室 603	生物圏 環境解析 第1研究室 604	塘 忠顕 研究室 605	生物圏 環境解析 第3研究室 606	W C W C エレベーター	階段	兼子伸吾 研究室 607	環境経済シ ステム研究 室2 608	内海哲史 研究室 609	高原 円 研究室 610	西嶋大輔 研究室 611	環境経済シ ステム研究 室1 612	精神生理学 実験室 613	階段
6階	筒井雄二研究室 614		長橋良隆研究室 615		電子顕微鏡 ・蛍光X線 分析室 616	地質学 第2研究室 617	透過型電 子 顕微鏡室 618-3・618-4 618-1・618-2	生物圏 環境解析 第2研究室 618-1・618-2	保全生態学実験室 619	ネットワーク工 学 実験室 620	精神生理学 研究室 621	理622演習室 622				

階段	数理学第2研究室 501	中川和重 研究室 502	藤本勝成 研究室 503	笠井博則 研究室 504	505	W C W C エレベーター	階段	石川友保 研究室 506	物流システ ム 研究室 507	508	三浦一之 研究室 509	大沼亮 研究室 510	中山祐貴 研究室 511	中村勝一 研究室 512	階段
5階	数理学研究室 513						アルゴリズム研 究室 知識情報システ ム研究者 514	アルゴリズム研究室 知識情報システム研究室 515		データ工学研究室 インタラクション工学研究室 516		データ工学研究 室 インタラクション 工学 517			

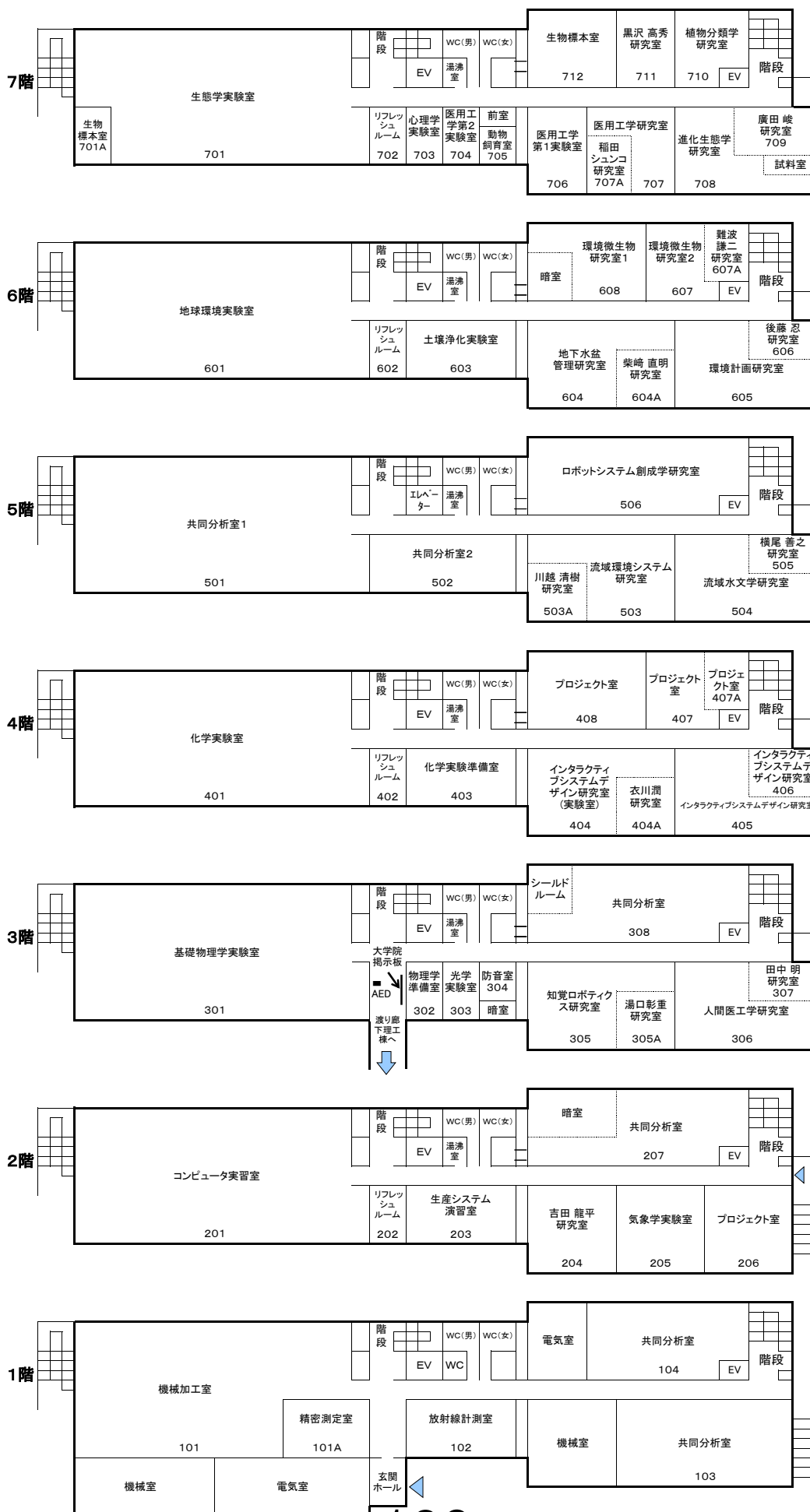
階段	生田博将研究室 401	理402 演習室 402	理403演習室 403	サリム サ ビル研究室 404	W C W C エレベーター	階段	ユビキタスインテリジェ ンス 研究室 405	技術経営戦略演習室 406	システムシミュ レーション 研究室1 407	システムシミュ レーション 研究室2 408	システムシミュ レーション 研究室3 409	階段
4階	生田博将実験室 410	山口克彦 研究室 411	物性物理学研究室 412		物質科学研究室 413	長谷川真吾 研究室 414	情報セキュリティ研究室 415	石岡 賢 研究室 416	技術経営戦略 研究室 416	樋口良之研究室 417		

階段	化学系学生 居室 301	高具慶隆 研究室 302-1	薬品 保管庫 303	先進材料工学・ 表面反応化学 第1実験室 304	大橋弘範 研究室 305	W C W C エレベーター	階段	先進材料工学研究室／表 面反応科学研究室 306	中村和正 研究室 307	先進材料工学・表面反応化学第2実験室 308		階段
3階	理工後援会 きびたき会 309	大山 大 研究室 310	分析化学 研究室 311	物質創成・分析化学実験室 312		物質創成 研究室 313	測定室 314	リフレッシュ ルーム 315	無機化学研究室 316	猪俣慎二 研究室 317	高安 徹 研究室 318-1・2	有機化学研究室 319

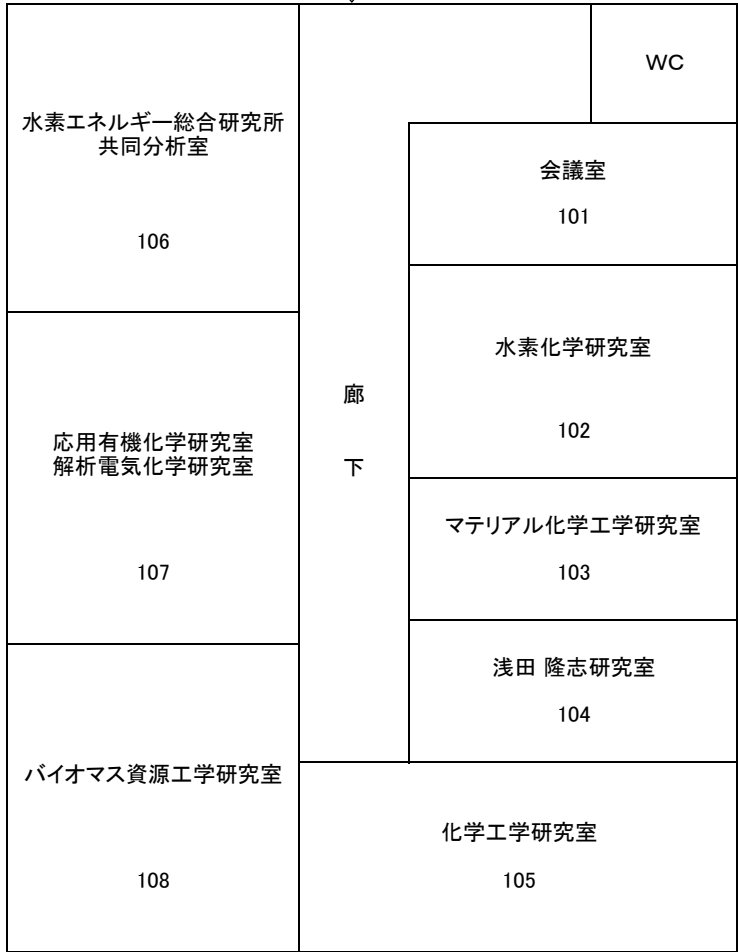
階段	共生システム理工学類 学類長室 201	島田邦雄 研究室 202	流体システム 工学研究室1 203	流体システム工学研究室2 204	W C W C エレベーター	階段	流体システム 工学研究室3 205	馬場一晴 研究室 206	理工 小会議室 207	インキュー ションルーム 208	インキュー ションルーム 209	プロジェクト 室 210	プロジェクト 室 211	階段
2階	理工大会議室 212		董 彦文 研究室 213	管理情報システム工学 研究室 214	宇宙論研究室 215	情野環 研究室 216	メカトロニクス研究室 217-1		高橋隆行研究室 217-2					

階段	理101演習室 101	理102演習室 102	理103演習室 103	W C W C エレベーター	階段			
1階	教員控室 104	印刷室 105	岩村振一郎 研究室 106	大樂武範 研究室 107	諸岡哲朗 研究室 108	倉庫 111 女子職員休憩室 109	サハ-室 112 男子職員休憩室 110	リフレッシュ ルーム 113

共生システム理工学類 研究実験棟

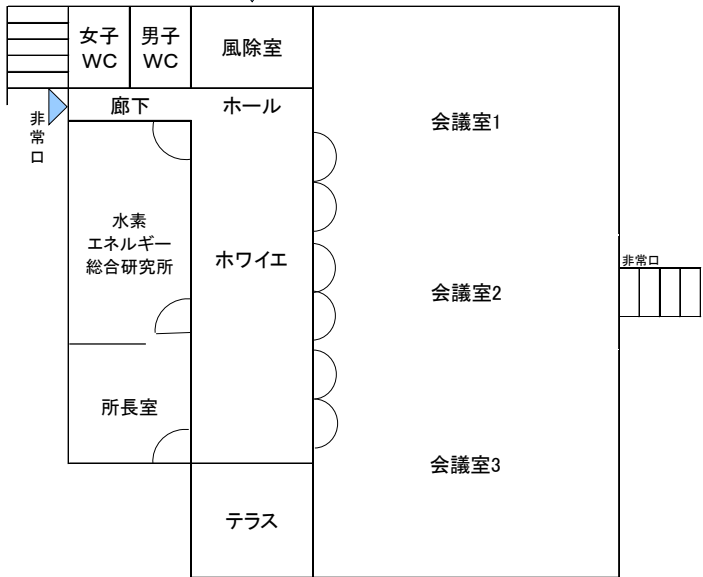


理工共通棟

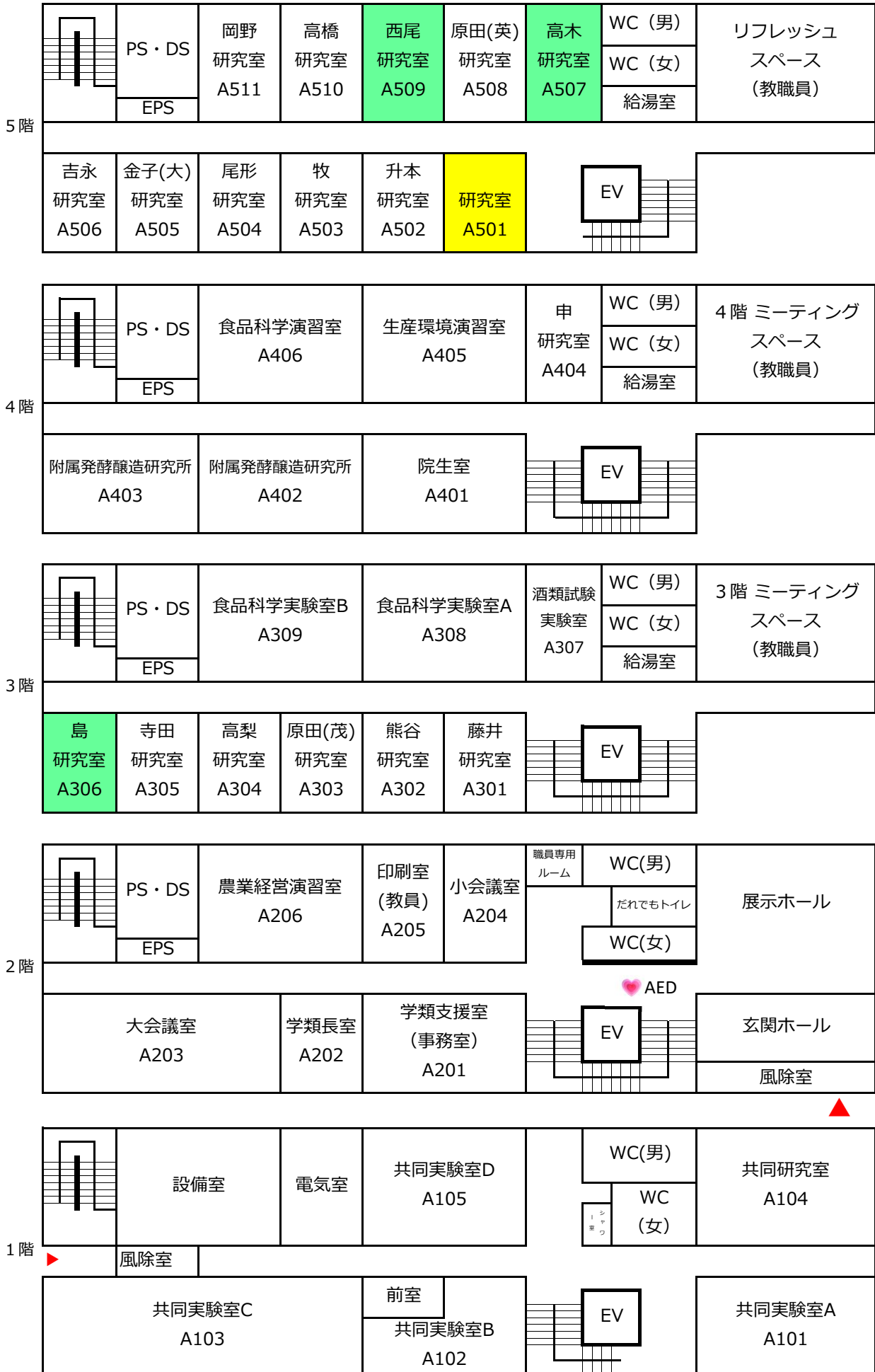


募金記念棟

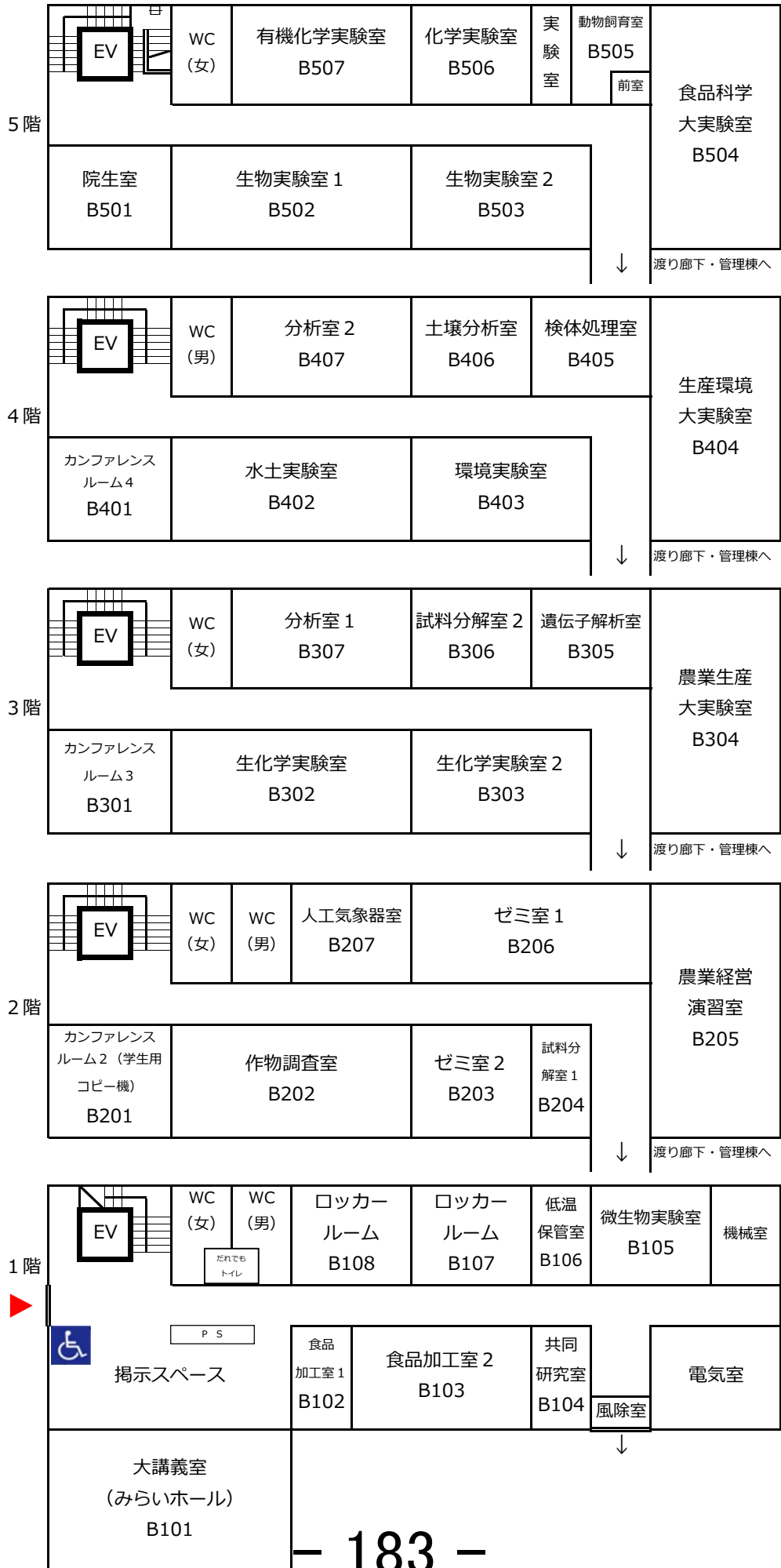
玄関 ▼



食農学類管理棟 (A部屋番号)

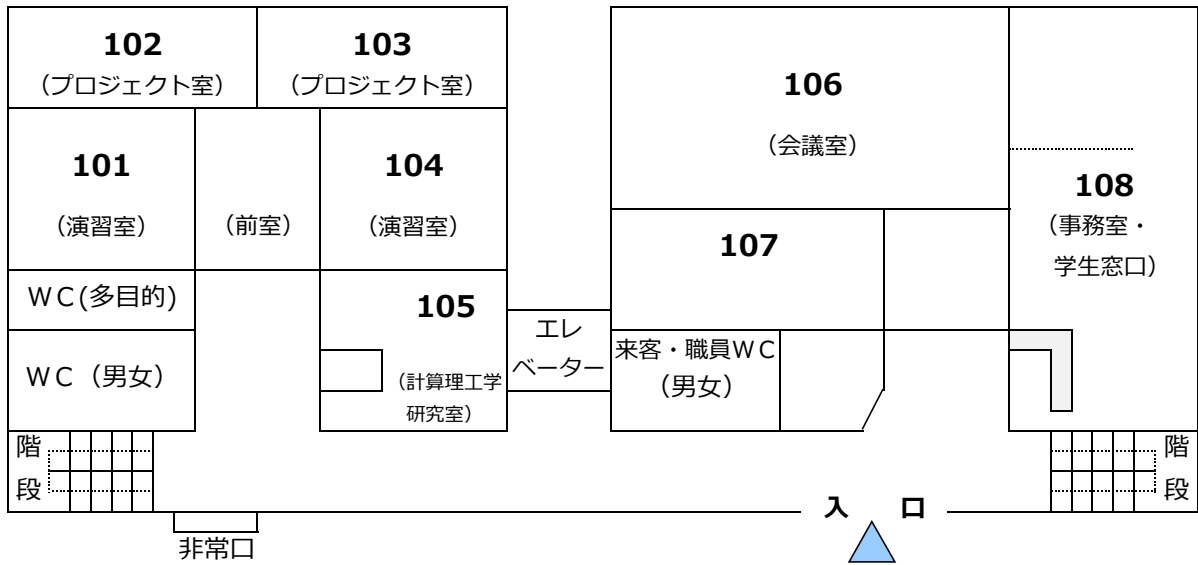


食農学類研究棟 (B 部屋番号)

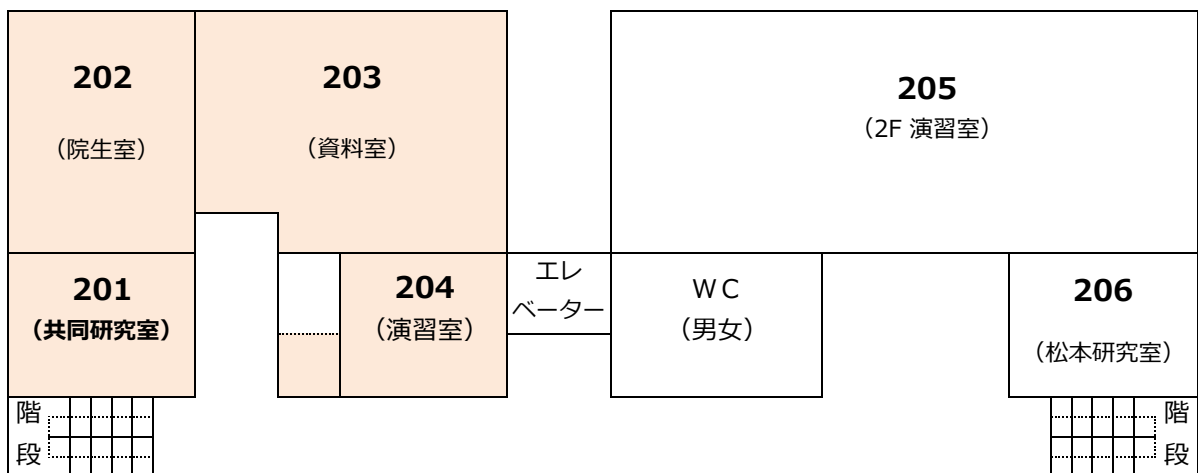


情報基盤センター配置図

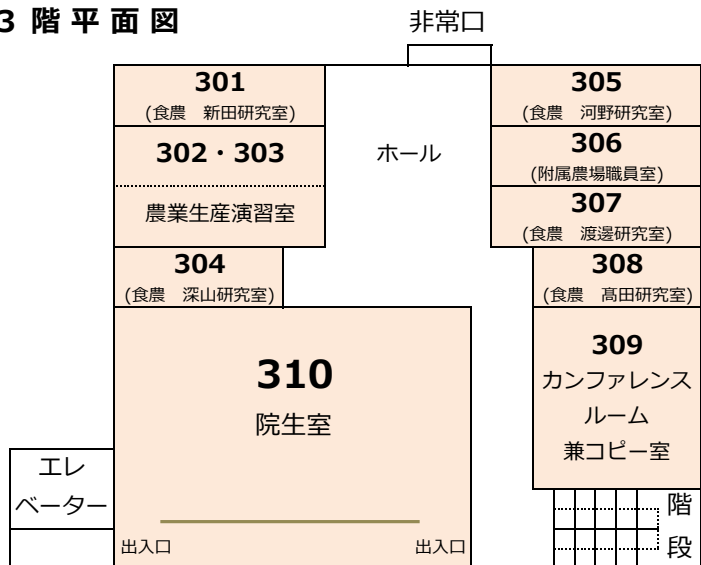
1 階平面図



2 階平面図

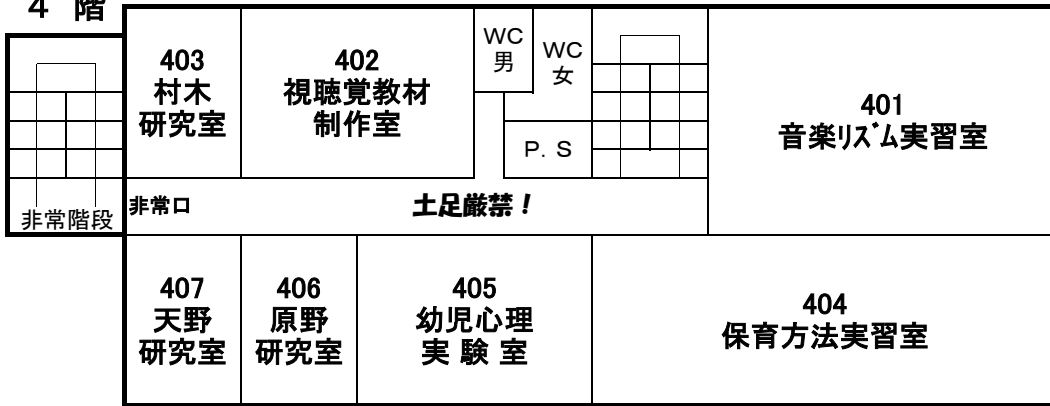


3 階平面図

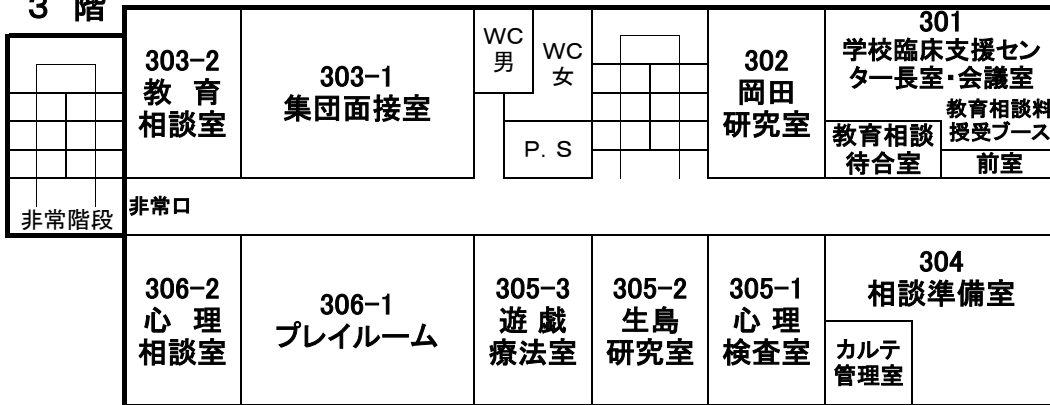


学校臨床支援センター棟 / 地域未来デザインセンター棟配置図

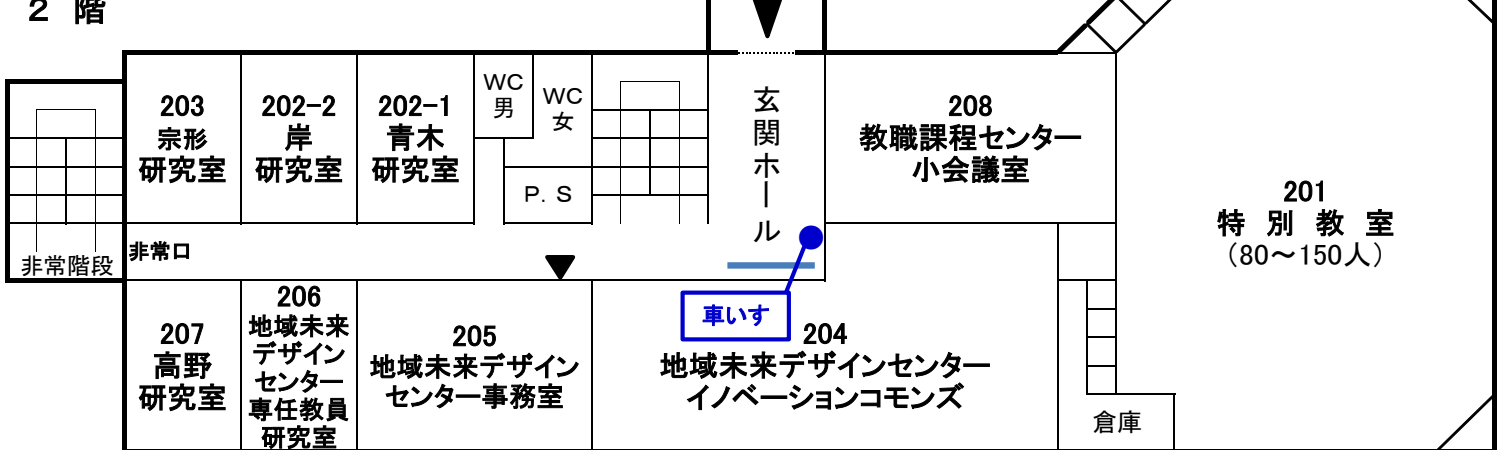
4 階



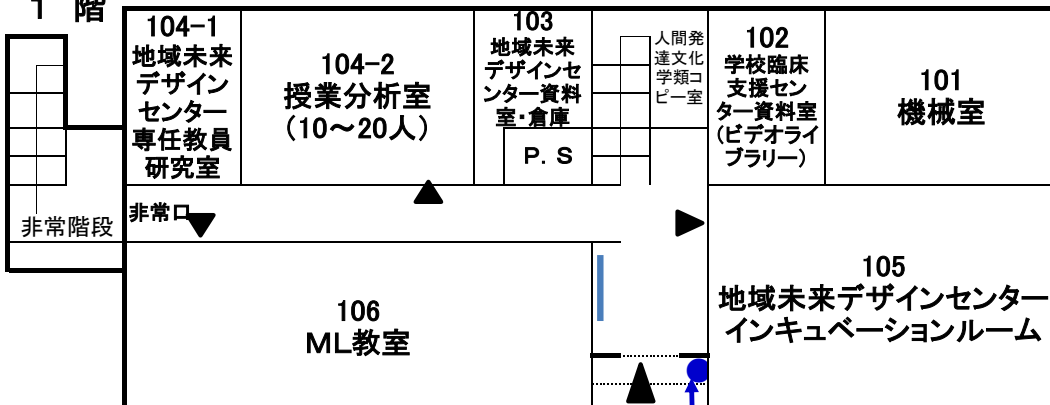
3 階



2 階



1 階



教育相談面接者専用駐車場



キャンパスマップ

自然に囲まれたキャンパス 自然とともに学ぶ

5学類・4研究科が1つのキャンパスで学んでいます。



福島大学は、福島日産自動車株式会社とネーミングライツ・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としています。